

ト爲シテ論ス、若シ行ハス、又賊ヲ分
 タサル者ハ、從ト爲シテ論シ、臨時主
 意シテ、盜ヲ爲ス者ヲ以テ首ト爲ス、
 其僑主、造意セス、同ク行ヒテ、賊ヲ分
 タス、及ヒ同ク行ハスシテ、賊ヲ分ツ
 者ハ、仍ホ從ト爲シテ論ス、若シ行ハ
 ス、賊ヲ分タサル者ハ、答二十、
 其強竊盜、及ヒ畧賣、和誘ノ賊タルヲ
 知テ、受ル者ハ、各賊ニ計ヘ、竊盜ニ準
 シ、從ト爲シテ論ス、其盜賊ヲ知テ、故
 サラニ買フ者ハ、買フ所ノ物ヲ計ヘ、
 坐賊ヲ以テ論ス、知テ爲ニ寄藏スル
 者ハ、故セラニ買フ者ニ、一等ヲ減ス、
 知ラサル者ハ、並ニ坐セス、

共謀爲盜

者ハ、直チニ典舖ヨリ追ス、
 第百五十八條 凡恐喝詐欺、枉法、不
 枉法ノ賊タルヲ知テ、受ル者ハ、
 坐賊ヲ以テ論シ、故買スル者ハ、坐
 賊ニ、一等ヲ減シ、寄藏スル者ハ、又
 一等ヲ減ス、知ラサル者ハ、坐セス、
 第百五十九條 凡盜賊タルヲ知テ、
 故買スル者、再犯以上ハ、一等ヲ累
 加シ、罪、懲役二年ニ止ル、其知テ寄
 藏シ、及ヒ牙保スル者モ、亦並ニ、一
 等ヲ累加シ、罪、懲役二年半ニ止ル、

凡共ニ強盜ヲ爲ント謀リ、其一人、臨
 時行ハスシテ、餘ノ行フ者謀ニ違ヒ、
 却テ、竊盜ヲ爲セハ、共謀ノ造意者ハ、
 行ハスト雖モ、賊ヲ分テハ、竊盜ノ首
 ト爲シ、餘人ハ、並ニ竊盜ノ從ト爲ス、
 若シ造意者、行ハス、又賊ヲ分タサル
 ハ、竊盜ノ從ト爲シ、餘人ノ行ハス、又
 賊ヲ分タサル者ハ、並ニ答四十、臨時
 主意シテ、盜ヲ爲ス者ヲ以テ、竊盜ノ
 首ト爲ス、
 其共ニ竊盜ヲ爲ント謀リ、其一人、臨
 時行ハスシテ、餘ノ行フ者、謀ニ違ヒ、
 却テ強盜ヲ爲セハ、造意者ハ、行ハス
 ト雖モ、賊ヲ分テハ、竊盜ノ首ト爲ス、
 造意者、行ハス、又賊ヲ分タス、及ヒ餘

改定律例卷一

人ノ行ハスシテ、賊ヲ分ツ者ハ、俱ニ竊盜ノ從ト爲シ、臨時主意シ、及ヒ共ニ強盜ヲ爲ス者ヲ以テ、首從ヲ分タス論ス、

人命律上

謀殺

凡人ヲ謀殺スルニ、造意者ハ、斬、從ニシテ、加功スル者ハ、絞、加功セサル者ハ、流三等、

若シ傷シテ死セサル、造意者ハ、絞、從ニシテ、加功スル者ハ、流三等、加功セサル者ハ、徒三年、

若シ謀テ已ニ行フト雖モ、未タ人ヲ

改定律例卷二

人命律

謀殺條例

第六十條 凡人ヲ殺サント謀リ、未タ行ハスト雖モ、謀狀、顯跡アル者首ハ、懲役百日、從ハ、懲役五十日、

第六十一條 凡謀殺、已行未行ノ罪犯、並ニ罪、死ニ至ラサル者、處斷シ訖レハ、親屬隣佑ニ、再犯ノ念ナキヲ、保證セシメ、始テ放還スル

傷セサル、造意者ハ、徒三年、從ハ、同ク行ハスト雖モ、杖一百、

其造意者ハ、並ニ身行ハスト雖モ、仍ホ首ト爲シテ論ス、從ニシテ行ハサル者ハ、各行ヒテ、加功セサル者ニ、一等ヲ減ス、

若シ因テ財ヲ得ル者ハ、強盜ニ同シク、首從ヲ分タス、罪ヲ論ス、

トヲ聽ス、若シ保人ナケレハ、獄則ニ照シテ、懲治監ニ入レ、悔過ノ日ヲ待チ、始メテ放還スルコトヲ聽ス、第六十二條 凡人ヲ殺サント謀リ、已ニ行フテ、其人、知覺奔逃シ、未タ傷ヲ受ケスト雖モ、失墜、及ヒ墮水等、奔脱ニ因テ、他所ニ死スル者、造意者ハ、懲役十年、從タル者ハ、懲役三年、若シ兇悍ニ迫ラレテ、當時失

ル者ハ、懲役十年、

第六十三條 凡人ヲ謀殺セント欲シテ、謀ヲ舉ル時、其謀ラル、ノ人、謀機ヲ知覺シテ、却テ謀者ヲ殺ス者ハ、故殺律ニ依リ、已ニ行フ時ニ

<p>五年二百 布告四號 テ謀殺本 屬長官律 申同改正 百三十二 以布告律 ヲ廢此律 例官設律 參照スヘ シ</p>									
<p>謀殺本屬長官 凡吏卒軍民、本屬ノ勅任長官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、流二等、已ニ傷スル者ハ、斬、已ニ殺ス者ハ、皆梟 若シ奏任長官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、流二等、已ニ傷スル者ハ、絞、已ニ殺ス者ハ、皆斬、</p>									
<p>臨ミ、却テ殺ス者ハ、罪人不拒捕而殺律ニ依リ、殺スノ時ニ臨ミ、却テ殺ス者ハ、捕吏格殺律ニ依リ、論スルヲ勿レ、 第百六十四條 凡嬰兒ヲ殺ス者ハ、各等親ニ照シ、謀故殺本條ニ依テ、科斷ス、若シ穩婆、囑託ヲ受テ殺ス者ハ、囑託スル者ト、同罪、 謀殺官吏律<small>原謀殺本屬長官律</small> 第百六十五條 凡勅任官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者、首ハ、懲役十年、從ハ、懲役七年、已ニ傷スル者、首ハ、斬、從ニシテ、加功スル者ハ、懲役終身、加功セサル者ハ、懲役十年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、</p>									

<p>若シ判任長官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、流一等、已ニ傷スル者ハ、絞、已ニ殺ス者ハ、皆斬、 其長官、及ヒ本屬ニ非ル者ハ、已ニ殺スト雖モ、凡人謀殺ニ依リ、首從ヲ分チ、罪ヲ科ス、</p>									
<p>若シ奏任官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者、首ハ、懲役七年、從ハ、懲役五年、已ニ傷スル者、首ハ、絞、從ニシテ、加功スル者ハ、懲役終身、加功セサル者ハ、懲役十年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、 若シ判任官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者、首ハ、懲役五年、從ハ、懲役二年、已ニ傷スル者、首ハ、絞、從ニシテ、加功スル者ハ、懲役終身、加功セサル者ハ、懲役十年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、 謀殺官吏條例 第百六十六條 凡判任官、勅任官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者、首ハ、懲役七年、從ハ、懲役五年、已ニ傷スル者、首ハ、絞、從ニシテ、加功スル者ハ、懲役終身、加功セサル者ハ、懲役十年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、</p>									

謀殺祖父母父母																				
凡祖父母、父母、及ヒ伯叔父、姑、兄、姉、若クハ外祖父母、夫、夫ノ祖父母、父母																				

役終身、加功セサル者ハ、懲役五年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、若シ奏任官ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者首ハ、懲役五年、從ハ、懲役三年、已ニ傷ムル者、首ハ、絞、從ニシテ加功スル者ハ、懲役終身、加功セサル者ハ、懲役五年、已ニ殺ス者ハ、皆斬、																				
第百六十七條 凡奏任官、勅任官ヲ謀殺スル者ハ、判任官、奏任官ヲ謀殺スルト、罪同シ、其勅任官、奏任官ヲ謀殺シ、及ヒ奏任官、判任官ヲ謀殺スル者ハ、凡人謀殺ヲ以テ論ス、																				
謀殺祖父母父母條例																				
第百六十八條 凡祖父母、父母、及ヒ伯叔父、姑、兄、姉、若クハ外祖父母、																				

三

十年四十
號布告ヲ
以テ若シ
五等親云
々ノ一項
ス内ヲ改
正

ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、皆斬、已ニ殺ス者ハ、皆梟、三等親以下ノ尊長ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者首ハ、流一、等從ハ、徒三年、已ニ傷ムル者、首ハ、絞、從ハ、加功スル者、加功セサル者、並ニ凡人ト同ク、罪ヲ論ス、已ニ殺ス者ハ、皆斬、																				
若シ五等親以上ノ尊長、卑幼ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、各關、毆、律内、尊長、故、殺、卑、幼、律ニ依リ、二等ヲ減ス、已ニ傷ムル者ハ、一等ヲ減ス、已ニ殺ス者ハ、故、殺、律ニ依ル、																				
謀殺家長																				
凡奴婢、家長ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、流三等、已ニ傷ムル者ハ、斬、已ニ																				

夫、夫ノ祖父母、父母ヲ謀殺スルニ、已ニ行フ者ハ、皆斬ニ處スル律ヲ改メ、皆絞、																				
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

殺ス者ハ、皆梟
 若シ雇人、家長ヲ謀殺スルニ、已ニ行
 フ者ハ、流一等、已ニ傷スル者ハ、絞、已
 ニ殺ス者ハ、皆斬、
 殺ニ死姦夫
 凡妻妾、人ト姦通スルニ、本夫、姦所ニ
 於テ、親ヲ姦夫姦婦ヲ獲テ、即時ニ殺
 ス者ハ、論スルコト勿レ、若シ本夫、止マ
 姦夫ヲ殺ス者ハ、姦婦ハ和姦律ニ依
 リ、罪ヲ科ス、止マ姦婦ヲ殺ス者ハ、姦
 夫ハ、流三等、本夫ハ、並ニ論スルコト勿
 レ、
 其妻妾、姦ニ因リ、同謀シテ、本夫ヲ殺
 ス者ハ、梟、姦夫ハ、斬、若シ姦夫、自ラ本

殺死姦夫條例
 第六十九條 凡姦夫、自ラ本夫ヲ
 殺ス者ハ、姦婦、情ヲ知ラスト雖モ、
 絞、改テ、懲役終身、
 第七十條 凡姦婦、自ラ本夫ヲ殺
 ス者、姦夫、果シテ情ヲ知ラサレハ、
 止マ姦罪ヲ科ス、
 第七十一條 凡姦婦、過テ悔ヒ、拒
 絶スル後、姦夫、姦好ノ續キ難キヲ
 憤リ、本夫及ヒ祖父母、父母ヲ殺死

夫ヲ殺ス者ハ、姦婦、情ヲ知ラスト雖
 モ、絞
 殺ニ一家三人

スル者、拒絶ノ證據明白ナレハ、婦
 女ハ、止マ姦罪ヲ科ス、
 第七十二條 凡姦夫、姦婦姦所ニ
 於テ、本夫ニ撞見セラレ、直ニ脱逃
 スルニ、本夫、即時逐テ門外ニ至リ
 殺ス者ハ、姦所ト同シ、若シ姦所、及
 ヒ即時ニ非スシテ、姦夫ヲ殺傷スル
 者、審糾スルニ、姦情確實ナレハ、鬪
 殺傷ニ、二等ヲ減ス、止マ姦婦ヲ殺
 傷スル者、折傷以上ハ、鬪殺傷ニ、五
 等ヲ減ス、姦夫ハ、和姦本條ニ依ル、
 若シ姦情曖昧、確據ナクシテ、男婦
 ヲ殺傷スル者ハ、各謀故鬪殺傷本
 條ニ依ル、
 殺ニ一家三人條例

凡謀殺、故殺、放火、行盜シテ、一家ノ死罪ニ非サル、三人以上ヲ殺シ、若クハ人ヲ支解スル者ハ、皆梟、

魔魅人

凡魔魅ヲ行ヒ、符書ヲ造リ、呪詛シテ、人ヲ殺サント欲スル者ハ、各謀殺ヲ以テ論ス、止タ人ヲ疾苦セシメント欲スル者ハ、謀殺已行未傷ニ、二等ヲ減ス、

毒藥殺人

凡毒藥ヲ用ヒテ、人ヲ殺シ、及ヒ藥シテ、死セサル者ハ、各謀殺律ニ依テ論ス、買テ未タ用ヒサル者ハ、徒二年半、

第四百二十三條 凡一家ノ死罪ニ非サル、三人以上ヲ殺スト稱スルハ、雇

人ト雖モ、同居ニ係ル者、及ヒ同居セスト雖モ、父子兄弟等、至親ニ係ル者皆是ナリ、

毒藥殺人條例

第四百七十四條 凡人ヲ殺スノ心ナシト雖モ、毒藥ヲ用ヒテ、故ラニ、疾苦セシムル者ハ、懲役八十日、

情ヲ知テ、毒藥ヲ賣ル者ハ、同罪、罪流三等ニ止ル、知ラサル者ハ、坐セス、

鬪毆及故殺

凡鬪毆シテ、人ヲ殺ス者ハ、手足他物金刃ヲ間ハス、並ニ絞、故殺スル者ハ、斬、
若シ同ク謀リ、共ニ人ヲ毆チ、因テ死ニ致スニ、手ヲ下シ、致命傷ヲ爲ス者ハ、絞、原謀者ハ、共ニ毆ト否ヲ問ハス、流三等、餘人ハ、手ヲ下スト雖モ、致命傷ヲ爲サ、ル者ハ、杖九十、

鬪毆及故殺條例

第四百七十五條 凡鬪毆、人ヲ殺ス者ハ、絞、改テ懲役終身、

第四百七十六條 凡亂毆シテ、人ヲ殺シ、傷ノ先後輕重ヲ知ラサル者、原謀アレハ、原謀者ヲ、懲役終身ニ處ス、若シ原謀、共ニ毆サレハ、初鬪者ヲ懲役終身ニ處シ、原謀者ハ、懲役十年、餘人ハ、並ニ、懲役九十日、

第四百七十七條 凡亂毆シテ、人ヲ殺シ、先後輕重ヲ知ラサル者、若クハ、原謀、同夥、共ニ毆テ、各致命重傷ヲ爲ス者、一人、實ニ罪ヲ畏レテ自盡シ、

及ヒ已ニ獄ニ在リ、或ハ、押解中途ニ在リテ、病斃スル者アレハ、一等ヲ減シ、懲役十年ニ處ス、

第七十八條 凡同謀共ニ、人ヲ毆テ、傷皆致命ニシテ、即時身死スレハ、後ニ手ヲ下シ、傷ヲ成スコ重キ者ヲ、懲役終身ニ處ス、若シ時日ヲ經テ、身死スルニ至ル者ハ、何傷、死ニ致スコヲ究明シテ、傷ヲ成スコ重キ者ヲ、懲役終身ニ處ス、若シ原謀、共ニ毆テ、亦致命重傷ヲ爲スニ係ラハ、原謀者ヲ、懲役終身ニ處ス、

第七十九條 凡人ト爭論鬪毆シテ、臨時殺意ヲ起シ、人ヲ殺ス者ハ、故殺ニ坐ス、若シ爭鬪ノ後、仍ホ餘怒

屏ニ去服食

凡人ノ服用、飲食ノ物ヲ屏去シ、若クハ物ヲ以テ人ノ耳鼻、及ヒ孔竅中ニ置キ、傷損スル所アル者ハ、各鬪毆傷ニ、一等ヲ加ヘ、罪、流ニ等ニ止ル、因テ死ニ至ル者ハ、絞、

若シ故サラニ、蛇蝎毒蟲ヲ用ヒ、人ヲ咬傷セシムル者ハ、鬪毆傷ニ、一等ヲ加ヘ、罪、流ニ等ニ止ル、因テ死ニ致ス者ハ、斬、

屏去服食條例

第七十條 凡人ノ服用、飲食ノ物ヲ屏去シ、若クハ、物ヲ以テ人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ置キ、因テ死ニ至ル者ハ、絞、改テ懲役終身、若シ謀故ノ情アル者ハ、各本條ニ依ル、

私和人命一	移地界內死屍六條	同行知有謀害一條	鬪毆律計二十六條	鬪毆七條	宮殿內忿爭一條	毆官吏三條	毆受業師一條	毆家長二條	毆夫一條	毆傷妻妾一條	毆三等親以下尊長二條	毆二等親尊長二條
私和人命一	移地界內死屍六條	同行知有謀害一條	鬪毆律計二十六條	鬪毆七條	宮殿內忿爭一條	毆官吏三條	毆受業師一條	毆家長二條	毆夫一條	毆傷妻妾一條	毆三等親以下尊長二條	毆二等親尊長二條

毆祖父母父母一	妻妾與夫親屬相毆	父祖被毆	罵詈律	罵人	罵本屬長官	罵家長	罵有服尊長	罵祖父母父母	訴訟律	越訴	承告不理	聽訟回避	誣告	干名犯義
毆祖父母父母三條	妻妾與夫親屬相毆一條	父祖被毆二條	罵詈律計五條	罵官吏四條	罵祖父母父母一條	訴訟律計三條							誣告一條	干名犯義一條

子孫違教	子孫違教一條
教唆詞訟	
官吏詞訟	
受贓律	受贓律計四條
官吏受財	官吏受財一條
坐贓致罪	
事後受財	事後受財一條
聽許財物	
以財請求	以財請求一條
官吏求借財物	
家人求索	
因公科歛	
尅留盜賊	
受外國人餽送	受外國人餽送一條

新律綱領卷四

人命律下

戲殺傷人

凡戲ニ因テ、人ヲ殺傷スル者ハ、鬪殺傷ニ、二等ヲ減ス、若シ高ニ乘リ、危ヲ履ミ、因テ相戲レ殺傷スル者ハ、一等ヲ減ス、

誤殺傍人

凡鬪毆シテ、誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ、鬪殺傷ニ準シテ論ス、罪流ニ等ニ止ル、

其謀殺故殺ヲ行ヒ、誤テ傍人ヲ殺ス者ハ、故殺ヲ以テ論シ、傷スル者ハ、仍水鬪毆ヲ以テ論ス、

詐稱殺人

改定律例

凡津河、水深ク泥濘ナルヲ、平淺ト詐稱シ、及ヒ橋梁渡船、朽漏ナルヲ、牢固ト詐稱シ、人ヲ過渡セシメ、因テ陷溺死傷ニ致ス者ハ、開殺傷ヲ以テ論ス、

過失殺傷人

凡過失ニテ、人ヲ殺傷スル者ハ、各開殺傷ニ準シ、法ニ依リ、收贖シテ、其家ニ給付ス、

過失殺傷人條例

第百八十一條 凡過失殺傷收贖ハ、官吏華士族、平民ヲ分タス、一體ニ、本圖ニ照シ、追シテ、其家ニ給ス、
第百八十二條 凡一人、二人ヲ過失殺スル者ハ、例ニ照シ、金八十圓ヲ收贖シテ、均シク二人ニ分給シ、二人、一人ヲ過失殺スル者ハ、金四十圓ヲ二人ニ分追シテ、一人ニ給付ス、二人、二人ヲ傷シ、二人、一人ヲ傷スル者モ、亦此例ニ依ル、

毆死有罪妻妾

凡妻妾、夫ノ祖父母、父母、ヲ毆罵スルニ因テ、夫、官ニ告ケス、擅ニ殺ス者ハ、杖九十、祖父母、父母、ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、
若シ夫、罪アル妻妾ヲ毆罵シ、妻妾、因テ自死スル者ハ、論スルヲ勿レ、

殺奴婢

凡奴婢、死罪ヲ犯スニ、家長、官ニ告ケス、擅ニ殺ス者ハ、杖七十、
若シ罪ナキニ、毆殺スル者ハ、徒三年、故殺スル者ハ、流二等、
若シ家長、雇人ヲ毆ツハ、折傷ニ非ルハ、論スルヲ勿レ、折傷以上ハ、凡人ニ三等ヲ減ス、因テ死ニ至ル者ハ、流一

毆死有罪妻妾條例

第百八十三條 凡妻妾、夫ノ祖父母、父母ヲ、毆罵スルニ因テ、夫、官ニ告ケス、擅ニ殺ス者ハ、杖九十改テ、懲役一年、其傷スルニ因テ擅ニ殺ス者ハ、懲役九十日、

改正殺雇人律原殺奴婢律

第百八十四條 凡雇人、死罪ヲ犯スニ、家長、官ニ告ケス、擅ニ殺ス者ハ、懲役八十日、
第百八十五條 凡家長、雇人ヲ毆チ、死ニ至ル者ハ、流一等、改テ懲役十年、

等、故殺スル者ハ、絞

將屍圖賴

凡祖父母、父母、子孫ヲ故殺シ、及ヒ家
長、奴婢ヲ故殺シテ、人ニ圖賴スル者
ハ、各本罪ニ、一等ヲ加フ、

若シ子孫及ヒ奴婢、已ニ死スル、祖父
母、父母、及ヒ家長ノ屍ヲ將テ、人ニ圖
賴スル者ハ、徒三年、二等親ノ尊長ノ
屍ヲ將テスル者ハ、徒二年、三等親以
下ノ尊長ハ、各一等ヲ遞減ス、

若シ尊長、已ニ死スル卑幼、及ヒ他人
ノ屍ヲ將テ、人ニ圖賴スル者ハ、杖八
十、

其官ニ告ル者ハ、誣告律ニ依テ罪ヲ論
ス、因テ財物ヲ詐リ取ル者ハ、贓ニ計

將屍圖賴條例

第百八十六條 凡雇人、已ニ死スル
家長ノ屍ヲ將テ、人ニ圖賴スル者
ハ、懲役百日、

ハ、竊盜ニ準シ、重キニ從テ、之ヲ科ス、

弓銃殺傷人

凡故ナク、弓箭銃砲ヲ放チ、及ヒ劔刃
ヲ挺ク者ハ、人ヲ傷セスト雖モ、杖六
十、傷スル者ハ、凡鬪傷ヲ以テ論ス、因
テ死ニ致ス者ハ、絞、士族卒ハ、破廉恥
甚者ヲ以テ論ス、

改正弓銃殺傷人律

第百八十七條 凡故ナク、弓箭銃砲ヲ
放チ、及ヒ劔刃ヲ挺ク者ハ、人ヲ傷
セスト雖モ、杖六十、改テ懲役三十
日、傷スル者ハ、凡鬪毆傷ヲ以テ論
ス、因テ死ニ致ス者ハ、絞、改テ懲役
終身、

第百八十八條 凡曠野無人ノ地ニ於
テ、故ナク、弓銃ヲ放チ、因テ人ヲ殺
傷スル者ハ、過失殺傷ヲ以テ論ス、
第百八十九條 凡弓銃ヲ放チ、及ヒ劔
刃ヲ挺ク者、華士族ハ、破廉恥甚ヲ
以テ論スル律ヲ改メ、一體ニ鬪刑
ニ處ス、

車馬殺傷人

凡故ナク街市ニ車馬ヲ馳驟シ、因テ人ヲ傷スル者ハ、凡鬪傷ニ一等ヲ減ス、死ニ致ス者ハ、流ニ等、若シ馬驚逸シ、或ハ公務ノ急速ニ因リ馳驟シテ、人ヲ殺傷スル者ハ、過失ヲ以テ論シ、法ニ依リ收贖シテ、其家ニ給付ス、

車馬殺傷人條例

第九十條 凡深山、曠野、猛獸ノ往來スル處ニ於テ、阮穿ヲ穿作シ、及ヒ窩弓ヲ安置シテ、望竿、及ヒ抹眉索ヲ立サル者ハ、懲役四十日、以テ人ヲ傷スル者ハ、鬪毆傷ニ四等ヲ減ス、減シテ本罪ヨリ輕キ者ハ、本罪ニ依テ論シ、死ニ致ス者ハ、懲役二年、仍ホ埋葬金二十五圓ヲ追シテ、死者ノ家ニ給付ス、若シ深山曠野ニ非スシテ人ヲ殺傷スル者ハ、車馬殺傷人律ニ依ル、

六年九月十日
五號布告
ヲ以テ協
弓殺傷人
律ヲ創定
スヘシ

庸醫殺傷人

凡庸醫、鍼藥ヲ用ヒ、誤テ本方ニ依ラス、因テ死ニ致ス者ハ、過失殺ヲ以テ論シ、法ニ依リ收贖シテ、其家ニ給付シ、醫ヲ行フヲ許サス、若シ故サラニ本方ニ違ヒ、疾病ヲ詐療シテ、財物ヲ取ル者ハ、賊ニ計ヘ、竊盜ニ準シテ論ス、因テ死ニ致シ、及ヒ事ニ因テ、故カラニ藥ヲ用ヒ、人ヲ殺ス者ハ、斬

威逼致死

凡戶婚田宅、錢債等ノ事ニ因テ、人ヲ

其雇工錢ノ全數ヲ領置シ、食費ヲ除キ、餘ル所ノ雇錢、金二十五圓ニ滿レハ、死者ノ家ニ給シ仍ホ役限ハ、本法ヲ盡ス、

孤獨貧困ニシテ、親屬ノ保管スル者ナケレハ、鎖鑰ヲ禁獄ニ換ヘ、埋葬金ヲ追セス、

謀同死條例

凡姦夫姦婦、同死ヲ商謀スルニ、姦婦已ニ死シ、姦夫未タ死セス、姦夫已ニ死シ、姦婦未タ死セサル者ハ、並ニ流三等、

若シ同ク謀リ、藥ヲ用ヒテ墮胎スルニ、姦婦身死スル者、姦夫ハ、流三等、

若シ同ク謀リ、藥ヲ用ヒテ墮胎スルニ、姦婦身死スル者、姦夫ハ、流三等、

第百九十八條 凡姦夫、姦婦、同ク謀リ、墮胎スルニ、姦婦身死スル者姦夫ハ、流三等、改テ懲役二年、

私和人命條例

凡祖父母、父母、及ヒ夫、若クハ家長、人ニ殺サレテ、子孫、妻妾、及ヒ奴婢、私和スル者ハ、徒三年、二等親ノ尊長、人ニ殺サレ、私和スル者ハ、徒二年、三等親以下、各一等ヲ遞減ス、

第百九十九條 凡姦夫、姦婦、同死ヲ謀リ、傷スト雖モ、人ニ阻救セラレ、未タ死セサル者ハ、鬪毆傷ニ、一等ヲ減ス、

役七十日、

其卑幼、人ニ殺サレテ、尊長私和スル者ハ、各等親ニ依テ、卑幼ノ罪ニ、二等ヲ減ス、若シ妻妾、子孫、及ヒ子孫ノ婦、奴婢、人ニ殺サレ、祖父母、父母、夫、家長、私和スル者ハ、杖八十、財ヲ受ル者ハ、並ニ賊ニ計ヘ、竊盜ニ準シ、重キニ從テ、之ヲ科ス、常人、他人ノ爲メニ、人命ヲ私和スル者ハ、杖六十、財ヲ受ル者ハ、賊ニ計ヘ、枉法ニ準シ、重キニ從テ、之ヲ科ス、

移地界内死屍

凡地界内ニ、死屍アルヲ、里長、地主、鄰佑人、官司ニ申報セス、輒ク他所ニ移

移地界内死屍條例

第百一一條 凡墳塚ヲ發掘シテ、棺槨ヲ見ハス者ハ、懲役一年、已ニ開テ

シ、及ヒ埋藏スル者ハ、杖七十、水中ニ棄ル者ハ、杖一百、因テ衣服ヲ盜取スル者ハ、賊ニ計ヘ、竊盜ニ準シ、重キニ從テ論ス、罪、流ニ等ニ止ル、	屍ヲ見ハス者ハ、懲役二年、屍ヲ殘毀スル者ハ、懲役五年、	第二百二條 凡地界内ニ死屍アルヲ、輒ク水中ニ棄ルト雖モ、未タ屍ヲ失ハサル者、律ニ照シテ、一等ヲ減シ、懲役九十日、	第二百三條 凡子孫ノ死屍ヲ棄ル者ハ、懲役七十日、	第二百四條 凡變死ニ係ル屍ハ、官ノ檢視ヲ經ルニ非レハ、私擅ニ埋葬スルヲ聽サス、違フ者ハ、懲役四十日、	第二百五條 凡人ヲ押解シ、中途ニ在リテ病斃スルヲ、輒ク棄去ル者ハ、移地界内死屍律ニ、一等ヲ加ヘ、
---	-----------------------------	--	--------------------------	--	--

同行知有謀害

凡同伴人、他人ヲ謀害セント欲スルヲ知テ、即チ阻當救護セズ、及ヒ害セラ、ルノ後、官司ニ首告セサル者ハ、杖九十、

鬪毆律

鬪毆

凡鬪毆、手足ヲ以テ人ヲ毆チ、傷ヲ成サ、ル者ハ、笞二十、傷ヲ成シ、及ヒ瓦石、棍棒等ヲ以テ人ヲ毆チ、傷ヲ成サ、ル者ハ、笞三十、傷ヲ成ヌ者ハ、笞四

懲役八十日

第二百六條 凡地界内ニ、棄兒アリ、及ヒ病ニ因リテ、昏倒スルヲ、輒ク他所ニ移ス者ハ、懲役七十日、

同行知有謀害條例

第二百七條 凡同行謀害アルヲ知テ、阻當救護セスト雖モ、已ニ害セラ、ル、後、首告スル者ハ、其罪ヲ免ス、

鬪毆律

鬪毆條例

第二百八條 凡鬪毆成傷ト稱スルハ、毆ツ所ノ皮膚、色、青赤ニシテ、腫起スル者ヲ謂フ、刀ヲ持シ人ヲ傷スト雖モ、其背柄ヲ以テ毆チ、刃ヲ用

十、血、其目中ヨリ出テ、及ヒ内損シテ
吐血スル者ハ、杖八十、
人ノ一指一齒ヲ折リ、一目ヲ眇ニシ、
耳鼻ヲ抉毀シ、若クハ骨ヲ破リ、及ヒ
湯火ヲ以テ、人ヲ傷スル者ハ、杖一百、
穢物ヲ以テ、口鼻内ニ灌入スル者モ、
罪亦同、一指二齒以上ヲ折リ、及ヒ髮
ヲ髡スル者ハ、徒一年、人ノ肋ヲ折リ、
兩目ヲ眇ニシ及ヒ又傷スル者ハ、徒
二年、
人ノ肢體ヲ折跌シ、及ヒ一目ヲ瞎シ、
癱疾ニ致ス者ハ、徒三年、
兩目ヲ瞎シ、兩肢ヲ折リ、及ヒ舊患ア
ルヲ毆チ、因テ篤疾ニ至ラシメ、若ク
ハ舌ヲ斷チ、陰陽ヲ毀敗スル者ハ、流

ヒサレハ、仍ホ槌棒ト同ク論ス、
第二百九條 凡鬪毆、髮、方寸以上ヲ
抜ク者ハ、懲役四十日、若シ一時昏
絶セシムル者ハ、懲役八十日、
第二百十條 凡二人、共ニ人ヲ毆チ、
各一目ヲ瞎シ、盲ニ至ラシムルニ、
先キニ毆ツ者ハ、癱疾律ニ依リ、懲
役三年、後ニ毆ツ者ハ、篤疾律ニ依
リ、懲役十年、仍ホ養贍金ヲ、二人ニ
分追ス、若シ原謀者アレハ、俱ニ毆
ツト、否トヲ問ハス、後ニ毆ツ者ニ、
一等ヲ減ス、
第二百十一條 凡婦女ヲ毆チ、墮胎
セシムル者ハ、懲役二年、
第二百十二條 凡鬪毆、人ヲ殺スニ、

三等、仍ホ金二十兩ヲ追給シテ、養贍
セシム、
其同謀共毆シテ、人ヲ傷スル者ハ、各
手ヲ下シ、重傷ヲ成ス者ヲ以テ、重罪
ニ坐シ、原謀者ハ、手ヲ下スト雖モ、傷
輕ケレハ、一等ヲ減ス、若シ毆ニ因テ、
互ニ相毆傷スル者ハ、各其傷ノ輕重ヲ
驗シテ、罪ヲ定ム、後ニ手ヲ下シテ、理
直ナル者ハ、本罪ニ二等ヲ減ス、篤疾
ニ至ラシムル者ハ、仍ホ金二十兩ヲ
追給シテ、養贍セシム、死ニ至ル者ハ、
流三等、埋葬金二十五兩ヲ追給ス、兄
姉伯叔ヲ毆ツ者ハ、本律ニ依リ、後ニ
手ヲ下シテ、理直ナル者モ、減セス、

後ニ手ヲ下シテ、理直ナル者ハ、律
ニ照シテ、懲役十年ニ科シ、仍ホ事
情原諒ス可キ者ハ、又一等ヲ減ス、
第二百十三條 凡鬪毆、後ニ手ヲ下
シテ、理直ナル者ハ、減等シテ罪ヲ
科シ、仍ホ、養贍、埋葬金兩ヲ追給ス
ル律ヲ改メ、止々其罪ヲ科シテ、金
圓ヲ追セス、
第二百十四條 凡鬪毆、人ヲ傷スル
ニ、鎌刀、菜刀等ヲ用ヒ、傷輕キ者ハ、
懲役七十日、仍ホ輕キ者ハ、三等ヲ
減ス、

宮殿内忿争

宮殿内忿争條例

凡宮殿内ニ於テ、忿争スル者ハ、笞五十、相殴ツ者ハ、杖一百、折傷以上ハ、凡鬪傷ニ、二等ヲ加フ、罪流三等ニ止ル、刃ヲ以テ相向フ者ハ、流一等、

殿ニ本屬長官

凡吏卒軍民、本屬ノ勅任長官ヲ殴ツ者ハ、流一等、傷スル者ハ、流二等、折傷以上ハ、絞、其長官ニ非ル、勅任官ヲ殴ツ者ハ、徒二年半、傷スル者ハ、流一等、折傷以上ハ、流二等、癱疾ハ、絞、若シ奏任長官ヲ殴ツ者ハ、徒二年、傷スル者ハ、徒三年、折傷以上ハ、流二等、癱疾ハ、絞、其長官ニ非ル、奏任官ヲ殴ツ者ハ、徒一年、傷スル者ハ、徒二年、折傷以上ハ、流一等、癱疾ハ、流二等、篤疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、並ニ斬、

第二百十五條 凡皇城門ニ、擅入スル者ハ、懲役五十日、宮殿ニ擅入スル者ハ、懲役百日、

殿官吏律 原職本屬長官律

第二百十六條 凡勅任官ヲ殴ツ者ハ、懲役五年、傷スル者ハ、懲役十年、折傷以上ハ、絞、若シ奏任官ヲ殴ツ者ハ、懲役二年、傷スル者ハ、懲役三年、折傷以上ハ、懲役七年、癱疾ハ、絞、若シ判任官ヲ殴ツ者ハ、懲役九十日、傷スル者ハ、懲役一年、折傷以上ハ、懲役三年、癱疾ハ、懲役五年、篤疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、並ニ斬、

五年三百三十號
布告ヲ以テ
長官本屬
殿ニ本屬
吏律例ヲ
設ク參照
スヘシ

ハ、絞

若シ判任長官ヲ殴ツ者ハ、杖九十、傷スル者ハ、徒一年、折傷以上ハ、徒二年、癱疾ハ、流一等、篤疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、並ニ斬、
其本屬ニ非ル者ハ、各二等ヲ減ス、減シテ、罪、凡鬪ヨリ輕ク、若クハ等シキ者ハ、凡鬪ニ、一等ヲ加ヘ、加ヘテ死ニ入ル、

殿官吏條例

第二百十七條 凡判任官、勅任官、ヲ殴ツ者ハ、懲役九十日、傷スル者ハ、懲役一年半、折傷以上ハ、懲役五年、癱疾ハ、絞、若シ奏任官ヲ殴ツ者ハ、懲役七十日、傷スル者ハ、懲役百日、

拒 _三 毆官司差人 _一									
凡官司、人ヲ所屬ニ差遣シ、錢糧ヲ追徵シ、公事ニ勾攝スルニ、抗拒シテ服セサル者ハ、杖六十、毆ツ者ハ、杖八十、内損以上ハ、各凡鬪傷ニ _二 等ヲ加ヘ、罪流三等ニ止ル、死ニ至ル者ハ、斬、									
折傷以上ハ、懲役三年、瘡疾ハ、懲役十年、瘧疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、並ニ、斬、									
第二百十八條 凡奏任官、勅任官ヲ毆ツ者ハ、判任官、奏任官ヲ毆ツト、罪同シ、其勅任官、奏任官ヲ毆テ、及ヒ奏任官、判任官ヲ毆ツ者ハ、並ニ、凡鬪毆ヲ以テ論ス、									
毆受業師條例									

凡文武百工技藝ノ人、受業師ヲ毆ツ者ハ、凡鬪毆ニ _二 等ヲ加ヘ、罪流三等ニ止ル、死ニ至ル者ハ、斬、									
威力制縛									
凡威力ヲ以テ、人ヲ制縛シ、及ヒ私家ニ於テ、拷打監禁スル者ハ、有傷無傷ヲ問ハス、並ニ杖一百、折傷以上ハ、各凡鬪傷ニ _二 等ヲ加ヘ、罪流三等ニ止ル、死ニ致ス者ハ、絞、									
若シ威力ヲ以テ、他人ヲ指使シ、毆打セシメ、死傷ニ致ス者ハ、並ニ指使人ヲ以テ首ト爲シ、下手ノ人ハ、從ト爲シテ論シ、一等ヲ減ス、									
毆 _三 家長 _一									
凡奴婢、家長ヲ毆ツ者ハ、皆流一等、傷									
第二百十九條 凡受業師ヲ毆テ、死ニ至ル者ハ、斬、改テ、懲役終身、									
毆家長條例									
第二百二十條 凡雇人、家長ヲ毆テ、									

スル者ハ、皆流三等、折傷スル者ハ、皆絞死ニ至ル者ハ、皆斬、過失傷スル者ハ徒二年、過失殺スル者ハ、流三等、徒流、並ニ收贖スルヲ聽サス、	若シ雇人、家長ヲ毆ツ者ハ、徒二年、傷スル者ハ、徒三年、折傷スル者ハ、流三等、篤疾ニ至ル者ハ、絞死ニ至ル者ハ、斬、過失殺傷スル者ハ、各常律ニ依テ、收贖スルヲ聽ス、	若シ奴婢、雇人、家長ノ教令ニ違犯スルニ、督責シテ、邂逅ニ死ニ致ス者ハ、笞五十、過失殺スル者ハ、各論スルヲ勿レ、	毆レ夫	凡妻、夫ヲ毆ツ者ハ、杖一百、折傷以上
篤疾、及ヒ死ニ至ル者ハ、絞、斬ニ處スル律ヲ改メ、俱ニ、懲役終身、	第二百二十一條 凡雇人、家長ノ教令ニ違犯スルニ、督責シテ、邂逅ニ、死ニ致ス者ハ、笞五十、改テ、懲役七十日、	第二百二十二條 凡妻、夫ヲ毆テ、	毆夫條例	

ハ、凡圖傷ニ、三等ヲ加フ、夫ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、篤疾ニ至ル者ハ、絞死ニ至ル者ハ、斬、故殺スル者ハ、梟、若シ妾、夫及ヒ正妻ヲ毆ツ者ハ、妻夫ヲ毆ツ罪ニ、各一等ヲ加ヘ、加ヘテ死ニ入ル、死ニ至ル者ハ、斬、故殺スル者ハ、梟、

毆ニ傷妻妾

凡夫、妻ヲ毆ツハ、折傷ニ非ルハ、論スルヲ勿レ、折傷以上ハ、凡人ニ、二等ヲ減ス、妻ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、死ニ至ル者ハ、絞、故殺スル者モ、罪同、妾ヲ毆ツニ、折傷以上ハ、妻ヲ毆傷スルニ、二等ヲ減ス、死ニ至ル者ハ、流一等、若シ妻、妾ヲ毆傷スルハ、夫、妻ヲ毆傷

癡篤疾ニ至ル者ハ、絞ニ入ル律ヲ改メ、俱ニ、懲役終身、妾ノ正妻ヲ毆ツ者モ、亦同シ、

毆傷妻妾條例

第二百二十三條 凡夫、妻ヲ毆テ、死ニ至ル者ハ、絞、改テ、懲役終身、其故殺スル者ハ、絞、若シ夫、妻ノ父母ヲ毆テ、篤疾、及ヒ死ニ至ル者ハ、絞、斬ニ處スル律ヲ改メ、懲役終身、其故殺スル者ハ、斬、

六年百十
一號布告
ヲ以テ
三等親以
下尊長律
條例ヲ創
定ス
スヘシ

スルト、罪同、妾ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、過失殺スル者ハ、各論スルコト勿レ、

若シ夫、妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ、杖九十、折傷以上ハ、各凡鬪傷ニ、一等ヲ加ヘ、篤疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、斬、故殺スル者モ、罪同、

毆ニ三等親以下尊長

凡卑幼、三等親ノ尊長ヲ毆ツ者ハ、徒一年、四等親ノ尊長ハ、杖一百、折傷以上ハ、凡鬪傷ニ、二等ヲ遞加ス、篤疾ハ、絞、死ニ至ル者ハ、斬、故殺スル者モ、罪同、

若シ尊長、卑幼ヲ毆ツハ、折傷ニ非ルハ、論スルコト勿レ、折傷以上ハ、五等親

毆ニ三等親以下尊長條例

第二百二十四條 凡卑幼、三等親ノ尊長ヲ毆チ、篤疾ハ、絞、改テ、懲役終身、死ニ至ル者ハ、斬、改テ、絞、其故殺スル者ハ、斬、若シ尊長ニ三等親以下ノ卑幼ヲ毆チ、死ニ至ル者ハ、絞、亦改テ、懲役終身、其故殺スル者ハ、絞、

ノ卑幼ハ、凡人ニ一等ヲ減シ、四等ニ等親ハ、各一等ヲ遞減ス、死ニ至ル者ハ、絞、故殺スル者モ、罪同、

毆ニ三等親尊長

凡弟妹、兄姉ヲ毆ツ者ハ、徒二年、傷スル者ハ、徒二年半、折傷スル者ハ、流二等、癡疾ニ至ル者ハ、流三等、篤疾ニ至ル者ハ、絞、死ニ至ル者ハ、皆斬、故殺スル者ハ、皆梟、

若シ姪、伯叔父姑ヲ毆チ、及ヒ外孫、外祖父母ヲ毆ツハ、各一等ヲ加フ、癡疾以上ハ、兄姉ヲ毆ツト罪同、

其過失殺傷スル者ハ、各本殺傷罪ニ、二等ヲ減シ、收贖スルコトヲ聽サス、

第二百二十五條 凡卑幼、三等親以下ノ尊長ヲ過失殺傷スル者ハ、並ニ凡人過失殺傷ヲ以テ論シ、收贖スルコトヲ聽ス、

毆ニ三等親尊長條例

第二百二十六條 凡卑幼、二等親ノ尊長、及ヒ外祖父母ヲ、過失殺傷スル者ハ、各本殺傷罪ニ、二等ヲ減スル律ヲ改メ、殺ス者ハ、懲役二年、傷スル者ハ、懲役百日、並ニ收贖スルコトヲ聽サス、

第二百二十七條 凡弟妹、兄姉ヲ毆チ、篤疾ニ至ル者ハ、絞、改テ、懲役終身、死ニ至ル者ハ、皆斬、改テ、皆絞、若シ姪、伯叔父姑ヲ毆チ、及ヒ外孫、

若シ兄姉、弟妹ヲ毆殺シ、伯叔父姑、姪
ヲ毆殺シ、外祖父母、外孫ヲ毆殺スル
者ハ、徒三年、故殺スル者ハ、流二等、過
失殺スル者ハ、各論スルコト勿レ、

毆祖父母父母

凡子孫、祖父母父母ヲ毆テ、及ヒ妻妾、
夫ノ祖父母父母ヲ毆ツ者ハ、皆斬、殺
ス者ハ、皆梟、過失殺スル者ハ、流二等、
傷スル者ハ、徒三年、並ニ收贖ヲ聽サ
ス、若シ子孫ヲ故殺スル者ハ、徒三年、
嫡母ヲ殺スハ、一等ヲ加ヘ、繼母ハ流
三等、

其子孫、祖父母父母ヲ毆罵シ、若クハ
教令ニ違犯シテ、祖父母父母督責シ、
邂逅ニ死ニ致シ、及ヒ過失殺スル者ハ、

外祖父母ヲ毆テ、篤疾及ヒ死ニ至
ル者罪亦同、

毆祖父母父母條例

第二百二十八條 凡子孫、祖父母父
母ヲ毆テ、及ヒ妻妾、夫ノ祖父母父
母ヲ毆ツ律ヲ改メ、毆ツ者ハ、懲役
十年、傷スル者ハ、懲役終身、死ニ至
ル者ハ、皆斬、故殺スル者ハ、皆梟、過
失殺スル者ハ、懲役三年、傷スル者
ハ、懲役一年、並ニ收贖スルコトヲ聽
サス、

第二百二十九條 凡繼母、前妻ノ子
ヲ非理ニ毆打シテ、折傷以上ニ至

各論スルコト勿レ、

妻妾與夫親屬相毆

凡妻妾、夫ノ二等親以下、四等親以上
ノ尊長ヲ毆ツ者ハ、夫ノ毆ツト同罪、
罪、流二等ニ止ル、死ニ至ル者ハ、各斬、
故殺スル者モ、罪同、

若シ妻、夫ノ三等親以下ノ卑屬ヲ毆
傷スルハ、夫ノ毆ツト罪同、妾ノ犯ス
ハ、凡圖ヲ以テ論ス、

父祖被毆

凡祖父母、父母、人ニ毆タレ、子孫、即時

ル者ハ、凡圖傷ニ、三等ヲ減シ、死ニ
至ル者ハ、懲役七年、

第二百三十條 凡子孫、教令ニ違犯ス
ト雖モ、祖父母父母、非理ニ毆殺ス
ル者ハ、懲役二年半、

妻妾與夫親屬相毆條例

第二百三十一條 凡妻妾、夫ノ二等
親以下、四等親以上ノ尊長ヲ毆テ、
死ニ至ル者ハ、各斬、改テ、絞、其故殺
スル者ハ、斬、

父祖被毆條例

第二百三十二條 凡祖父母、父母、人

六年三十
九號布告

ヲ以テ父祖被毆年百廿二以テ之ヲ取消シ更ニ本律ヲ改正スヘシ

ニ救護シテ、還ツテ行兇人ヲ毆ツハ、折傷ニ非ルハ、論スルコト勿レ、折傷以上ハ、凡圖傷ニ、二等ヲ減ス、死ニ至ル者ハ、流三等、若シ祖父母、父母、人ニ殺サレ、子孫、擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ、管五十、其即時ニ殺死シ、及ヒ曾テ官ニ告ル者ハ、論スルコト勿レ、

罵詈律

罵人

凡人ヲ罵ル者ハ、管一十、互ニ相罵ル者ハ、各管一十、

罵ニ本屬長官

ニ殺サレ、子孫、擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ、謀殺ヲ以テ論ス、其即時ニ殺死スル者ハ、論スルコト勿レ、

第二百三十三條 凡子孫、祖父母、父母ト同謀シテ、共ニ人ヲ毆チ、若クハ祖父母、父母人ト忿争シ、子孫ニ指令シテ毆打セシメ、及ヒ人ト鬪毆スルニ、其子孫、勢ヲ助ケテ、共ニ毆ツ者ハ、俱ニ常律ニ照シテ、罪ヲ科シ、救護還毆律ヲ用ヒス、

罵詈律

罵官吏律原罵本屬長官律

五年三百三十二號
三十二號
布告ヲ以テ罵本屬長官律ヲ設ク參照スヘシ

凡吏卒軍民、本屬ノ勅任長官ヲ罵ル者ハ、徒一年、奏任長官ヲ罵ル者ハ、杖九十、判任長官ヲ罵ル者ハ、杖六十、其長官、及ヒ本屬ニ非ル者ハ、各二等ヲ減ス、並ニ親ヲ聞テ、乃坐ス、

第二百三十四條 凡勅任官ヲ罵ル者ハ、懲役一年、奏任官ヲ罵ル者ハ、懲役九十日、判任官ヲ罵ル者ハ、懲役六十日、並ニ親ヲ聞テ、乃坐ス、

罵官吏條例

第二百三十五條 凡判任官、勅任官ヲ罵ル者ハ、懲役六十日、奏任官ヲ罵ル者ハ、懲役四十日、並ニ親ヲ聞テ、乃坐ス、

第二百三十六條 凡奏任官、勅任官ヲ罵ル者ハ、判任官、奏任官ヲ罵ルト、罪同シ、其勅任官、奏任官ヲ罵リ、及ヒ奏任官、判任官ヲ罵ル者ハ、並ニ凡人罵詈ヲ以テ論ス、

<p>凡奴婢、家長ヲ罵ル者ハ、徒一年、雇人、家長ヲ罵ル者ハ、杖八十、並ニ家長ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、</p> <p>罵ニ有服尊長</p> <p>凡卑幼、四等親ノ尊長、及ヒ妻ノ父母ヲ罵ル者ハ、答五十、三等親ノ尊長ハ、杖六十、若シ兄弟ヲ罵ル者ハ、杖九十、伯叔父姑、外祖父母ハ、杖一百、若シ妻妾、夫ノ有服尊長ヲ罵ル者ハ、夫ノ罵ルト罪同、並ニ尊長ノ親ヲ告クルヲ</p>									
<p>罵ニ家長</p>									
<p>第二百三十七條 凡平民、本屬ノ戸長ヲ罵ル者ハ、凡人罵詈ニ、一等ヲ加ヘ、繼卒ヲ罵ル者ハ、又一等ヲ加フ、</p>									

六年二百九十八號
布告ヲ以テ
廢越訴律

<p>待テ、乃坐ス、</p> <p>罵ニ祖父母父母</p> <p>凡子孫、祖父母父母ヲ罵リ、及ヒ妻妾、夫ノ祖父母父母ヲ罵ル者ハ、並ニ流三等、祖父母父母ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス、</p> <p>越訴</p> <p>凡吏卒軍民、詞訟スルニ、本管ノ官司ニ由ラスシテ、輒ク上司ニ越訴スル者ハ、實ヲ得ルト雖モ、答三十、本管ノ官司、受理セス、及ヒ枉斷スル者ハ、上司ニ陳告スルヲ許ス、</p> <p>若シ理區ニ文書ヲ投シ、事ヲ申訴シテ、實ナラサル者ハ、杖七十、事、重キ者</p>									
<p>罵祖父母父母條例</p> <p>第二百三十八條 凡子孫、祖父母父母ヲ罵リ、及ヒ妻妾、夫ノ祖父母父母ヲ罵ル者ハ、流三等ニ處スル律ヲ改メ、並ニ懲役三年、</p> <p>訴訟律</p>									

ハ、誣告律ニ依テ論ス、實ヲ得ル者ハ、罪ヲ免ス、

承告不理

凡人命、及ヒ強盜等ヲ告ルニ、官司、即時ニ受理セサル者ハ、杖七十、鬪毆、婚姻田宅等ノ事ハ、各犯人ノ罪ニ、二等ヲ減シ、並ニ罪、杖七十二止ル、財ヲ受ケテ、受理セサル者ハ、贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

聽訟回避

凡官吏、訴訟人ト親族、若クハ師弟、及ヒ離隙アル者ハ、並ニ回避スルコトヲ聽ス、違フ者ハ、罪ニ増減無シト雖モ、答二十、若シ増減アル者ハ、故出入人罪ヲ以テ論ス、

誣告

凡人ヲ誣告スル者ハ、罪ノ輕重ニ從ヒ、已ニ決配シ、未タ決配セサルヲ問ハス、告人ヲ反坐ス、死罪ニ誣告シテ、未タ處決セサル者ハ、一等ヲ減ス、若シ二事以上ヲ告ルニ、重事ハ、實ニシテ、輕事ハ、虛、及ヒ數事ヲ告テ、罪等キニ、一事實ナル者ハ、並ニ誣告ノ罪ヲ免ス、若シ二事以上ヲ告ルニ、輕事ハ、實ニシテ、重事ハ、虛、或ハ一事ヲ告ルニ、輕ヲ誣テ、重ト爲ス者ハ、並ニ剩ル所ニ反坐ス、其二人以上ヲ告ルニ、但々一人實ナラサル者アレハ、罪輕シト雖モ、猶ホ

誣告條例

第二百二十九條 凡收贖、贖罪ニ該ル罪ヲ以テ、人ヲ誣告スル者ハ、即チ收贖贖罪ニ反坐ス、若シ己ノ罪ヲ避ンコトヲ規リ、人ヲ誣告スル者ハ、原罪、收贖、贖罪ニ該ルト雖モ、反坐ノ罪、贖フコトヲ聽サス、婦女ノ犯ス者モ、亦此例ニ依ル、

其罪ニ反坐ス、
 若シ上書シテ人ヲ告ルニ、已ニ奏聞
 シテ、事實ナラサル者、反坐ノ罪、徒二
 年ニ及ハサル者ハ、上書詐不實律ニ
 依テ論ス、
 若シ獄囚、已ニ伏罪シテ、冤枉ナキニ、
 囚ノ親族、妄訴スル者ハ、囚ノ罪ニ、三
 等ヲ減ス、罪、杖一百ニ止ル、

干名犯義

凡子孫、祖父母、父母ヲ告ケ、妻妾、夫及
 ヒ夫ノ祖父母、父母ヲ告ル者ハ、實ヲ
 得ルト得モ、徒二年半、誣告スル者ハ、
 絞、若シ二等親ノ尊長、及ヒ外祖父母
 ヲ告ル者ハ、實ヲ得ルト雖モ、杖
 九十、三等親ノ尊長ハ、杖八十、四等親

干名犯義條例

第二百四十條 凡子孫、祖父母、父母
 ヲ誣告シ、妻妾、夫、及ヒ夫ノ祖父母
 父母ヲ誣告スル者ハ、絞ニ處スル
 律ヲ改メ、懲役終身、

ノ尊長ハ、杖七十、妻ノ父母ハ、杖六十、
 其告ラル、二等三等親ノ尊長、及ヒ
 外祖父母、若クハ妻ノ父母ハ、並ニ自
 首ニ同ク、罪ヲ免ス、四等親ノ尊長ハ、
 本罪ニ、三等ヲ減ス、若シ誣告ノ罪、重
 キ者ハ、各誣ル所ノ罪ニ、三等ヲ加ヘ、
 罪、流三等ニ止ル、

其嫡繼母、所生母、其父ヲ殺シ、及ヒ養
 父母、其所生父母ヲ殺シ、若クハ二等
 親以下ノ尊長ニ、財産ヲ侵奪セラレ、
 或ハ其身ヲ毆傷セラレテ、卑幼ノ自
 訴ス可キ者ハ、並ニ告ルヲ聽シ、告ラ
 ル、者ハ、各本律ニ依テ之ヲ科ス、干
 名犯義ノ限ニ在ラス、卑幼ノ告ラル
 、モ、亦同、

若シ卑幼ヲ告ケ實ヲ得ル者、二等三
 等親ノ卑幼、及ヒ女婿モ、亦自首ニ同
 ク、罪ヲ免ス、四等五等親ノ卑幼ハ、本
 罪ニ三等ヲ減ス、誣告スル者、二等親
 ノ尊長ハ、誣ル所ノ罪ニ、三等ヲ減シ、
 三等親ノ尊長ハ、二等ヲ減シ、四等五
 等親ノ尊長ハ、一等ヲ減ス、
 若シ夫、妻ヲ誣告シ、及ヒ妻、妾ヲ誣告
 スルモ、亦誣ル所ノ罪ニ、二等ヲ減ス、
 若シ奴婢、家長ヲ告ル者ハ、實ヲ得ル
 ト雖モ、杖九十、誣告スル者ハ、絞、雇人、
 家長ヲ告ル者ハ、杖六十、誣告スル者
 ハ、誣ル所ノ罪ニ、二等ヲ加ヘ、罪、流三
 等ニ止ル、
 其祖父母、外祖父母、子孫、外孫ヲ

誣告スル者ハ、論スルコト勿レ、
 若シ家長、奴婢、雇人ヲ誣告スル者ハ、
 並ニ誣ル所ノ罪ニ、二等ヲ減ス、
 子孫違レ教
 凡子孫、祖父母、父母ノ教令ニ違犯シ、
 及ヒ奉養缺クルコト有ル者ハ、杖一百、
 祖父母、父母ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐
 ス、
 教ニ唆詞訟
 凡詞訟ヲ教唆シ、及ヒ人ノ爲ニ、詞狀
 ヲ作り、情罪ヲ増減シテ、人ヲ誣告ス
 ル者ハ、犯人ト同罪、罪、流三等ニ止ル、
 若シ雇ヲ受ケ、人ヲ誣告スル者ハ、自
 ラ誣告スルト罪同、財ヲ受ル者ハ、贓
 ニ計ヘ、枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス、

子孫違教條例
 第二百四十一條 凡祖父母、父母老
 疾シテ、家ニ侍養ノ親ナキニ、故ラ
 ニ棄去ル者ハ、懲役二年、

其人ノ愚ニシテ、冤枉ヲ伸ルコト能ハサルヲ見テ、教令スルニ、實ヲ得、及ヒ人ノ爲ニ、詞狀ヲ書寫シテ、罪ニ増減ナキ者ハ、論スルコト勿レ、

官吏詞訟

凡官吏、婚姻、錢債、田宅等ノ事ヲ爭論スルコト有レハ、家人ヲシテ、官ニ告ケ、對理セシムルコトヲ聽ス、官吏、自ラ公文ヲ以テ、行移スルコトヲ許サス、違フ者ハ、答二十、

受贓律

官吏受財

凡官吏、枉法不枉法ノ事ニ因テ、財ヲ受ル者ハ、贓ニ計ヘ、之ヲ科ス、等外人ハ、各一等ヲ減ス、

六年二百六十號布告ヲ以テ
官吏受財條例一
條ニ定ス
シテ
照例
スヘ

受贓律

官吏受財條例

第二百四十二條 凡官吏、枉法贓ヲ受ル者、等内人ハ、二百五十圓以上、等外人ハ、三百圓以上、絞ニ處シ、及

若シ說事過錢スル者、等内人ハ、錢ヲ受ル人ニ、一等ヲ減ス、等外人ハ、二等ヲ減ス、罪、徒一年半ニ止ル、若シ別ニ財ヲ受ル者ハ、枉法不枉法贓ニ計ヘ、重キニ從テ論ス、

枉法ノ贓、各主アル者、通算シテ全科ス、

- 一兩以下、杖六十
- 一兩以上、杖七十
- 一十兩以上、杖八十
- 二十兩以上、杖九十
- 三十兩以上、杖一百
- 四十兩以上、徒一年
- 五十兩以上、徒一年半
- 六十兩以上、徒二年

ヒ不枉法贓、等内人ハ、三百圓以上、絞ニ處スル律ヲ改メ、並ニ懲役終身、

七十兩以上、徒二年半	八十兩以上、徒三年	九十兩以上、流一等	一百兩以上、流二等	一百一十兩以上、流三等	二百五十兩以上、絞	等外人ハ、三百兩以上、絞	不枉法ノ贓、各主アル者、通算シテ全科ス、	一兩以下、答五十	一兩以上、杖六十	一十兩以上、杖七十	二十兩以上、杖八十	三十兩以上、杖九十	四十兩以上、杖一百
------------	-----------	-----------	-----------	-------------	-----------	--------------	----------------------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------

五十兩以上、徒二年	六十兩以上、徒一年半	七十兩以上、徒二年	八十兩以上、徒二年半	九十兩以上、徒三年	一百兩以上、流一等	一百一十兩以上、流二等	一百二十兩以上、流三等	三百兩以上、絞	等外人ハ、三百兩以上ニ至リ、罪、流三等ニ止ル、	坐贓致レ罪	凡枉法不枉法、ノ事ニ因リ、財ヲ受ルニ非スシテ、贓ニ坐シ、罪ニ致ス者ハ、通算シテ罪ヲ科ス、與フル者ハ、五等
-----------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	-------------	-------------	---------	-------------------------	-------	--

ヲ減ス、

五兩以下、答二十

五兩以上、答二十

二十兩以上、答三十

四十兩以上、答四十

六十兩以上、答五十

八十兩以上、杖六十

一百兩以上、杖七十

一百二十兩以上、杖八十

一百四十兩以上、杖九十

一百六十兩以上、杖一百

二百兩以上、徒一年

四百兩以上、徒一年半

六百兩以上、徒二年

八百兩以上、徒二年半

一千兩以上、徒三年

事後受財

凡官吏、承行ノ事アリ、先キニ財ヲ送ルコトヲ聽許セス、事過ルノ後、財ヲ受ケ、事若シ枉斷スル者ハ、枉法ニ準シテ論シ、事枉斷セサル者ハ、不枉法ニ準シテ論ス、並ニ罪、流三等ニ止ル、錢ヲ出シ、及ヒ過スルノ人ハ、並ニ杖七十、

聽許財物

凡官吏、財物ヲ送ルコトヲ、聽許スレハ、未タ接受セスト雖モ、事若シ枉ル者ハ、枉法ニ準シテ論シ、事枉ケサル者ハ、不枉法ニ準シテ論シ、各一等ヲ減ス、枉ル所重キ者ハ、各重キニ從テ論

事後受財條例

第二百四十二條 凡官吏、事後、財ヲ受ル者ハ、本條ニ依リ罪ヲ科スト雖モ、其錢ヲ出シ、及ヒ過スルノ人ハ、並ニ杖七十二處スル律ヲ改メ、坐贓ニ依テ論シ、一等ヲ減シテ、並ニ罪、懲役七十日ニ止ル、

ス、

以財請求

凡諸人、事アリ、財ヲ以テ官吏ニ請求シ、法ヲ枉ルコトヲ得ント欲スル者ハ、與フル所ノ財ヲ計ヘ、坐贓ニ依テ論ス、若シ難ヲ避ケ、易ニ就キ、枉クル所ノ罪、重キ者ハ、重キニ從テ論ス、若シ官吏、刁蹬留難シテ、歸結ヲ與ヘス、及ヒ強ヲ用ヒテ、別ニ事ヲ生シ、逼抑シテ、財ヲ取受スル者ハ、錢ヲ出ス人ハ、坐セス、

官吏求ニ借財物

凡監臨官吏、勢ヲ挾ミ、所部内ノ財物ヲ、求索借貸スル者ハ、並ニ贓ニ計ヘ、不枉法ニ準シテ論シ、強ヲ用ヒテ、索

以財請求條例

第二百四十四條 凡枉法ノ事ニ非スト雖モ、財ヲ以テ、官吏ノ受理ヲ請求スル者ハ、與フル所ノ財ヲ計ヘ、坐贓ニ依テ論シ、一等ヲ減ス、

借スル者ハ、枉法ニ準シテ論シ、罪流三等ニ止ル、其監臨ニアラサル官吏ハ、各一等ヲ減ス、

若シ官ヲ去リ、舊部内ノ財物ヲ受ケ、及ヒ求索借貸スル者ハ、各在官ノ時ニ、二等ヲ減ス、

家人求索

凡監臨官吏ノ家人奴僕、所部内ニ於テ、財物ヲ取受シ、及ヒ求索スル者ハ、各監臨官吏ノ罪ニ、二等ヲ減ス、監臨ニアラサル、官吏ノ家人奴僕ハ、又一等ヲ減ス、若シ監臨官、及ヒ官吏、情ヲ知ル者ハ、同罪罪、流三等ニ止ル、知ラサル者ハ、坐セス、

因科劾斂

凡官吏、公務ニ因テ、擅ニ所部内ノ財物ヲ科斂スル者ハ、己レニ入レスト雖モ、答五十、贓重キ者ハ、坐贓ヲ以テ論ス、己レニ入ル、者ハ、贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ論ス、

其公務ニ因ルニ非スシテ、所部内ノ財物ヲ科斂シ、己レニ入ル、者ハ、贓ニ計ヘ、不枉法ヲ以テ論ス、若シ科斂シテ、人ニ餽送スル者ハ、己レニ入レスト雖モ、罪同、

尅ニ留盜賊

凡巡捕官吏、己ニ盜賊ヲ獲テ、贓物ヲ尅留シ、官司ニ送ラサル者ハ、答二十、己レニ入ル、者ハ、贓ニ計ヘ、不枉法ヲ以テ論ス、

受ニ外國人餽送

凡官吏人、私ニ外國人ノ餽送ヲ受ケ、即時ニ官ニ告サル者ハ、贓ニ計ヘ、不枉法ヲ以テ論ス、

受外國人餽送條例

第二百四十五條 凡外國人ノ餽送スル、飲食、土宜等、交際ノ禮ニ係リ、互ニ相贈遺スル者ハ、官ニ告ケスト雖モ、以不枉法論ノ限ニ在ラス、

新律綱領卷五目錄

詐僞律

詐為官文書

對詔上書詐不以實

偽造官印

偽造寶貨

偽造斛斗秤尺

偽造私印

詐稱官

詐稱病死傷

詐赦誘人犯法

犯姦律

犯姦

親族相姦

姦家長妻女

改定律例

詐僞律計十四條

詐為官文書一條

對詔上書詐不以實一條

偽造官印一條

偽造寶貨十條

詐稱官一條

犯姦律計九條

犯姦一條

親屬相姦一條

姦家長妻一條

姦部民妻女

居喪及僧尼犯姦

雜犯律

折毀揭榜場

販賣鴉片烟

賭博

囑託公事

失火

放火

費用受寄財產

得遺失物

違令

不應為

捕亡律

姦部民妻一條

居喪犯姦一條

犯姦條例四條

雜犯律計二十三條

賭博四條

失火五條

放火四條

費用受寄財產

得遺失物五條

違令二條

不應為三條

捕亡律計二十條

追捕罪人一條	罪人拒捕	獄囚脫監及反獄逃走	徒流人逃	主守不覺失囚	藏匿罪人	斷獄律	故禁無罪人	陵虐罪囚	與囚金刃	激囚翻異	老幼不拷訊	獄囚誣指無罪人	出入人罪	答杖不如法
追捕罪人一條	獄囚脫監及反獄逃走五條	懲役人逃十條	主守不覺失囚三條	藏匿罪人一條	斷獄律計七條	與囚金刃二條	出入人罪二條							

婦人犯罪	死囚奏請待報	斷罪不當												
死囚奏請待報一條	斷罪不當二條													

新律綱領卷五

詐僞律

詐爲官文書

凡官ノ文書ヲ詐爲シ、及ヒ増減スル者ハ、皆徒三年、省臺察司府藩縣ノ文書ハ、二等ヲ減シ、餘ノ文書ハ、五等ヲ減ス、未タ施行セサル者ハ、各一等ヲ減シ、重事ニ關スル文書ハ、各一等ヲ加フ、若シ規避スル所アル者ハ、各重キニ從テ論ス、其當該ノ官司、知テ聽行スル者ハ、各同罪、罪、流二等ニ止ル、知ラサル者ハ、坐セス、

對詔上書詐不以實

凡對詔及ヒ奏事上書ニ、詐テ實ヲ以テ

改定律例

詐僞律

詐爲官文書條例

第二百四十六條 凡私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ、情ヲ量リ、不應爲ニ問ヒ、輕重ヲ分ツ、

對詔上書詐不以實條例

第二百四十七條 凡對詔、及ヒ奏事、

セサル者ハ、徒二年、

偽造官印

凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ、絞、省臺察司府藩縣ノ印ハ、流一等、餘ノ印ハ、徒一年、未タ行使セサル者ハ、各一等ヲ減ス、財ヲ得ル者ハ、各次罪ヲ以テ重キニ從テ論ス、

偽造寶貨

十年廿五
號布告ヲ
以テ偽造
寶貨律中
改正ス

改正偽造寶貨律

第二百四十九條 凡寶貨ヲ偽造シ、已ニ行使スル者、首ハ、斬、從及ヒ匠人、若クハ、情ヲ知テ買使スル者ハ、懲役修身、其雜役ニ供スル者ハ、懲役十年、未タ行使セサル者ハ、各一等

偽造官印條例

第二百四十八條 凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ、絞ニ處スル律ヲ改メ、懲役修身、

上書ヲ除ク外、上ニ告ルニ、詐テ實

ヲ以テセサル者ハ、懲役一年、事情輕キ者ハ、懲役八十日、

ヲ減ス、	其偽造、未タ成ラサル者、首ハ、懲役三年、從、及ヒ匠人ハ、懲役二年半、雜役者ハ、懲役百日、
若シ過ヲ悔ヒ自首スル者、已ニ行使スルハ、二等ヲ減シ、未タ行使セサルハ、罪ヲ免ス、	偽造寶貨條例
第二百五十條 凡金銀貨幣ノ邊緣ヲ剪錯シテ、利ヲ取り行使スル者ハ、懲役二年、	第二百五十一條 凡紙幣ノ字樣ヲ挑剗シ、成片ヲ補帙シ、筆畫ヲ描改シ、真ヲ以テ偽ニ作り、行使スル者ハ、懲役五年、

第二百五十二條 凡偽造タルコトヲ知テ、買取シ、未タ行使セサル者ハ、已買使者ニ一等ヲ減ス、	第二百五十三條 凡偽造タルコトヲ知テ、雇ヲ受ケ、接遞シテ、真貨ニ兌換スル者ハ、知情買使者ヲ以テ論ス、
第二百五十四條 凡偽造スルノ情ヲ知テ、房屋ヲ給シ、及ヒ窩藏スル者ハ、已未行使ヲ分チ、並ニ、偽造從ヲ以テ論ス、	第二百五十五條 凡雜役ニ供スル者雇工錢ニ、偽貨ヲ受ケ、行使スル者ハ、知情行使律ニ依ル、
第二百五十六條 凡偽造、已ニ成リ、未タ行使セスシテ悔悟シ、其夥黨	

詐稱病死傷

凡官吏人等、疾病ト詐稱シ、事ニ臨テ
 難ヲ避ル者ハ、笞三十、避ル所事重キ
 者ハ、杖七十、
 若シ罪ヲ犯シテ、死スト詐稱シ、喚問
 ヲ免レントスル者ハ、徒一年半、避ル
 所事重キ者ハ、各重キニ從テ論ス、
 若シ人ト忿争シテ、故サラニ自ラ傷
 殘シ、人ニ詐頼スル者ハ、杖七十、其雇
 ヒヲ受ケ、人ノ爲ニ、傷殘スル者ハ、犯
 人ト同罪、因テ死ニ致ス者ハ、圖殺罪
 ニ一等ヲ減ス、
 若シ當該ノ官司、知テ聽行スル者ハ、
 同罪罪流二等ニ止ル、知ラサル者ハ、
 坐セス、

六年四十
 三號在告
 ヲ以テ犯
 姦律中犯
 姦親屬
 相姦姦
 家長妻
 姦部民妻
 姦部民妻
 正ス可シ
 照改

詐教誘人犯法
 凡詐テ人ヲ教誘シテ、法ヲ犯サシメ、
 卻テ自ラ捕獲シ、若クハ告擧シ、或ハ
 人ヲシテ、捕告セシムル者ハ、法ヲ犯
 スノ人ト同罪、
 犯姦律
 凡和姦ハ、各杖七十、夫アル者ハ、各徒
 二年、
 若シ媒合、及ヒ容止シテ、通姦セシム
 ル者ハ、犯人ノ罪ニ、一等ヲ減ス、強姦
 スル者ハ、流三等、未タ成ラサル者ハ、
 一等ヲ減ス、因テ折傷スル者ハ、絞、婦
 女ハ坐セス、十二歳以下ノ幼女ヲ姦
 スル者ハ、和ト雖モ、強ト同ク論ス、

七年司法
 省十號達
 ヲ以テ人
 姦事他
 指得ニ
 論ル者ハ
 勿レトス

改正犯姦律
 犯姦
 第二百六十條 凡和姦、夫アル者ハ、
 各懲役一年、妾ハ、一等ヲ減ス、
 若シ媒合、及ヒ容止シテ、通姦セシ
 ムル者ハ、犯人ノ罪ニ、三等ヲ減ス、
 強姦スル者ハ、懲役十年、未タ成ラ
 サル者ハ、一等ヲ減ス、因テ折傷ス
 ル者ハ、懲役終身、婦女ハ坐セス、十
 二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ、和

親族相姦

凡父祖ノ妾、姑、姉妹、及ヒ子孫ノ婦、兄、弟ノ女ヲ姦スル者ハ、各流三等、強姦スル者ハ、斬、

若シ母ノ姉妹、及ヒ兄弟ノ妻、姪ノ妻ヲ姦スル者ハ、各流一等、強姦スル者ハ、絞、妾ヲ姦スル者ハ、各一等ヲ減ス、強姦スル者ハ、絞、

若シ前夫ノ女、同母異父姉妹ヲ姦スル者ハ、各徒三年、強姦スル者ハ、絞、

姦ニ家長妻女

凡奴僕雇人、家長ノ妻ヲ姦スル者ハ、流三等、姦婦ハ、徒三年、強姦スル者ハ、

下雖モ、強ト同ク論ス、

親屬相姦

第二百六十一條 凡父祖ノ妾、伯叔、姑、姉妹、及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者ハ、各懲役三年、強姦スル者ハ、懲役終身、若シ母ノ姉妹、及ヒ兄弟ノ妻ヲ姦スル者ハ、各一等ヲ減ス、強姦スル者ハ、並ニ懲役終身、

若シ兄弟姉妹ノ女、及ヒ前夫ノ女、同母異父姉妹ヲ姦スル者ハ、各懲役一年、強姦スル者ハ、懲役終身、

姦家長妻

第二百六十二條 凡雇人、家長ノ妻ヲ姦スル者ハ、各懲役一年半、強姦

斬、

若シ家長ノ女、姉妹、及ヒ姑若クハ兄弟ノ妻ヲ姦スル者ハ、流一等、婦女ハ、凡姦ヲ以テ論ス、強姦スル者ハ、絞、妾ヲ姦スル者ハ、各一等ヲ減ス、強姦スル者ハ、絞、

姦ニ部民妻女

凡官吏、所部内ノ妻女ヲ姦スル者ハ、凡姦罪ニ、二等ヲ加フ、婦女ハ、凡姦ヲ以テ論ス、

居喪及僧尼犯姦

凡父母、舅姑、及ヒ夫ノ喪ニ居リ、若クハ僧尼ノ姦ヲ犯ス者ハ、各凡姦罪ニ、二等ヲ加フ、相姦スルノ人ハ、凡姦ヲ以テ論ス、

六年二百七十四號
布告ヲ以テ
居喪ヲ改
正ス

スル者ハ、懲役終身、

姦部民妻

第二百六十三條 凡官吏、部民ノ妻ヲ姦スル者ハ、懲役一年半、相姦スルノ妻ハ、懲役一年、

居喪犯姦

第二百六十四條 凡父母、舅姑、及ヒ夫ノ喪ニ居リ、姦ヲ犯ス者ハ、各凡姦罪ニ、二等ヲ加フ、相姦スルノ人ハ、凡姦ヲ以テ論ス、

ハ、流三等、從ハ、徒二年、買食スル者ハ、
徒二年半、並ニ鴉片烟ハ、官ニ没入ス、
若シ官吏、知テ擧セサル者ハ、同罪、罪、
流三等ニ止ル、財ヲ受ル者ハ、枉法ヲ
以テ、重ニ從テ論ス、

賭博

凡財物ヲ賭シ、博戯ヲ爲ス者ハ、皆杖
八十、賭場ノ財物ハ、官ニ入ル、其賭房
ヲ開張スル人ハ、其列ニ與ラスト雖
モ、同罪、飲食ヲ賭スル者ハ、論スルコ
勿レ、
若シ産業無クシテ、常ニ腰刀ヲ挾帶
シ、無賴ノ徒ヲ招結シ、賭場ヲ開張シ、
四鄰ニ横行スル者ハ、皆流一等、

七年司法
省八號達
ヲ以テ賭
博ヲ行ハ
サレ者等
ハ違式輕
重ニ罰ヲ
ヒシ
スヘシ

賭博條例

第二百六十九條 凡賭博、三犯以上
ハ、懲役一年、
第二百七十條 凡賭場、現在ノ財物
ハ、官ニ入ルト雖モ、其田宅等、不動
産ニ係ル者ハ、原主ニ還付シ、官ニ
入ル、ノ限ニ在ラス、
第二百七十一條 凡博戯ニ用フル、
骰子、骨牌ヲ賣ル者ハ、賭博者ト同
罪、再犯ハ、二等ヲ加ヘ、三犯以上ハ、

囑託公事

凡法令ヲ曲ケンコトヲ欲シ、公事ヲ囑
託スル者ハ、己レノ爲ニシ、人ノ爲ニ
スルコトヲ論セス、答四十、當該ノ官吏、
聽從スル者ハ、同罪、聽從セサル者ハ、
坐セス、若シ事已ニ施行スル者ハ、杖
九十、枉ル所、罪重キ者、官吏ハ、故出
入人罪律ヲ以テ論ス、若シ他人及ヒ
親屬ノ爲ニ、囑託シテ、枉ル所、罪、答四
十ヨリ重キ者ハ、當該官吏ノ罪ニ、三
等ヲ減ス、自己ノ事ヲ囑託スル者ハ、

懲役一年

第二百七十二條 凡賭博ノ列ニ與ラ
スト雖モ、母錢ヲ借シ、息ヲ收ル者
ハ、犯人ト同罪、

坐スヘキ本罪ニ、一等ヲ加フ、
若シ法ヲ曲ケ、賊ヲ受ル者ハ、賊ニ計
ヘ、枉法ヲ以テ論ス、

失火

凡火ヲ失シテ、自己ノ宅舎ヲ燒ク者
ハ、笞二十、人ノ宅舎ニ、延燒スル者ハ、
笞四十、罪、止タ火ヲ失スル人ヲ坐ス、
若シ大廟、及ヒ宮闕内ニ於テ、火ヲ失
スル者ハ、流三等、山陵ノ兆域内ハ、徒
一年、公廨、及ヒ倉庫内ハ、杖一百、主守
ノ人、因テ財物ヲ侵欺スル者ハ、賊ニ
計ヘ、監守自盜ヲ以テ論ス、其外ニ在
リ、火ヲ失シテ、延燒スル者ハ、各二等
ヲ減ス、

其宮殿、及ヒ倉庫ヲ守衛シ、若クハ四

六年八十
三類布告
ヲ以テ失
火條例ヲ
創定ス可
シ

失火條例

第二百七十三條 凡大廟、及ヒ山陵
内ニ於テ、火ヲ失スル者ハ、律ニ依
リ罪ヲ科スルノ外、官幣國幣大社
ハ、山陵ト同シク論シ、中社ハ、懲役
百日、小社ハ、懲役九十日、府縣社ハ、
懲役七十日、郷社ハ、懲役六十日、延
燒スル者ハ、各本罪ニ、三等ヲ減ス、
減シテ、人ノ宅舎ヲ延燒スルヨリ、
輕ク、若クハ等キハ、並ニ、一等ヲ加
フ、
第二百七十四條 凡稅居人、火ヲ失

ヲ掌ル者、火ノ起ルヲ見テハ、所守ヲ
離ル、コヲ得ス、違フ者ハ、杖七十、

六年二百
九十九號
布告ヲ以
テ二百七
十五條ヲ
改正ス

シテ、其家ヲ燒ク者ハ、自己宅舎ヲ
燒クニ、一等ヲ加フ、

第二百七十五條 凡火ヲ失シテ、人ヲ

燒死ニ致ス者ハ、死屍ノ多寡ヲ論

セズ、一等ヲ加フ、其同居ノ祖父母

父母ヲ、燒死ニ致ス者ハ、懲役百日、

第二百七十六條 凡火ヲ失シテ、人

ノ山林柴草、及ヒ空間房屋、若クハ

田場積聚ノ物ヲ延燒スル者ハ、官

私ヲ分タス、人ノ宅舎ニ、延燒スル

ニ、二等ヲ減ス、

第二百七十七條 凡盜犯、火ヲ用ヒ

テ、門關戶樞ヲ燒燬シ、及ヒ燭炬ヲ

持シ、期セシテ、失火ニ致ス者ハ、

懲役三年、若シ盜罪重キ者ハ、重キ

放火

凡火ヲ放テ、故サラニ公廨倉庫、及ヒ民舎ヲ燒ク者ハ、皆斬、未タ燒燬ニ至ラサル者ハ、流ニ等

ニ從テ論ス、

放火條例

第二百七十八條 凡火ヲ放テ、人ノ空間房屋、及ヒ田場積聚ノ物ヲ燒ク者ハ、懲役七年、未タ燒燬ニ至ラサル者ハ、懲役二年、
第二百七十九條 凡火ヲ放テ、故ヲニ自己ノ房屋ヲ燒ク者ハ、懲役九十日、未タ燒燬ニ至ラサル者ハ、一等ヲ減ス、若シ期セスシテ、公廨倉庫及ヒ民舎ヲ延燒スル者ハ、懲役二年半、因テ財ヲ盜ム者ハ、懲役終身、
第二百八十條 凡火ヲ放テ、人ノ空間房屋ヲ燒キ、期セスシテ、人ノ宅舎ニ延燒スル者ハ、懲役十年、
第二百八十一條 凡火ヲ放テ、人ノ宅舎ヲ燒キ、未タ燒燬ニ至ラサル者、律ニ照シ、懲役十年ニ處スル外、若シ雇人等、家長ノ督買ニ苛迫シ、一時脱身ヲ圖リ、纒ニ火ヲ放チ、未タ燒燬ニ至ラサル者ハ、情ヲ量テ、三等ヲ減シ、懲役三年、

費用受寄財産

凡人ヨリ、財物畜産ノ寄託ヲ受ケ、輒シ費用スル者ハ、坐贓ヲ以テ論シ、一等ヲ減ス、罪、徒二年半ニ止ル、死失ト詐言スル者ハ、竊盜ニ二等ヲ減シ、罪、徒二年ニ止ル、並ニ物ヲ追シテ、主ニ還ス、其水火盜賊ニ費失セラレ、及ヒ畜産病死スル者ハ、論スルコト勿レ、

九年五十
五號布告
ヲ以テ得
遺失物律
改正ス

得遺失物
凡遺失ノ物ヲ得レハ、必ス官ニ送ル
ヘシ、官物ハ、全ク官ニ入レ、私物ハ、一
半ヲ其主ニ給シ、一半ヲ得ル人ニ給
ス、如シ三十日內ニ、其主ナケレハ、全
ク給ス、若シ官ニ送ラサル者、官物ハ、
坐贓ヲ以テ論シ、物ヲ追シテ、官ニ還
ス、私物ハ、一等ヲ減シ、主アルハ、物ヲ
追シテ、主ニ給シ、主ナキハ、官ニ入ル、
若シ官私地內ニ於テ、埋藏ノ物ヲ掘
得ル者ハ、并ニ官ニ送り、地主ト中分
セシム、隠シテ送ラサル者ハ、主ニ分
ツ可キノ數ヲ計ヘ、坐贓ヲ以テ論シ、
一等ヲ減ス、仍ホ地主ト中分セシム、

九年五十
五號布告
ヲ以テ得
遺失物律
改正ス

得遺失物條例
第二百八十二條 凡水中沈没ノ物ヲ
得レハ、遺失物ヲ得ルヲ以テ論ス、
第二百八十二條 凡遺失物ヲ得ルニ、
物品、盜贓ニ係ルト雖モ、私物ナレ
ハ、一半ヲ其主ニ給シ、一半ヲ得ル
人ニ給ス、
第二百八十四條 凡官吏、邏卒、遺失
物ヲ得レハ、所部内外ヲ問ハス、主
アルハ、全ク其主ニ還ス、如シ三十
日內ニ、其主ナケレハ、得ル者ニ給
ス、
第二百八十五條 凡一切應禁ノ物ヲ
得レハ、遺失、及ヒ埋藏、若クハ、沈没
ヲ分タス、一體ニ、官ニ没入ス、人

十年十三
號布告ヲ
以テ府縣
ノ條規ニ
違犯スル
者ノ罰例
ヲ定ムル
照スヘシ

違令
凡令ニ違フニ、重キ者ハ、答四十、輕キ
者ハ、一等ヲ減ス、
不應爲
凡律令ニ正條ナシト雖モ、情理ニ於
テ爲スヲ得應カラサルノ事ヲ爲ス者
ハ、答二十、事理重キ者ハ、杖七十、

第三百八十六條 凡人ノ邸宅內ニ於
テ、遺失物ヲ竊取スル者ハ、竊盜ニ
準シテ論ス、
違令條例
第二百八十七條 凡制ニ違フ者ハ、
懲役百日、輕キ者ハ、一等ヲ減ス、
第二百八十八條 凡式ニ違フ者ハ、
懲役二十日、輕キ者ハ、一等ヲ減ス、
不應爲條例
第二百八十九條 凡二人以上、同ク
不應爲ヲ犯シ、首タル者懲役三十
日ニ該レハ、從ハ、懲役二十日、首タ
ル者、懲役七十日ニ該レハ、從ハ、懲
役六十日ニ科ス、若シ所犯、輕重ノ
分アレハ、不應爲輕重ニ分擬シ、首

<small>八年百三十三號布告ヲ以テ 十七百九十一條ヲ刪</small>									
<p>從テ以テ論セス、</p> <p>第二百九十條 凡佛像ヲ棄毀スル者ハ、不應爲重ニ科ス、</p> <p>第二百九十一條 凡詭言恠說ヲ流傳シ、及ヒ著述シテ、政體ヲ妨害スル者ハ、不應爲重ニ科ス、</p> <p>捕亡律</p> <p>追捕罪人條例</p> <p>第二百九十二條 凡捕吏、正犯ノ財ヲ受ケ、故縱スル同罪者、正犯、死ニ至レハ、同罪者ハ、絞ニ處スル律ヲ改メ、懲役終身ニ從フト雖モ、其財ヲ受スシテ、故縱シ、及ヒ通信シテ、逃避セシムル同罪者ハ、罪懲役十年ニ止ル、</p>									

捕亡律

追捕罪人

凡捕吏、差遣ヲ承ケ、罪人ヲ追捕スルニ、事故ニ託シテ行カス、若クハ罪人ノ所在ヲ知テ、捕ヘサル者ハ、杖一百、若シ財ヲ受ケ、故縱スル者ハ、囚ト同罪、賊重キ者ハ、賊ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

罪人拒捕

十年廿五號布告ヲ以テ罪人ヲ拒捕正ス中

凡罪ヲ犯シテ逃走シ、追捕ヲ拒ク者ハ、各本罪上ニ、二等ヲ加ヘ、罪、流ニ等ニ止ル、本罪死スヘキ者ハ、常律ニ依ル、捕吏ヲ毆チ、折傷以上ニ至ル者ハ、絞、殺ス者ハ、斬、從タル者ハ、各一等ヲ減ス、

若シ罪人、兇器ヲ持シ、拒捕スルニ、捕吏之ヲ格殺シ、及ヒ囚逃走スルニ、捕吏之ヲ逐殺シ、若クハ囚追逐ニ因テ窘迫シ、自殺スル者ハ、並ニ論スルヲ勿レ、

若シ罪囚、逃走スト雖モ、已ニ拘執ニ就キ、及ヒ拒捕セサルニ、捕吏之ヲ殺シ、或ハ折傷スル者ハ、各開殺傷ヲ以

テ論ス、若シ死罪ニ該ル罪人ヲ、捕吏一時忿激シテ、擅殺スル者ハ、杖九十、
獄囚脱レ監及反レ獄逃走

凡罪ヲ犯シ、囚禁セラレテ、脱監、及ヒ越獄シテ、逃走スル者ハ、各本罪上ニ、二等ヲ加ヘ、罪、流三等ニ止ル、本罪、死スヘキ者ハ、常律ニ依ル、

若シ罪囚、反獄シテ、逃走スル者ハ、皆斬、同牢ノ囚人、反情ヲ知ラサル者ハ、坐セス、

其罪囚、水火震災ノ變ニ因テ逸出シ、投歸スル者ハ、斬絞以下、各一等ヲ減ス、

第十四
年
五月
廿五
號
以
下
布
告
ヲ
應
テ
ス

獄囚脱監及反獄逃走條例

第二百九十三條 凡脱監及ヒ越獄シテ、逃走スル者ハ、各本罪上ニ、二等ヲ加ヘ、罪、流三等ニ止ル律ヲ改メ、懲役終身ニ止ル、

第二百九十四條 凡反獄シテ、逃走スル者ハ、皆斬ニ處スル律ヲ改メ、首ハ、斬、從ハ、懲役終身、

第二百九十五條 凡罪囚、糾合シテ、越獄スルニ、從ハス、實ニ據テ首報シ、因テ罪囚、即時ニ獲ニ就キ、脱逃ヲ致サ、ルコトヲ得ル者、及ヒ反獄ノ情ヲ知テ、首報スル者ハ、斬絞以

徒流人逃

凡徒流ノ囚人、役限、未タ滿スシテ、逃走スル者ハ、杖七十、仍ホ配所ニ發シ、其徒流原犯ノ年限ニ照シテ、新ニ拘

下、各本罪ニ、一等ヲ減ス、

第二百九十六條 凡脱監及ヒ越獄シテ、逃走スル者、再逃以上ハ、又二等ヲ累加シ、罪、懲役終身ニ止ム、懲役場ヲ逃走シ、又監獄ヲ脱越スル者、罪、亦同、

第二百九十七條 凡犯人、責付内ニ、逃走スル者ハ、本罪ニ、一等ヲ加フ、若シ囚禁、及ヒ責付内ニ、逃走シテ、自首スル者ハ、止タ本罪ヲ科シテ、逃罪ヲ免ス、

懲役人逃條例原徒流人逃律

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人、限内、逃走スル者ハ、杖七十、改テ棒鎖二日、再ヒ逃走スル者ハ、絞

<small>九年二十 二號布告 ヲ以テ三 百二條ヲ 刪シテ二 百一十條 ニ改メテ 補シテ五 十一年十 二月十日 布告ヲ以 テ之ヲ改 正ス</small>											
者ハ、役限ヲ全加シテ、折半スルコ ヲ用ヒス、	第三百二條 凡懲役終身ノ囚人、逃 走スル者ハ、絞、	第三百三條 凡懲役人、逃走シテ、自 首スル者ハ、逃罪ヲ免シ、仍ホ原犯 ノ年限ニ照シテ、新ニ拘役ス若シ 外ニ在テ、又罪ヲ犯ス者ハ、自首法 ニ照シテ、首免ヲ與フト雖モ、其逃 罪、及ヒ從新拘役ハ、仍ホ本法ヲ盡 ス、	第三百四條 凡懲役人ノ逃走ヲ報シ、 因テ逃走ヲ致サ、ルコトヲ得ル者ハ、 本罪ニ、一等ヲ減ス、	第三百五條 凡懲役人、逃走ヲ圖リ、							

<small>第十四 年五月 廿五號 布告ヲ以 テ其變ニ テ以テ下 ヲ刪除ス</small>											
未タ役場ヲ離レシテ、捕ニ就ク 者ハ、棒鎖二日、從新拘役ノ限ニ在 ラス、	第三百六條 凡懲役人、水火震災ノ 變ニ因テ逸出シ、二十四時間ニ、投 歸スル者ハ、逃罪ヲ問ハス、若シ時 ヲ過テ、投歸セサル者ハ、例ニ照シ テ、棒鎖二日、仍ホ原役ノ剩ル日數 ヲ役ス、其變ニ遇ヒ内ニ在テ逸出 セス、能ク消救防禦スル者ハ、本罪 ニ一等ヲ減ス、	第三百七條 凡禁錮限内、外人ニ接 見通信シ、若クハ、疾病療養等ニ託 シテ、潜出行歩スル者ハ、原限ノ年 日ニ照シテ、新ニ之ヲ科ス、若シ潛									

主守不覺失囚

凡主守、罪囚ノ逃走スルヲ、覺ラサル者ハ、笞四十、若シ罪囚、反獄シテ逃走スルトキハ、一等ヲ減ス、故縱スル者ハ、各四ト同罪、罪流三等ニ止ル、若シ未タ斷決セサルノ間、自ラ捕獲シ、及ヒ他人捕得シ、若クハ囚已ニ死シ、及ヒ自首スレハ、各一等ヲ減ス、財ヲ受ル者ハ、贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

若シ賊、外ヨリ獄ニ入り、罪囚ヲ劫スニ、防禦スト雖モ、力、敵スルヲ能ハサ

主守不覺失囚條例

第三百八條 凡主守、看守ニ失シ因テ未決ノ囚、自盡ニ至ラシムル者ハ、懲役三十日、

第三百九條 凡主守、囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ、捕限三十日ヲ給シ、追捕セシム、限内、捕得スレハ、二等ヲ減ス、其故縱スル者ハ、捕限ヲ給セス、

第三百十條 凡保管人囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ、主守不覺失囚律ニ、二等ヲ減ス、

ル者ハ、論スルコト勿レ、

藏匿罪人

凡他人、罪ヲ犯シ、事發シテ、官司、人ヲ差ハシ、追喚スルヲ知り、家ニ藏匿シテ、捕告ヲ行ハス、及ヒ逃走スル道路ヲ指引シ、衣糧ヲ資給シ、送テ他所ニ隱避セシムル者ハ、各罪人ノ罪ニ、一等ヲ減ス、其輾轉シテ相送り、罪人ヲ隱匿スル者、情ヲ知ル者ハ、皆坐ス、知ラサル者ハ、論スルコト勿レ、

若シ官司ノ追捕ヲ偵知シテ、其事情ヲ漏泄シ、罪人ヲシテ、隱避セシムル者モ、罪人ノ罪ニ、一等ヲ減ス、未タ斷決セサルノ間、自ラ捕獲スル者ハ、罪ヲ免ス、若シ他人捕得シ、及ヒ罪人已

藏匿罪人條例

第三百十一條 凡官司、人ヲ差ハシ、追喚スル罪人タルコトヲ知テ、爲メニ、藏匿指引シテ、隱避セシムル者ハ、各罪人ノ罪ニ、一等ヲ減スル律ヲ改メ、減二等ニ從フ、若シ罪人、未タ官司ノ追喚ニ係ラス、若クハ、已ニ追喚スル者ト雖モ、未タ知ラスシテ、藏匿隱避セシムル者ハ、俱ニ情ヲ量テ、不應爲ニ問ヒ、輕重ヲ分ツ、

ニ死シ、若クハ自首スレハ、又各二等ヲ減ス、

其罪人ニ、迫劫セラレ、力、制スルコト能ハス、已ムコトヲ得スシテ、藏匿スル者ハ、二等ヲ減ス、

斷獄律

故ニ禁無罪人

凡官吏、私讎ヲ懷挾シ、故サラニ無罪人ヲ禁獄スル者ハ、徒一年、因テ死ニ致ス者ハ、絞、司獄官、獄卒、知テ舉首セサル者ハ、同罪、罪、流三等ニ止ル、知ラサル者ハ、坐セス、
若シ官吏、私讎ヲ懷挾シ、故サラニ無罪人ヲ拷訊スル者ハ、徒一年、折傷以上ハ、凡鬪傷ニ二等ヲ加フ、因テ死ニ

斷獄律

致ス者ハ、斬、同僚官、獄卒、情ヲ知テ、共ニ拷訊スル者ハ、同罪、罪、流三等ニ止ル、知ラサル者ハ、坐セス、
陵ニ虐罪囚
凡獄卒、非理ニ在獄ノ罪囚ヲ、陵虐毆傷スル者ハ、凡鬪傷ニ依テ論ス、罪囚ノ衣食ヲ尅減スル者ハ、贓ニ計ヘ、監守自盜ヲ以テ論ス、因テ死ニ致ス者ハ、絞、司獄官吏、知テ舉セサル者ハ、同罪、罪、流三等ニ止ル、
與ニ囚金又

與囚金又條例
第三百十二條 凡常人、囚ニ金又ヲ與ヘ、及ヒ子孫、祖父母、父母ニ與ヘ、雇人、家長ニ與フル者ハ、各獄卒ノ罪ニ、一等ヲ減ス、

ハ、徒二年若シ囚自殺シ、及ヒ人ヲ殺ス者ハ、徒二年、

若シ財ヲ受ル者ハ、贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

殺囚翻異

凡司獄官獄卒、罪囚ニ殺令シテ、事情ヲ翻異變亂セシメ、及ヒ爲ニ、言語ヲ外人ニ通傳シ、其罪ヲ増減スル者ハ、故出入人罪律ヲ以テ論ス、外人ノ犯ス者ハ、一等ヲ減ス、若シ財ヲ受ル者ハ、並ニ贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

老幼不拷訊

凡年七十以上、十五以下、若クハ、廢疾

第三百十三條 凡獄卒、金錢、其他應

禁ノ物ヲ傳遞シテ、囚ニ與フル者

ハ、違令重ニ問フ、若シ財ヲ受ル者

ハ、贓ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從

テ論ス、

者ハ、並ニ拷訊ス可カラス、皆衆證ニ據テ、罪ヲ定ム、違フ者ハ、故失入人罪律ヲ以テ論ス、其相容隱スルコトヲ得ルノ人、及ヒ年八十以上、十歳以下、若クハ篤疾者ハ、皆證タラシムルコトヲ得ス、違フ者ハ、答四十、

獄囚誣指無罪人

凡罪囚、獄ニ在テ、無罪人ヲ誣指スル者ハ、誣告ヲ以テ論シ、其本犯罪重キ者ハ、重キニ從テ論ス、

若シ官吏、獄囚ヲ鞠問スルニ、非法ニ拷訊シ、故サラニ、殺令ヲ行ヒ、無罪人ヲ誣指スル者ハ、故入人罪律ヲ以テ論ス、

若シ囚ヲ鞠シテ、證佐ノ人、實情ヲ言

ハス、故サラニ証證ヲ行フ者ハ、罪人ノ罪ニ、二等ヲ減ス、

出入人罪

凡官吏、故サラニ人ヲ罪ニ出入シ、全ク出タシ、全ク入ル、者ハ、出入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス、若シ故サラニ輕ヲ増シテ、重ト作シ、重ヲ減シテ、輕ト作ス者ハ、其増減スル所ノ罪ヲ以テ坐ス、死ニ至ル者ハ、坐スルニ、死罪ヲ以テス、

若シ罪ヲ斷シテ、入ル、ニ失スル者ハ、各三等ヲ減ス、出タスニ失スル者ハ、各五等ヲ減ス、並ニ罪、所由ヲ以テ、首ト爲ス、
若シ四、未タ處決放免セス、及ヒ放テ

六年七十
三號布告
ヲ以テ出
入人罪例
ヲ設クヘシ
照スヘシ

九年四十
八號布告
ヲ以テ失
出入人罪
律ヲ廢ス

出入人罪條例

第三百十四條 凡故ラニ出入シ、及ヒ入ル、ニ失スル罪人ハ、已ニ斷了ヲ經ルト雖モ、檢擧シ、改正スルコトヲ得ヘキ者ハ、改正シ、其出タスニ、失スル者ハ、貼斷スルコトヲ用ヒス、
第三百十五條 凡官司、屍傷ヲ檢視シテ、實ナラサル者ハ、懲役四十日、
因テ罪ニ、増減アル者ハ、失出入人罪ヲ以テ論ス、若シ財ヲ受ケ、故ラニ實ヲ以テセサル者ハ、故出入人罪ヲ以テ論ス、賊重キ者ハ、賊ニ計ヘ、枉法ヲ以テ、重キニ從テ論ス、

九年四十
八號布告
ヲ以テ失
出入人罪
條例ヲ廢
ス

還タ獲、若クハ四、自死スレハ、官吏ノ罪、又各一等ヲ減スルコトヲ聽ス、

答杖不レ如レ法

凡官吏、答杖ヲ用ルニ、故サラニ法ノ如クセサル者ハ、答三十、因テ死ニ致ス者ハ、杖一百、埋葬金二十五兩ヲ追徴ス、答杖ヲ行フノ人ハ、各一等ヲ減シ、金兩ヲ追徴セス、若シ罪人ノ臂腰、刑ヲ受クヘキ處ヲ、法ニ依リ、決打シテ、邂逅ニ死ニ致ス者ハ、論スルコト勿レ、

婦人犯レ罪

凡婦人、輕罪ヲ犯スハ、本夫ニ責付シテ、保管セシム、如シ夫ナキ者ハ、親屬隣保ニ責付シテ、保管セシム、重罪ハ、

禁獄スルコトヲ許ス、違フ者ハ、笞二十、	若シ婦人、懷孕シテ、罪ヲ犯シ、拷訊ス	ヘキ者ハ、上條ノ如ク、保管シ、産後一	百日ヲ待テ、拷訊スヘシ、若シ未タ産	セサルニ、拷訊スル者ハ、杖九十、因テ	墮胎スル者ハ、徒一年半、死ニ致ス者	ハ、流三等、	若シ懷孕ノ死囚ハ、穩婆ニ看視セシ	メテ、後ニ監禁ス、産ノ期ニ臨メハ、親	屬隣保ニ責付シ、産後一百日ヲ待テ、	乃刑ヲ行フ、未タ産セシテ、決スル	者ハ、徒一年半、産シ訖ルモ、日限未タ	満スシテ、決スル者ハ、杖八十、失誤ス	ル者ハ、各三等ヲ減ス、	死囚奏請待報
死囚奏請待報條例														

凡死囚ヲ奏請シ、回報ヲ待タス、輒ク	處決スル者ハ、杖七十、	若シ禁刑ノ日ニ於テ、決スル者ハ、笞	三十、	斷罪不當	凡罪ヲ斷シテ、決配ス可キヲ、故サラ	ニ收贖シ、收贖ス可キヲ、決配スル者	ハ、故出入人罪律ニ依テ、一等ヲ減ス、	失誤スル者ハ、失出入人罪律ニ依テ、	一等ヲ減ス、	若シ絞ス可キヲ、故サラニ斬シ、斬ス	可キヲ、絞スル者ハ、笞五十、失誤スル	者ハ、二等ヲ減ス、	九百八十八條	九百八十九條	九百九十條	九百九十一條	九百九十二條	九百九十三條	九百九十四條	九百九十五條	九百九十六條	九百九十七條	九百九十八條	九百九十九條	一千條		
第三百十六條 凡獄已ニ成リ、罪、死	ニ該ル者ヲ奏請シ、待報内ニ在テ、	死亡スルニ、遺骸ハ、親屬請フ者ア	レハ、下付スルコトヲ聽ス、	斷罪不當條例	第三百十七條 凡收贖ス可キヲ、誤	テ實斷スル者、改正スルコトヲ、得ヘ	キ者ハ、改正シ、其實斷ス可キヲ、誤	テ收贖スル者ハ、貼斷スルコトヲ用	ヒス、	第三百十八條 凡罪ヲ斷スルハ、口	供結案ニ依ル、若シ甘結セシテ、	死亡スル者ハ、證佐アリト雖モ、其	罪ヲ論セ、ス	八百九十七	八百九十八	八百九十九	九百	九百一	九百二	九百三	九百四	九百五	九百六	九百七	九百八	九百九	一千

新律綱領卷五									
以テ議 律ヲ定 スヘシ 参照ス									
改定律例卷二									

改定律例官吏
公罪贈例圖及
二十條ヲ以
テ改ム

第三千卅三 明治四年八月廿二日布告

新律名例官吏公罪ヲ犯シ及ヒ過誤失錯シテ罪咎杖ニ該ル者ハ折半シテ謹慎閉門ニ換ヘ處斷
セシ處却テ日用事務ニ差支候ニ付向後名例ヲ改メ官吏ノ公罪及過誤失錯ハ官吏贖罪例ニ依
テ處斷シ私罪ハ律ニ照シ舊ニ依リ處斷スヘキ事非職華士族卒過誤失錯ノ犯罪ハ改正名例ニ
依リ處斷スヘキ事

官吏贖罪例圖

改正名例

右頒布候條新律名例中官吏公罪ノ一條可削去事

官吏贖罪例圖

凡官吏ノ贖罪ハ公罪ヲ犯シ及ヒ過誤失錯シテ杖以下ニ該ル者例ニ照シ贖ヲ聽ス

例	勅任	奏職華族任	判任
		非職華族任	

答	一十	二十	三十	四十	五十	六十	七十	八十	九十	一百
	二	四	六	八	一十	一十二	一十四	一十六	一十八	二十
	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩
	一兩二分	三兩	四兩二分	六兩	七兩二分	九兩	一十兩二分	一十二兩	一十三兩二分	一十五兩
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一十
	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩	兩

犯公罪及過誤失錯明治四年七月改正
 凡内外官吏公罪ヲ犯シ及ヒ過誤失錯シテ罪杖以下ニ該ル者ハ勅奏判ヲ分チ各贖例ヲ照シ贖罪ヲ聽ス徒一年以上ヲ犯ス者ハ勅奏判ヲ分タヌ官一等ヲ降シ徒二年以上ヲ犯ス者ハ官二等ヲ降ス若シ降スヘキ官等無キ者ハ等外贖例ニ依ル

其非職華族過誤失錯ヲ犯スハ奏任官贖例ニ照シ等外吏及ヒ非職士族卒ハ庶人贖例ニ照シ各贖罪ヲ聽ス

【第二千卅四】 明治五年三月十二日布告

第八十號

新律綱領中勅奏官位犯罪ノ條今般左ノ通條例相立候間此段相違候事

勅奏官位犯罪條例

凡勅奏官及非職華族罪ヲ犯セハ其事由ヲ奏聞シテ旨ヲ請ヒ推問スト雖モ若シ事急卒ニ出テ即時推問セサルヲ得サル者ハ推問シテ後ニ奏聞スルヲ聽ス其公罪及過誤失錯ニ係リ待罪ノ文案明白ニシテ推問ヲ待サル者ハ笞杖以下臨時處斷シテ後奏聞スルヲ聽ス

【第二千卅五】 明治五年八月二日布告

第二百十六號

兇徒聚衆ノ律内附和隨行ノ者ハ論スル勿レト有之候處自今改テ違令ノ輕重ニ照シ贖罪可申付事

【第二千卅六】 明治五年八月廿九日布告

第二百四十四號

官吏犯私罪律別紙ノ通改正相成候條以來ハ此例ニ照シ處斷可致事

同年三百七號
 布告ヲ以テ改
 正ス

改定律例百五
 十二條ニ依テ
 消ル

改定律例二十
三條ニ依テ消
ル

官吏犯私罪

凡内外官吏私罪ヲ犯シ及ヒ有心故造シテ杖刑ヲ犯ス者ハ官一
等ヲ降シ徒刑ヲ犯ス者ハ免職ニ止ムルノ例ヲ改メテ士族
犯罪法ノ如ク一體ニ閏刑ニ處ス

第三千卅七 明治五年九月七日布告

第二百五十四號

謀殺本屬長官律別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

謀殺本屬長官條

同年三百三十
二號布告ヲ以
テ改正ス

凡勅奏判官吏ヲ殺ス者ハ凡人謀殺ニ依ル律ヲ改テ一體ニ本屬勅奏判長官ヲ謀殺スル律ニ照
テ科斷ス

第三千卅八 明治五年十月十三日布告

第二百七號

勅奏官位犯罪條例當三月相達置候處左ノ通被改候條此段更ニ相達候事

勅奏官位犯罪條例

改定律例十一
條ニ依テ消
ル

凡勅奏官及非職華族罪ヲ犯セハ其事由ヲ奏聞シテ旨ヲ請ヒ推問スト雖モ若シ事急卒ニ出テ
即時推問セサルヲ得サル者ハ推問シテ後ニ奏聞スルヲ聽ル

第三千卅九 明治五年十月廿四日布告

第三百二十一號

諸省府縣

官吏私罪贖例並罰俸例別冊ノ通被相定候條此旨相達候事

別冊

官吏私罪贖例圖

凡内外官吏私罪ヲ犯シ及ヒ有心故造シテ罪杖以下ニ該ル者ハ閏刑ニ處スル例ヲ改メ例圖ニ
照シテ贖ヲ聽ス

例

杖	六十	二十四圓	十八圓	十二圓
	五十	二十圓	十五圓	十圓
	四十	十六圓	十二圓	八圓
	三十	十二圓	九圓	六圓
	二十	八圓	六圓	四圓
答	一十	四圓	三圓	二圓
		勅任	奏任	判任以下

七十	二十八圓	二十一圓	十四圓
八十	三十二圓	二十四圓	十六圓
九十	三十六圓	二十七圓	十八圓
一百	四十圓	三十圓	二十圓

本管其贖ヲ追スル法五日内ヲ限ルト雖モ官十二等以下ハ二個月ニ追シ十四等以下ハ四個月ニ追シ等外吏ハ七個月ニ追シ各數滿テ司法省ニ納完ス

官吏罰俸例圖

凡内外官吏公罪ヲ犯シ及ヒ過誤失錯シテ罪徒以上ニ該ル者ハ降官ニ處スル律ヲ改メ例圖ニ照シテ俸ヲ追ス其官十四等以下ハ平民贖罪例ニ依ル

例

徒	一年	罰俸 一月
	一年半	一月半
	二年	二月

改定律例百六十五條以下及同二百十六條以下及同二百三十四條以下ニ依テ消ル

二年半	二月半
三年	三月
一等	五月
二等	七月
三等	十月

本管其俸ヲ追スル法毎月給俸ノ半ヲ領置シ各數滿テ司法省ニ納完ス假令ハ一月ノ罰ハ二個月ニ追シ一月半ノ罰ハ三個月ニ追シ以上之ニ準ス若シ免職死亡スル者ハ追スルヲ免ス

第三千四十

明治五年十一月五日布告

別紙

謀殺本屬長官

凡本屬ノ勅奏判任長官ヲ謀殺スル律ヲ廢シテ更ニ謀殺官吏律ヲ設ク

謀殺官吏

凡勅任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流三等從ハ徒二年已ニ傷スル者首ハ斬從ニシテ加功

スル者ハ流三等加功セサル者ハ徒三年已ニ殺ス者ハ皆斬
凡奏任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流二等從ハ徒一年半已ニ傷スル者首ハ絞從ニシテ加
功スル者ハ流三等加功セサル者ハ徒二年已ニ殺ス者ハ皆斬
凡判任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流一等從ハ徒一年已ニ傷スル者首ハ絞從ニシテ加功
スル者ハ流三等加功セサル者ハ徒三年已ニ殺ス者ハ皆斬

謀殺官吏附例

凡判任官勅任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流二等從ハ徒一年半已ニ傷スル者首ハ絞從ニ
シテ加功スル者ハ流三等加功セサル者ハ徒二年已ニ殺ス者ハ皆斬
若シ奏任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流一等從ハ徒一年已ニ傷スル者首ハ絞從ニシテ加
功スル者ハ流三等加功セサル者ハ徒二年已ニ殺ス者ハ皆斬
凡奏任官勅任官ヲ謀殺スル者ハ判任官奏任官ヲ謀殺スルト罪同シ其勅任官奏任官ヲ謀殺シ
及ヒ奏任官判任官ヲ謀殺スル者ハ凡人謀殺ヲ以テ論ス

毆本屬長官

凡本屬ノ勅奏判任長官ヲ毆ツ律ヲ廢シテ更ニ毆官吏律ヲ設ク

毆官吏

凡勅任官ヲ毆ツ者ハ流一等傷スル者ハ流三等折傷以上ハ絞

若シ奏任官ヲ毆ツ者ハ徒二年傷スル者ハ徒三年折傷以上ハ流二等廢疾ハ絞
若シ判任官ヲ毆ツ者ハ杖九十傷スル者ハ徒一年折傷以上ハ徒三年廢疾ハ流一等篤疾ハ絞死
ニ至ル者ハ並ニ斬

毆官吏附例

凡判任官勅任官ヲ毆ツ者ハ杖九十傷スル者ハ徒一年半折傷以上ハ流一等廢疾ハ絞
若シ奏任官ヲ毆ツ者ハ杖七十傷スル者ハ杖一百折傷以上ハ徒三年廢疾ハ流三等篤疾ハ絞死
ニ至ル者ハ並ニ斬

凡奏任官勅任官ヲ毆ツ者ハ判任官奏任官ヲ毆ツト罪同シ其勅任官奏任官ヲ毆チ及ヒ奏任官
判任官ヲ毆ツ者ハ並ニ凡關毆ヲ以テ論ス

罵本屬長官

凡本屬ノ勅奏判任長官ヲ罵ル律ヲ廢シテ更ニ罵官吏律ヲ設ク

凡勅任官ヲ罵ル者ハ徒一年奏任官ヲ罵ル者ハ杖九十判任官ヲ罵ル者ハ杖六十並ニ親ヲ聞テ
乃坐ス

附例

凡判任官勅任官ヲ罵ル者ハ杖六十奏任官ヲ罵ル者ハ笞四十並ニ親ヲ聞テ乃坐ス
凡奏任官勅任官ヲ罵ル者ハ判任官奏任官ヲ罵ルト罪同シ其勅任官奏任官ヲ罵リ及ヒ奏任官

判任官ヲ罵ル者ハ並ニ凡人罵詈ヲ以テ論ス

〔第三千四十一〕 明治五年十一月廿七日布告

第三百六十六號

雇人盜家長財物律左ノ通改正候條此段相違候事

改正雇人盜家長財物條

一凡人ニ雇ハル者其家長ノ財物ヲ盜メハ凡盜ニ一等ヲ加ヘ管守者ハ又一等ヲ加ヘ加ヘテ死ニ入ル其管守者私ニ自ラ借用シ及ヒ人ニ貸與スル者モ亦同シ

雇人盜家長財物附例

一凡旅店貸藏及ヒ雇工船戶脚夫馬子車丁等人ノ寄託スル財物ヲ盜メ者ハ並ニ管守者ト罪同

〔第三千四十二〕 明治五年十一月廿九日布告

第三百七十六號

諸省府縣

新律加減罪例律内ニ流同爲一減ノ項別紙ノ通御改正且限内老疾收贖圖被相設候條自今右例ニ照シ處分可致事

準流限内老疾收贖圖

凡準流限内ニ在リ老疾スル者ハ例圖ニ照シテ收贖ヲ聽ス其日數金數ノ積算扣除法ハ徒限内老疾收贖例ニ同シ

改定律例百四十三條百四十四條ニ依テ消ル

改定律例暨改限内老疾收贖例圖及八十三條ニ依テ消ル

改定律例九十一條及九十四條ニ依テ消ル

例

準流五年 十五圓

七年 二十一圓

十年 三十圓

加減罪例附例

凡三流ハ各同ク一減ト爲ス律ヲ改テ徒刑以下ト同ク分テ三等ト爲シテ減ス其二死ノ減法ハ仍ホ本律ニ依ル

〔第三千四十三〕 明治六年一月九日布告

第五號

諸省府縣

新律名例改正並附例ノ通被相定候條右ニ照準シテ徒流ノ罪囚決放可致事

徒限内(改)贖圖附例

凡徒流人年限其發配改曆以前ニ在ル者ハ名例三百六十日ノ數ニ依テ決放シ以後ニ在ル者ハ改正例ノ日數ニ依テ決放ス

稱日者以十二時條改正

一凡一日十二時ヲ以テスル者改テ二十四時ヲ以テス一年三百六十日ヲ以テスル者改テ三百

第十七類 律例沿革

五百九

六十五日ヲ以テシ閏年ハ二百六十六日ヲ以テス

第三千四十四 明治六年二月七日布告

第三千九號

同年百二十二號布告ヲ以取消ス

新律父祖被毆律別紙ノ通改正相成候條此段相違候事

諸省府縣

父祖被毆律 明治六年二月二日改正

父祖被毆律祖父母、人ニ殺サレ、子孫擅ニ行兇人ヲ殺ス以下ヲ廢シ、若シ犯ス者アレハ、臨時奏請シテ區處ス、

第三千四十五 明治六年二月八日布告

第四十二號

犯姦律別紙ノ通改正候條自今右ニ照準シテ處斷可致事

犯姦律 明治六年二月八日改正

犯レ姦

凡和姦、夫アル者ハ、各徒一年、妾ハ、一等ヲ減ス、若シ媒合、及ヒ容止シテ、通姦セシムル者ハ、犯人ノ罪ニ、二等ヲ減ス、

強姦スル者ハ、流ニ等、未タ成ラサル者ハ、一等ヲ減ス、因テ折傷スル者ハ、終身懲役、婦女ハ、坐セス、十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ、和ト雖ヒ、強ト同ク論ス、

親族相姦

改定律例十四條ニ依テ消ス

第三千四十六 明治六年二月八日布告

第四十四號

閩刑條内廢爲庶人之律別紙附例之通改定相成候條此段相違候事

閩刑 明治六年二月八日改正

凡華士族、犯罪、破廉耻甚ニ係リ、廢シテ庶人ト爲ス者、改テ除族ト稱ス、其除族ニ該ル者ハ、祿ヲ收メ、本犯一人ヲ除シ、族ハ、子孫ニ襲カシム、

第三千四十七 明治六年二月九日布告

第四十五號

第十七類 律例沿革

改定律例九十一條ニ依テ消

名例律內稱日者以二十四時條附例左ノ通被相定候條此段可相心得候事

稱日者以二十四時條附例

凡一月ト稱スル者ハ三十日ヲ以テシ半年ト稱スル者ハ六ヶ月ヲ以テス閏年ノ徒限内ニ在ル者ハ一日ヲ算加ス

第三千四十八 明治六年二月十七日布告

第五十八號

私借官物律別紙ノ通改正候條此段相達候事

改定律例百五條ニ依テ消

私借官物 明治六年二月十五日改正

凡監臨、主守、監守スル所ノ官ノ財物ヲ私ニ借用シ、若クハ人ニ轉借シ、及ヒ自己ノ物ヲ以テ、官物ニ抵換スル者ハ、監守自盜ト、罪同、其監守人ニ非スシテ借用シ、情ヲ知ル者ハ、罪同、知ラサル者ハ、坐セス、

第三千四十九 明治六年二月二十五日布告

第六十九號

贖罪收贖例別紙ノ通改正候條自今右ニ照準シテ處斷可致事

改定律例贖罪收贖例圖ニ依テ消

贖罪收贖例圖 明治六年二月十八日改正

凡贖罪ハ平民、過誤、失錯、連累、其他不幸ニ出テ、事情憫諒ス可クシテ、的決シ難キ者、例圖ニ照

改定律例第三十條ニ依テ消

シテ贖罪ス、
凡收贖ハ、老少癡疾ノ矜恤ス可キ者、例圖ニ照シテ收贖ス、
凡士族以上ノ婦女、的決シ難キ者ハ、贖罪シ、卒以下ノ婦女ハ、收贖スル者、改テ、俱ニ老少癡疾ト同ク收贖ス、

庶人犯レ罪不_レ的決_レ例

凡庶人、贖罪ス可キ者、無力ニシテ、贖フ_レ能ハサル者ハ、律ニ依リ、實決スト雖モ、死罪ハ、一等ヲ減シテ、懲役ニ服ス、

第三千五十 明治六年二月廿七日布告

第七十三號

諸省府縣

今般別紙ノ通公事失錯ノ條ヲ改正シ出入人罪ノ例ヲ被設候條此旨相達候事

公事失錯 明治六年二月廿五日改正

其人ヲ罪ニ失出スル者、貼斷スル律ヲ改テ能ク檢擧スト雖モ、貼斷スル_レヲ用ヒス仍ホ失出人罪律ニ依テ之ヲ科ス

改定律例七十條ニ依テ消

出入人罪例

凡故サラニ出入シ及ヒ入ル、ニ失スル罪人、已ニ決配ヲ經ルト雖モ、檢擧シテ改正ヲ得ヘキ者ハ、改正シ其出スニ失スル者ハ、貼斷スル_レヲ用ヒス

改定律例三百十四條ニ依テ消

凡收贖ス可キヲ誤テ決配スル者改正ヲ得ハ誤者ハ改正ス其決配ス可キヲ誤テ收贖スル者ハ貼斷スルヲ用ヒス

第二百五十一 明治六年三月三日布告

第八十三號

雜犯律失火條例別紙ノ通創定相成候條此段相違候事

失火律條例 明治六年三月二日發

凡大廟及ヒ山陵内ニ於テ出火スル者律ニ依リ罪ヲ科スルノ外官幣國幣大社ハ山陵ト同シク論シ中社ハ杖一百小社ハ杖九十府縣社ハ杖七十郷社ハ杖六十延燒スル者ハ各本罪ニ三等ヲ減ス減シテ人ノ宅舍ヲ延燒スルヨリ輕ク若クハ等キハ並ニ一等ヲ加フ

第二百五十二 明治六年三月四日布告

第八十五號

田畑村里ノ近傍人ノ往來スル地ニ於テワナ、オトシ、ア、ナ等ヲ取設候儀堅ク令禁止候事

但深山曠野ニ於テ猛獸、鷲鳥等往來シ人ノ害ヲ爲スニヨリ不得止取設候節ハ人ノ心付キ不近寄、標目印ヲ立又ハ細張等ヲ致シ置ヘシ若目印、細張等ヲ設シテ人ヲ殺傷スル者ハ嚴重御處置可有之候條心得違無之様可致事

第二百五十三 明治六年三月七日布告

改定律例百九十條ニ依テ消ル

第九十五號

窩弓殺傷人律別紙ノ通創定相成候條此旨相違候事

窩弓殺傷人律 明治六年三月七日發

凡深山曠野猛獸ノ往來スル處ニ於テ坑穿ヲ穿作シ及ヒ窩弓ヲ安置シテ望竿及ヒ抹眉索ヲ立サル者ハ笞四十以テ人ヲ傷スル者ハ鬪毆傷ニ二等ヲ減ス減シテ本罪ヨリ輕キ者ハ本罪ニ依テ論シ死ニ致ス者ハ徒二年仍ホ埋葬金二十五圓ヲ追シテ死者ノ家ニ給付ス若シ深山曠野ニ非スシテ人ヲ殺傷スル者ハ車馬殺傷人律ニ依ル

第二百五十四 明治六年三月十八日布告

第一百十一號

二罪俱發以重論律例並毆二等親以下尊長律條例別紙ノ通創定候條此旨相違候事

二罪俱發以重論律例 明治六年三月十七日發

凡罪ヲ犯シ的決贖罪並發スルニ罪各等キ者ハ一の的決ヲ以テ論ス若シ贖罪的決ヨリ重キ者ハ重キニ從ヒ贖罪ニ處ス士族ノ破廉耻甚ヲ犯ス者ハ此例ヲ用ヒス

毆三等親以下尊長律條例

凡卑幼三等親以下ノ尊長ヲ過失殺傷スル者ハ並ニ凡人殺傷ヲ以テ論シ收贖スルヲ聽ス

第二百五十五 明治六年四月二日布告

改定律例二百廿五條ニ依テ消ル

改定律例七十條ニ依テ消ル

改定律例二百
三十二條ニ依
テ消ル

第二百二十二號

父祖被毆律別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但本年第三十九號布告同律ハ取消候事

父祖被毆律明治六年四月
二月改正

父祖被毆律祖父母父母、人ニ殺サレ、子孫、擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ、謀殺ヲ以テ論シ、斬、其即時
ニ、殺死スル者ハ、論スルコト勿レ、

第二百二十六號 明治六年四月十二日布告

第二百二十二號

陸海軍律被相定候ニ付壬申第四十二號ヲ以犯罪者取扱振及布告置候處更ニ別紙律例ノ通改
正候條此旨相達候事

改正軍人犯罪律明治六年四月
十三日頒

凡軍人、軍屬罪ヲ犯スニ、出征、行軍ノ際ニ非スト雖モ、陸軍、海軍、並ニ其律ヲ以テ、處斷スルコ
ト得ヘシ、若シ、事、常人ニ關涉シ、及ヒ共犯ニ係ル者、軍官、逮捕スレハ、軍衛ニ於テ糾問シ、常人
ハ、鞠狀ヲ併セテ、法司ニ交付シ、法司、逮捕スレハ、法衛ニ於テ糾問シ、軍人、軍屬ハ、鞠狀ヲ併セ
テ、軍官ニ交付シ、軍人、軍屬ハ、軍律ニ處シ、常人ハ、常律ニ處ス、其大獄、疑獄ニ係ル者ハ、軍官、
法司、會同商議シテ、各自ニ區處ス、

改定律例廿七
條廿八條ニ由
テ消ル

凡後備兵等其名氏、軍籍ニ在リト雖モ、現ニ軍役ニ服セサル者ハ、仍ホ常人ト同ク、法司、處分
シ訖テ、本屬ノ軍官ニ移告ス、

第二百五十七號 明治六年六月十二日布告

第二百一號

府 縣

本年第九十五號布告窩引殺人律中望竿及ヒ抹眉索ヲ立ツ可キ旨相達置候ニ付テハ、一目瞭然
ノ標索ヲ施設スルハ、勿論ノ事ニ候得共、若シ人々ノ意ニ任シ疎漏ノ舉作ヨリシテ重キ人命ヲ
誤ルニ立至リ候テハ、以ノ外ノ事ニ候間、各地方官ニ於テ厚ク注意シ疎慢無之様精々告示可致
事

第二百五十八號 明治六年六月十三日布告

第二百六號

今般別冊改定律例ヲ頒布候條來ル七月十日ヨリ一般施行可致就テハ、偽造寶貨ノ犯人即決處
斷、地方官ニ御委任相成居候處、自今被廢止從前單行頒布ノ律例及ヒ律案指令等モ一切同日ヨ
リ援引不相成綱領新例ニ正條無之者ハ、更ニ可伺出且百日以下懲役犯人服役致シ難キ地方ハ
管杖實決不苦候條此旨相達候事

(別冊改定律例ハ九百十六新律
綱領ノ下ニ對録ス就テ看ルヘシ)

第二百五十九號 明治六年六月廿五日布告

第二百二十七號

盜賊窩主律例別紙ノ通被定候條此旨相達候事

盜賊窩主條例

凡竊盜ノ窩主再犯以上ニ係ル者ハ律ニ照シ造意不造意同行不同行分贓不分贓ヲ分チ並ニ犯數ニ計ヘ竊盜ト同ク罪ヲ治ス

第二百六十號 明治六年六月廿八日布告

第二百三十一號

偽造寶貨條例別紙ノ通創定候條此旨相達候事

偽造寶貨條例 明治六年六月

凡紙幣ニ印スル漏印及ヒ倒用スル者ハ一張ニ懲役十日ニ張毎ニ一等ヲ加ヘ罪懲役七十日ニ止ル若シ検査官吏臆服交收スル者罪亦同

第二百六十一號 明治六年七月廿日布告

第二百六十號

官吏受財條例別紙ノ通創定候條此旨布告候事

官吏受財條例

凡枉法不枉法ヲ以テ論シ及ヒ准シテ論スル罪平民ハ等外人ト同ク罪ヲ科ス

第二百六十二號 明治六年七月廿三日布告

第二百六十六號

竊盜條例左ノ通相定候條此旨布告候事

竊盜條例

凡竊盜四犯財ヲ得ル者ハ贓ノ多寡ヲ論セス懲役終身

第二百六十二號 明治六年七月廿四日布告

第二百六十七號

名例律再犯加等罪例條例及ヒ賊盜律監守盜常人盜條例左ノ通創定候條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡監守及常人盜再犯スル者ハ竊盜ト同ク並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ

監守盜條例

凡監守盜再犯スル者ハ財ヲ得スト雖モ、一等ヲ加フ、三犯、三十圓以下、懲役終身、三十圓以上、

絞

常人盜條例

凡常人盜再犯スル者ハ財ヲ得スト雖モ、一等ヲ加フ、三犯、四十圓以下、懲役終身、四十圓以上、

絞

九年百一號布告ヲ以テ監守盜常人盜條例ヲ改正ス

第二百六十四 明治六年七月廿四日布告

第二百六十九號

強盜條例左ノ通創定候條此旨布告候事

強盜條例

凡強盜、脅誘セラレ、畏懼隨行、二次ニ及フ者ハ、本律ニ依テ科シ、減等ノ例ヲ用ヒス、

第二百六十五 明治六年七月廿四日布告

第二百七十號

給沒贓物條例左之通創定候條此旨布告候事

給沒贓物條例

凡正贓轉輾シテ、遠地ニ在ル者、其郵遞費用ハ、本犯ニ償ハシムト雖モ、本犯資力ナケレハ本主ニ償ハシム、若シ本主、郵遞ノ經費ヲ厭フ者ハ、正贓所在ノ地ニ於テ其物品ヲ販賣シ、金圓ヲ本主ニ還給ス

第二百六十六 明治六年七月廿八日布告

第二百七十三號

犯姦條例左之通創定候條此旨布告候事

犯姦條例

凡妻妾ヲ縱容シテ人ト通姦セシムル者ハ本夫姦夫姦婦各懲役一年因テ財ヲ圖ル者ハ枉法ニ准シ重キニ從テ論ス

第二百六十七 明治六年七月三十日布告

第二百七十四號

居喪犯姦律左之通改正候條此旨布告候事

改正居喪犯姦律

父母舅姑夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ各凡姦ニ一等ヲ加フル律ヲ改メ父母舅姑ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ凡姦ヲ以テ論シ夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ有夫ヲ以テ論ス相姦スルノ人ハ並ニ同罪

第二百六十八 明治六年八月二日布告

第二百七十九號

詐偽律中偽造斛斗秤尺條例左ノ通創定候條此旨布告候事

偽造斛斗秤尺條例

凡斛斗ノ邊縁ヲ増補シ秤量ノ標星懸紐ヲ變換シテ利ヲ圖ル者ハ懲役一年半情輕キ者ハ不應爲律ニ間ヒ輕重ヲ分ツ

第二百六十九 明治六年八月九日布告

九年四十八號
布告ヲ以廢ス

第二百九十三號

官吏犯公罪條例左ノ通創定候條此旨布告候事

官吏犯公罪條例

凡教導職公罪及ヒ過誤失錯之罪ヲ犯ス者奏任以上ハ華族贖罪例ニ依リ判任ハ士族贖罪例ニ依ル其私罪ヲ犯ス者ハ一體ニ閩刑ニ處ス

第三千七十

明治六年八月十二日布告

第二百九十八號

訴訟律内越訴條廢止候條此旨布告候事

但各裁判所及ヒ地方官ノ裁判ニ服セサル事アリテ上告セントスル者ハ司法省布達壬申四十六號本年廿三號之通可相心得事

第三千七十一

明治六年八月十二日布告

第二百九十九號

改定律例第二百七十五條左之通改正候條此旨布告候事

第二百七十五條 凡火ヲ失シテ人ヲ燒死ニ致ス者ハ死屍ノ多寡ヲ論セス一等ヲ加フ其同居一等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者ハ懲役百日二等親以下ノ尊長ハ各一等ヲ遞減シ卑幼ハ各等親ニ照シ尊長ニ二等ヲ減ス減シテ罪致人燒死律ヨリ輕キ者ハ減セス其各居ニ係ル者ハ等親尊

司法省布達壬
申四十六號六
年廿三號ハ八
年九十三號布
告ニ依テ消ル

卑ヲ論セス並ニ致人燒死下罪同

第三千七十二

明治六年十月八日布告

第二百三十六號

明治五年壬申中懲役八年限ノ儀ハ十二月二日ヲ以テ一月ト算計可致此旨布告候事

第三千七十二

明治六年十月十七日布告

第二百四十九號

監守自盜條例及犯姦條例左ノ通創定候條此旨布告候事

監守自盜條例

凡監守自盜財ヲ得サル者ハ懲役六十日

犯姦條例

強姦死ニ致ス者ハ斬

第三千七十四

明治六年十二月廿八日布告

第四百三十四號

改定律例第七十六條左ノ通改正候條此旨布告候事

凡府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官ト爲シ參事ヲ判官ト爲シ屬ヲ主典トナス其公罪ヲ犯ス者ハ此例ニ依リ遞減シテ罪ヲ科ス

九年四十八號
布告ヲ以テ廢
ス

第三千七十五 明治七年二月七日布告

第十六號

捕亡律内徒流人逃條左ノ通改正候條此旨布告候事

徒流人逃條改正

主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ一名ニ笞四十、一名毎ニ一等ヲ加ヘ、罪杖一百ニ止ル、ノ律ヲ改メテ、未決ノ罪囚ト同シク、主守不覺失囚律ニ依ル、

第三千七十六 明治七年二月十四日布告

第二十九號

改定律例第百八條刑法ニ關係無之ニ付删除候條此旨布告候事

但明治五年九月第二百八十五號布令ハ是迄ノ通可相心得事

第三千七十七 明治七年四月十三日布告

第四十二號

改定律例第十六條中附籍ヲ入籍ニ改メ候條此旨布告候事

第三千七十八 明治七年四月廿三日布告

第四十六號

官吏犯公罪條例左ノ通相定候條此旨布告候事

九年四十八號
布告ヲ以廢ス

官吏犯公罪條例

凡官吏公罪ヲ犯シ罰俸ニ該ル者刑名宣告ノ後ニ昇官スルキハ原官等級ニ依リ降官スルキハ降官等級ニ依テ其俸ヲ追ス

第三千七十九 明治七年五月廿五日布告

第五十七號

滯獄罪囚減役例圖左ノ通相定メ自今滯獄ノ罪囚ハ右ニ依リ計算科斷候條此旨布告候事

滯獄罪囚減役例圖

凡懲役十年以下ノ罪人疑難等ニ係リ口供甘結後滯獄二十日以外ニ及フ者ハ並ニ三十日ヲ除ク外曠過スル日數ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス其收贖贖罪ニ該ル者ハ本罪日數ヲ金數ニ折算シ曠過スル日數ヲ扣除シテ餘ル金數ヲ追徵ス若シ滯獄ノ日數本罪ニ過ル者ハ直ニ放免ス

例

贖罪七十五錢

懲役十日

收贖三十五錢

本罪懲役十日ニシテ一日曠過スル如キ一日ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス收贖ニ該ル者ハ十日以上一日ヲ二錢五厘ニ折算シ扣除シテ餘ル二十二錢五厘ヲ追徵シ贖罪ニ該ル者ハ一日ヲ七錢五厘ニ折算シ扣除シテ餘ル六十七錢五厘ヲ追徵ス以下之ニ準ス

同年七十九號
布告ヲ以テ
付スル者ハ此
例ニ在ラスト
ス

<p>贖罪一圓五十錢 二十日 收贖五十五錢</p>	<p>贖罪二圓廿五錢 三十日 收贖七十五錢</p>	<p>贖罪三圓 四十日 收贖壹圓</p>
<p><i>(Faint vertical text)</i></p>	<p><i>(Faint vertical text)</i></p>	<p><i>(Faint vertical text)</i></p>

<p>贖罪三圓七十五錢 五十日 收贖一圓廿五錢</p>	<p>贖罪四圓五十錢 六十日 收贖一圓五十錢</p>	<p>贖罪五圓廿五錢 七十日 收贖二圓七十五錢</p>
<p><i>(Faint vertical text)</i></p>	<p><i>(Faint vertical text)</i></p>	<p><i>(Faint vertical text)</i></p>

贖罪六圓 八 十日 收贖二圓	贖罪六圓七十五錢 九 十日 收贖二圓廿五錢	贖罪七圓五十錢 百 日 收贖二圓五十錢

贖罪十五圓
一
年
收贖三圓

本罪懲役一年ニシテ三十日曠過スル如キ三十日ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス收贖ニ該ル者ハ一年以上ハ一日ヲ八厘ニ折算スルヲ以テ三十日ヲ廿四錢六厘六毛ニ折算シ扣除シテ餘ルニ算スルヲ以テ三十日ヲ一圓廿三錢三厘ニ折算シ扣除シテ餘ルニ算スルヲ以テ三十日ヲ追徵ス以下之ニ準ス

贖罪廿二圓五十錢
一
年
收贖四圓五十錢

贖罪三十圓
二
年
收贖六圓

<p>贖罪卅七圓五十錢 二 年 半 收贖七圓五十錢</p>	
<p>贖罪四十五圓 三 年 收贖九圓</p>	
<p>贖罪六十圓 五 年 收贖十五圓</p>	<p>本罪懲役五年ニシテ百日曠過スル如キ百日ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス贖罪ニ該ル者ハ一日ヲ二錢二厘八八ニ折算スルヲ以テ百日ヲ三圓廿八錢八厘ニ折算シ扣除シテ餘ル五十六圓七十一錢二厘ヲ追徴ス餘之ニ準ス</p>

十年七十六號
布告ヲ以テ華
士族破廉耻甚
ニ係ル一項ヲ
刪除ス

<p>贖罪七十圓 七 年 收贖二十一圓</p>	<p>本罪懲役七年ニシテ二百日曠過スル如キ二百日ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス贖罪ニ該ル者ハ一日ヲ二錢七厘四毛ニ折算スルヲ以テ二百日ヲ五圓四十八錢ニ折算シ扣除シテ餘ル六十四圓五十二錢ヲ追徴ス餘之ニ準ス</p>
<p>贖罪八十圓 十 年 收贖三十圓</p>	<p>本罪懲役十年ニシテ三百日曠過スル如キ三百日ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス贖罪ニ該ル者ハ一日ヲ二錢一厘九毛ニ折算スルヲ以テ三百日ヲ六圓五十七錢六厘ニ折算シ扣除シテ餘ル七十二圓四十二錢四厘ヲ追徴ス餘之ニ準ス</p>

凡華士族破廉耻甚ノ罪ヲ犯シ本罪百日以下ハ滯獄日數ニ拘ハラス除族ニ止メ一年以上ハ滯獄日數ヲ本罪内ニ算入シテ罪ヲ科ス
凡犯罪存留養親者本罪百日以下ハ滯獄日數ヲ扣除シテ剩ル日數ヲ收贖シ一年以上ハ滯獄百日ニ滿レハ扣除シテ剩ル日數ヲ收贖ス若シ百日ニ滿サレハ其未滿ノ日數ヲ第五條ニ照シ棒鎖ニ處シ仍ホ剩ル日數ヲ收贖ス

凡過失殺傷收贖及ヒ養贍埋葬金若クハ盜贓賠償等ハ各本法ヲ盡シ此例ヲ用ヒス

第三千八十 明治七年六月廿四日布告

第六十九號

改正閩刑律中禁錮ヲ禁獄ニ被改候條此旨布告候事

第三千八十一 明治七年七月廿三日布告

第七十九號

本年五月第五十七號滯獄罪囚減役例圖布告候處責付スル者ハ此例ニ在ラス候條此旨布告候事

第三千八十二 明治七年十一月四日布告

第一百十七號

官吏犯公罪條例左ノ通相定候條此旨布告候事

官吏犯公罪條例

神官ノ公私罪ヲ犯ス者ハ並ニ教導職犯罪例ニ依ル

第三千八十三 明治七年十二月十八日布告

第一百二十四號

名例律斷罪無正條々例左ノ通相定候條此旨布告候事

斷罪無正條條例

九年四十八號
布告ヲ以テ廢
ス

改正刑法第
三百五十八條
及ヒ第三百五
十九條參照ス
ヘシ

凡罪ヲ斷スル正條アリト雖所犯情狀輕キ者ハ仍ホ情法ヲ酌量シテ輕減スルコトヲ聽シ減シテ
五等ヲ過ルコトヲ得ス

第三千八十四 明治八年二月廿二日布告

第三十一號

等外吏ニ準スル者犯罪條例左ノ通相定候條此旨布告候事

條例

凡等外吏ニ準スル者戶長ヲ除クノ外罪ヲ犯スニ俸給等外四等ノ金額ニ及ハサル者及ヒ日雇
ノ者ハ並ニ本籍ヲ以テ論ス

第三千八十五 明治八年六月廿八日布告

第一百十號

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

別冊

讒謗律

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ臆發公布スル者之ヲ讒毀ト
ス人ノ行事ヲ舉ルニ非スソ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ
書圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示シテ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ

條別ニ從テ罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ渉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五十圓以上千圓以下 二罰并七科シ或ハ偏ヘニ一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ

第三條 皇族ヲ犯スニ渉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第一條ノ例ニアラス其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルコトヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟チ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レズノ單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

第三千八十六 明治十二年五月七日司法省達

丙第六號

大 審 院

諸 裁 判 所

各 檢 事

檢事在ラサル

各 縣

讒謗律疑義ニ付東京裁判所詰檢事犬塚盛魏ヨリ左ノ通り伺出候ニ付朱書ノ通り及指令候條爲心得此旨相達候事

檢事犬塚盛魏伺 明治十二年四月十七日

芝區通新町十四番地東京府華族久留島通簡ヨリ愛宕下町二丁目二番地櫻澤堂山外一名ニ係リ五人殲苦魔物語ト題スル小説ヲ著作シ事實相違ノ義ヲ牽強漫記シ以テ先代通簡ヲ讒毀シ併セテ相續人タル通簡ノ榮譽ヲモ貶害セラレタル廉ヲ以テ別紙(畧之)ノ通告訴致シ候處我現行讒謗律中死者ヲ讒謗スル者ノ罰條及ヒ其相續人死者ノ爲メニ告訴スルヲ得ルノ明文無之候ニ付如此告訴ヲ受クルニ方リ取捨ノ間疑議ナキ能ハスト雖モ今試ミニ日本刑法草案ヲ按スルニ第四百條ニ云ク死者ニ對シ讒毀ヲ爲シタル者ハ其事故サヲニ誣罔ニ出タル時ニ非サレハ讒毀ノ刑ヲ科セス其第四百三條ニハ此節ニ記載シタル讒毀ノ罪ハ被害者又ハ死者

ノ親屬ノ告訴告發ヲ待テ其罪ヲ論スト有之又曾テ聞知スル所ニ依ルニ佛蘭西國ニ於テモ法律上死者ニ對シ讒謗スル者ヲ罰スルノ明文無之、雖モ千八百六十七年五月一日大審院惣會議ニ因テ死者ニ及フヘキヲ決定シ爾來實際ニ在テハ其相續人ヨリ告訴スル時ハ其故意ニ出タルト否トヲ問ハス總テ讒謗ノ罪ヲ治スルト以上二箇ノ法律寬嚴稍同シカラスト雖モ其死者ニ對シ讒毀スル者ヲ罰スルニ至テハ則チ一ナリトス又榮譽上貴重ノ點ト人情ノ如何トニ因テ之レヲ觀ルモ原ト死者ニ及フヘキハ是レ法理ニ適フモノト思考セリ若シ我現行讒謗律ハ獨リ生存者自告ノ榮譽ヲ保護スルニ止リ死者ノ榮譽ニ及ハス又其相續人死者ノ爲メニ告訴スルヲ許サ、ルノ法旨ナリトセハ死者自カラ告ク可キナク子孫爲メニ其冤ヲ雪ム可キナシトス嗚呼死者何ソ獨リ不幸ナル又彼ノ子孫タル者其心情果シテ如何ソヤ如此ハ彼是權衡平ヲ失シ頗ル人情ニ背キ法理ニ違フノ疑ナキヲ得ヌ因テ熟考スルニ我現行讒謗律中死者ノ榮譽ニ及ホスノ明文ナシト雖モ又死者ニ及ホサ、ルノ明文モ無之上ハ死者ニ對シ讒毀誹謗スル者其相續人若シクハ親屬ヨリ告訴スル時ハ尙ホ該律第五條及ヒ第八條ノ法旨ヲ擴充シ生存者ヲ讒謗スル者ト同シク處分スルモ亦敢テ妨ケナカル可シトス若又刑法草案ノ如ク死者ニ對スル者ハ故ラニ誣罔ニ出タル者ニ限り其刑ヲ科スルト爲スモ本件ノ如キハ事實相違ノ義ヲ牽強漫記シ篇ヲ逐フテ公布スルニ至テハ決シ誤聞訛傳ニ係ルニ非ヌ是レ全ク故意ニ出タル者ト爲スモ敢テ不當ト謂フ可カラス以上陳述スル通本件ノ如キモノ到底不問ニ付

ス可キ者ニ有之間敷ト思考候得共右ハ全ク法律上解釋ノ如何ニ係ルヲ以テ爲念別紙告訴狀及現本(略之)相添此段相同候條至急御指令ヲ仰キ候也
但本文讒謗ノ罪ヲ科スルニ付テハ諸新聞紙等ノ如キ今日發行明日ハ頓ニ反古ニ屬スル者ト事替ハリ荷モ一書籍ニテ永ク人目ニ觸ル、者ニ付其刻版及ヒ現存ノ印本ハ勾收致スヘキ儀ト相心得可然哉
指令明治十二年五月五日

朱書
伺之通

第二千八十七 明治八年六月廿九日布告

第一百十三號

改定律例第四條左ノ通増加候條此旨布告候事

第四條 增加

凡上告シテ破毀ヲ得タル罪犯其懲役ノ年日數ハ原裁判言渡ノ日ヨリ起算シ獄舍勾置若クハ便宜監護ノ日數モ懲役限内ニ算入ス勾置監護ノ日數本罪ニ過ル者ハ直ニ放免ス其上告ノ不當ナル者ハ裁判言渡ヨリ上告ニ至ル迄ノ時間及ヒ勾置監護ノ日數ヲ限内ニ算入スルヲ得ス若シ檢事ノ上告ニ係レハ不當ナル者ト雖モ仍ホ限内ニ算入ス

同年司法省達
十七號達參照
スヘシ(第三
千百十五)ニ
アリ

第三千八百八十八 明治八年九月五日布告

第三百二十七號

改定律例第二百九十一條刪除候條此旨布告候事

第三千八百八十九 明治九年一月十二日布告

第一號

改定律例第二百六十七條私娼街賣條例相廢シ賣淫取締懲罰ノ儀ハ警視廳並各地方官へ被任候條此旨布告候事

第三千九十一 明治九年二月廿八日布告

第二十二號

改定律例中懲役人又犯罪條例懲役人逃條例ヲ増補シ第三百二條ヲ刪除候條此旨布告候事

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科ス懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ棒鎖三日再ヒ逃走スル者ハ絞

十年廿五號布告ヲ以テ改正ス

十年廿五號布告ヲ以テ改正ス

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ懲役人又犯罪條内懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ科斷ス

第三千九十一 明治九年四月一日布告

第四十二號

改定律例各例律第三十八條左ノ通改正候條此旨布告候事

第三十八條 凡侍養子孫ト稱スルハ年十六以上ノ者ヲ謂フ若シ家ニ十六以上ノ男ナシト雖

ト妻若クハ女年十六以上ノ者アレハ留養スルコトヲ聽サス

第三千九十二 明治九年四月十四日布告

第四十八號

一新律綱領改定律例中職制律ヲ廢ス

但私借官物律例ハ改メテ賊盜律監守自盜ノ部ニ入ル

一新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢ス 公罪贖例圖、公罪罰例圖、官吏犯公罪同儕犯公罪、公事失錯、失出入人罪及ヒ改定律例第百五十四條等ノ類

一自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム

右布告候事

〔附録〕 明治九年七月二日司法省伺へ同年八月七日指令

職制律例等被廢ニ付伺

今般第四十八號公布ヲ以テ職制律例及ヒ第五百十四條ノ類相廢セラレ、ニ付テハ以來律例中官吏職務上ノ過失罪ニ係ル者ハ總テ懲戒例ニ依リ處分スル儀トハ被存候へ共就中左ノ條々疑義ヲ生シ候ニ付相伺候

第一條

有官ノ者詔書及ヒ官ノ文書ヲ棄毀スル等有心故造ニ係ル者ハ改定律例第九十九條ニ依リ處斷可致儀ニモ候哉

第二條

官吏ニ非サル者同上ノ犯罪モ前文同様處斷可致哉

第三條

官吏ニ非サル者官ノ文書等ヲ遺失誤毀スルハ罪ヲ問ハスシテ可然哉

第四條

官廳ノ通行印鑑ヲ遺失誤毀スルハ官吏ナレハ懲戒例ニ依リ處分スヘシト雖モ官吏ニ非サルハ如何可致哉

第五條

有官ノ者戸籍屠洩等職務上ニ非サル過失ハ平民ト同シク處分シ可然哉

第六條

官吏ノ不覺失囚ノ如キ懲戒例ニ依ルヘシト雖モ官吏ニ非スシテ責付ノ罪犯ヲ失スル等如何處分シ可然哉

第七條

在官ノキ懲戒ス可キ者免官ノ後發覺スルハ其罪ヲ問スシテ可然哉

第八條

糾問上ヨリ官吏ノ平民ニ連及スル公事上ノ失錯アルハ共ニ鞠審ノ上平民ハ律ニ照シ官吏ハ所屬長官ニ付シ懲戒例ニ依リ處分スル儀ニ候哉

第九條

華族懲戒例第一條ニ過失及ヒ體面ヲ汚ス者ハ懲戒ストアルハ未タ華族贖罪例廢棄セサルニ付律例ニ掲ケサル過失罪ノミ懲戒ニ付シ律例ニ掲ケル過失罪及ヒ有心故造ニ係ル者ハ總テ律例ニ依テ處分シ可然哉

右ハ諸府縣ヨリ當省ヘ伺出候間早々御指揮相成度此段相伺候也

明治九年七月三日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

指令

第一第二第三第五第七第八第九條伺ノ通

第四條官吏ト雖モ懲戒例ニ依ルヲ要セス其事實ヲ詳ニシテ新鑑札ヲ申受クヘシ
若シ手數料等ノ定規アル者ハ官民ヲ問ハス之ヲ納メシムヘシ

第六條其罪ヲ問ハス

明治九年八月七日

第三千九十三 明治九年四月十九日布告

第五十五號

新律綱領得遺失物律左ノ通改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條
第二百八十五條第二百八十六條ヲ刪除候條此旨布告候事

凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サハル者ハ官私ヲ分タス竊盜ニ準シテ論
シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得隱シテ官ニ送ラサル者罪亦同シ

第三千九十四 明治九年五月十九日布告

第七十四號

改定律例中私借官物律例ヲ廢シ雇人盜家長財物律例左之通改正候條此旨布告候事

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ管守者ハ又一等ヲ加ヘ並ニ罪懲役
終身ニ止ル

竊盜條例

凡客塵倉戶及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ並ニ竊盜ヲ以テ
論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

第三千九十五 明治九年六月十日布告

第八十六號

改定律例第二百八十八條左之通改正候條此旨布告候事

凡シ罪ヲ斷スルハ証ニ依ル若シ未タ斷決セスシテ死亡スル者ハ其罪ヲ論セス

第三千九十六 明治十二年十月八日布告

第四拾貳號

明治九年^六第八拾六號布告改定律例第三百拾八條改正後拷訊ハ無用ニ屬シ候儀ニ付右ニ關
スル法令ハ總テ刪除候條此旨布告候事

第三千九十七 明治九年七月十八日布告

第一百號

改定律例中左ノ條例ヲ增加シ第百二十六條ヲ刪除シ並ニ明治六年七月第二十六十七號布告監守盜常人盜條例左ノ通改正候條此旨布告候事

監守盜常人盜條例

凡監守盜二百圓以上及ヒ常人盜三百圓以上絞ニ處スル律ヲ改メ監守盜百五十圓以上常人盜二百五十圓以上並ニ懲役終身

監守盜條例

凡監守盜再犯スル者ハ財ヲ得スト雖モ一等ヲ加フ三犯三十圓以下懲役十年三十圓以上懲役終身

常人盜條例

凡常人盜再犯スル者ハ財ヲ得スト雖モ一等ヲ加フ三犯四十圓以下懲役十年四十圓以上懲役終身

第三千九十八 明治九年七月廿二日布告

第四百號

再犯加等罪例條例左ノ通相定候條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス

同年百二十六號布告ヲ以テ改正ス

若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初犯竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ並ニ竊盜三犯ヲ以テ論シ初犯監守盜再犯竊盜ニシテ三犯常人盜三百圓以上ナル者ハ常人盜ヲ以テ論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スルノ類

第三千九十九 明治九年十月十三日布告

第四百二十六號

本年七月 第四百號布告再犯加等罪例條例左ノ通改正候條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初犯竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ竊盜三犯ヲ以テ論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スルノ類

第二千百 明治九年十一月八日布告

第四百二十七號

再犯加等罪例條例左ノ通創定候條此旨布告候事

再犯加等罪例條例

凡初犯竊盜ニシテ再犯監守盜若クハ常人盜ナル者及ヒ初犯監守盜ニシテ再犯常人盜若クハ竊盜ナル者及ヒ初犯常人盜ニシテ再犯監守盜若クハ竊盜ナル者ハ並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ

第一千一百一 明治十年一月廿九日布告

第十三號

各府縣廳ヨリ布達スル所ノ條規ニ違反スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五十錢以內ノ罰金ヲ科スヘシ
右布告候事

第一千一百二 明治十年三月二日布告

第二十五號

懲役人又犯罪條例外律例共左之通改正候條此旨布告候事

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖改テ四日以上六日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖改テ七日以上九日以下ノ棒鎖懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞改テ棒鎖十日

強盜律

凡強盜兇器ヲ持セス人ヲ殺傷スル者ハ皆斬絞ニ處スル律ヲ改メ殺ス者ハ斬傷スル者ハ懲役終身
其兇器ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖ヒ首ハ絞從ハ懲役終身改テ首ハ懲役終身從ハ懲役十年財ヲ得ル者ハ皆斬改テ皆懲役終身其財ヲ得スト雖ヒ人ヲ殺傷スル者亦同シ改テ殺ス者ハ皆斬

傷スル者ハ皆懲役終身

若シ盜ニ因テ姦スル者ハ成否ヲ論セス絞改テ懲役終身

竊盜律

若シ盜ニ因テ過失殺スル者ハ絞改テ懲役終身

偽造寶貨律

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者首ハ斬改テ懲役終身從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身改テ懲役十年其雜役ニ供スル者ハ懲役十年改テ懲役七年

罪人拒捕律

捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ棒鎖十日

第一千一百三 明治十年四月廿六日布告

第四十號

謀殺祖父母律第二項內左ノ通改正候條此旨布告候事

謀殺祖父母律

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ各圖毆律內尊長故殺卑幼律ニ依リ二

等ヲ減スル律ヲ改メ減五等ニ從フ

第一千四百四 明治十年八月十六日布告

第五十八號

明治九年^{八月}第八號布告ヲ以テ祿制廢セラレ候ニ付テ、明治十年一月以降律例中收祿並ニ功俸賞祿追奪ノ儀ハ總テ廢セラレタルモノトス此旨布告候事

第一千四百五 明治十年十一月二日布告

第七十六號

改定律例第十九條第二十條第二十一條並逃亡律例及滯獄罪囚減役例圖内凡華士族破廉耻甚ノ一項共都テ刪除シ第十三條第四十七條左ノ通改正候條此旨布告候事

閩刑律

第十三條 凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルコト甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フ罪科未タ定ラサル者ハ監倉ニ入レ平民ト別異ス

老小癡疾收贖條例

第四十七條 凡老小及ヒ癡疾者官ニ在リ私罪ヲ犯セハ官吏犯私罪律例ニ依ル其破廉耻甚ニ係ル者ハ除族スト雖ヒ本罪ハ收贖スルコトヲ聽ス

第一千四百六 明治五年十月司法省達

第廿一號

新律中贓物ノ價錢ヲ估計スルハ皆犯處當時中等ノ物價ニ據テ罪名ヲ定ムト有之候處右ハ商賈ヲ召シテ估計セシム之ヲ評價人ト稱ス依テハ右評價ノミヲ以テ商賈ヲ役使スル者ハ一日五十錢半日二十五錢ト定メ雇錢相渡可申事

但入札法ヲ以テ商賈ヲ召シ估計スルハ此限ニアラス

第一千四百七 明治十二年一月四日布告

第壹號

名例律五刑條例中左ノ一條創定候條此旨布告候事

五刑條例

凡梟示ノ刑ヲ廢シ其罪梟示ニ該ル者ハ一體ニ斬ニ處ス

第一千四百八 明治十二年三月三日司法省伺定

明治九年第五百十六號御布告ノ儀ニ付伺

明治九年第五百十六號公布ニ僧尼ト公認スル者ハ教導職試補以上ニ限ルトアルハ假令圍顯衲衣ノ者ト雖モ教導職試補以上ニアラサルハ僧尼ト公稱スルヲ得サル御趣旨ニ可有之就テハ今爰ニ教導職試補以上ニアラサル者師ノ財物ヲ盜ム如キ例第四百十六條ニ依ラントスルニ公認ノ僧尼ニアラサルニ付該條ニ擬スル能ハス又例第四百十二條ニ依ラントスレハ圍顯衲衣ノ者ニシテ文武百工ノ師ト看做スヲ得ス然ラハ凡盜律ニ依ラサルヲ得サル様ニ相成リ候

又徒弟ノ相盜△如キモ右同様ニシテ公認ノ僧尼ニアラサレハ凡盜律ニ依テ論スルヨリ他法
ナシトス然レハ實際ト法律ト相背馳スル如ク到底九年第五百五十六號公布アル上ハ刑律上ノ
處分甚困難ニ涉ルコト不尠ニ付可相成ハ右御布告ニ但書ヲ加ヘテ刑律上ニハ關係無之旨御布
告相成歟又ハ右御布告ハ御取消相成候歟兩様ノ内御裁決相成度右ハ現今犯罪者アリテ處分
差支候向モ有之候間早々何分ノ御指揮相成候様致度此段相伺候也

明治十二年一月二十三日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ趣斷罪無正條々ニ依リ例第百十六條ニ比擬スヘキ儀ト可心得事

明治十二年三月二日

第二千百九 明治六年二月二十日布告

第六十五號

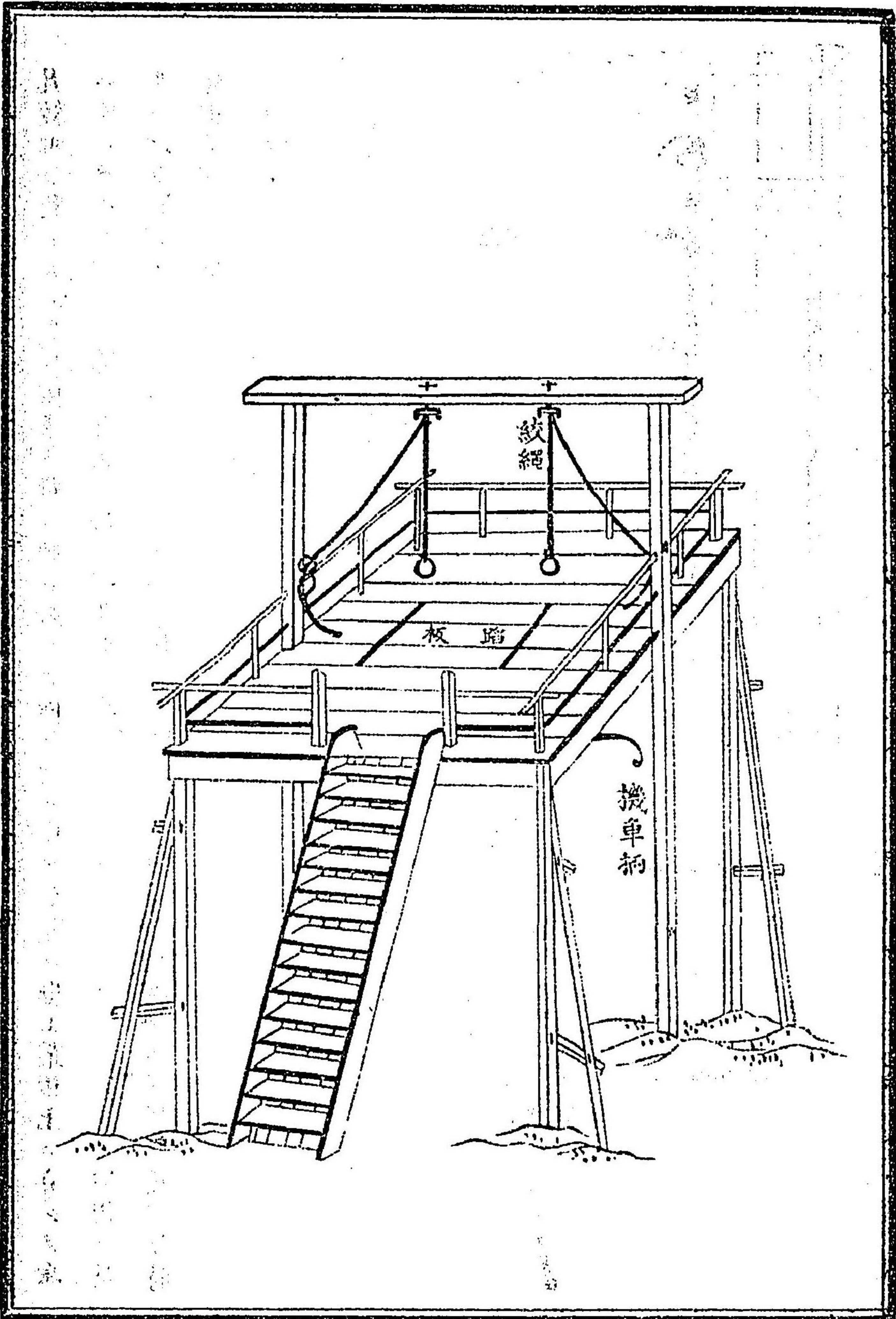
府 縣

絞罪器械別紙圖式ノ通改正相成候間各地方ニ於テ右圖式ニ從ヒ製造可致事

別紙

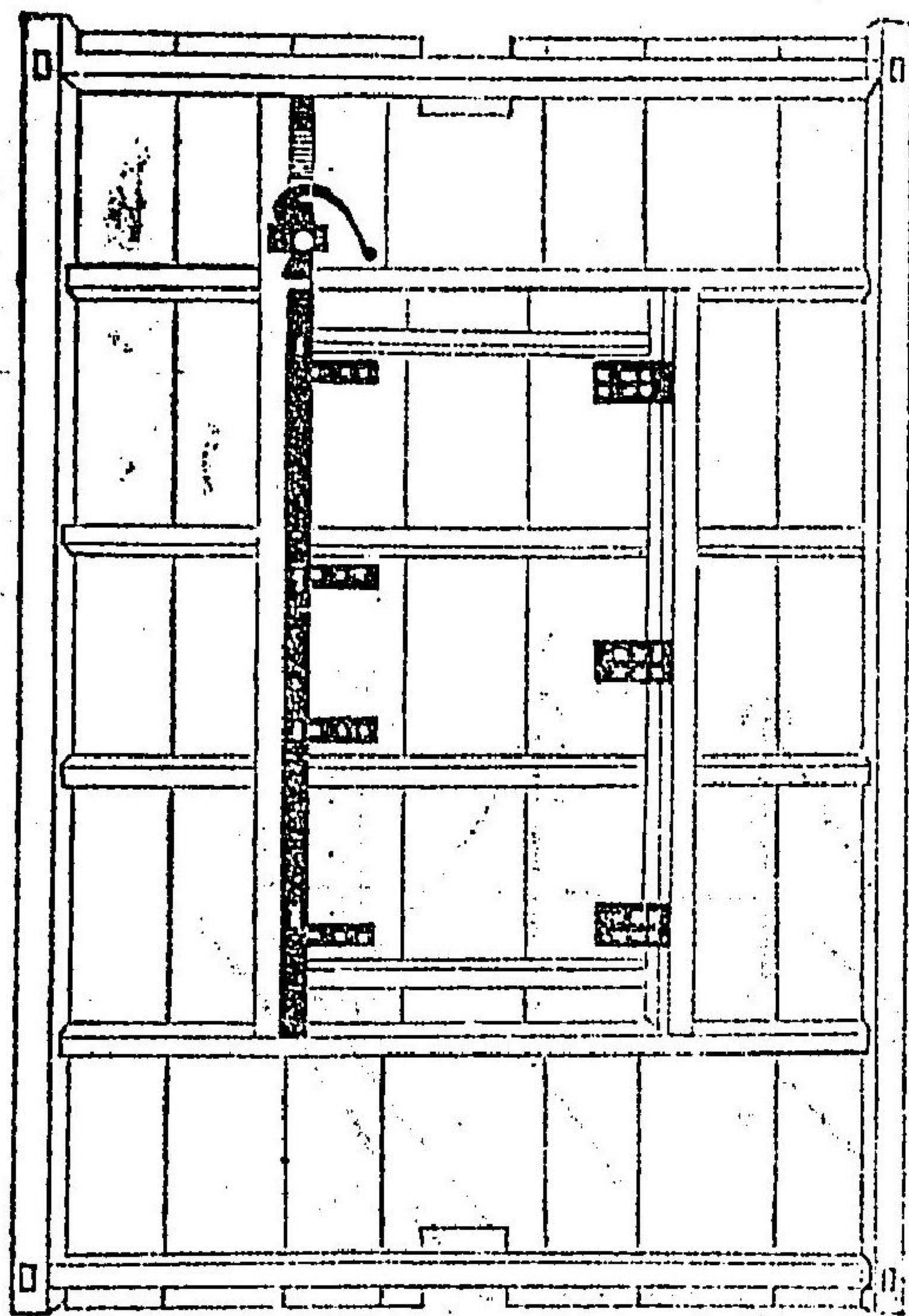
絞架全圖 實物六十分ノ一

本圖死囚二人ヲ絞ス可キ裝構ナリト雖モ其三人以上ノ處刑ニ用ルモ亦之ニ摸倣シテ作
リ溢墨ヲ以テ全ク塗ル可シ

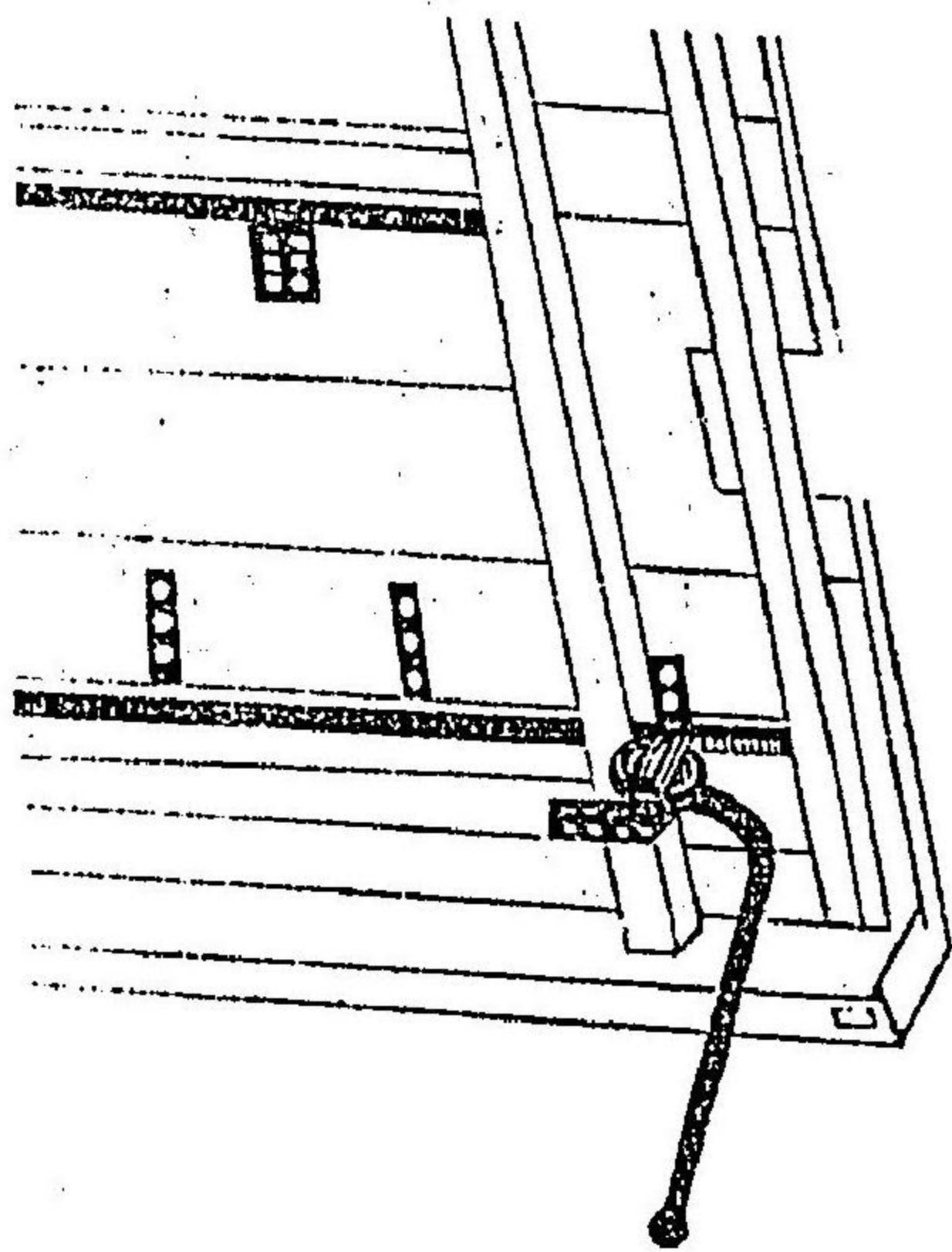


凡絞刑ヲ行フニハ先ツ兩手ヲ背ニ縛シ紙ニテ面ヲ掩ヒ引テ絞架ニ登セ踏板上ニ立シメ次ニ兩足ヲ縛シ次ニ絞繩ヲ首領ニ施シ其咽喉ニ當ラシメ繩ヲ穿ツトコロノ鐵環ヲ頂後ニ及ホシ之ヲ緊縮ス次ニ機車ノ柄ヲ挽ケハ踏板忽チ開落シテ囚身凡一尺離ル空ニ懸ル凡二分時死相ヲ驗シテ解下ス

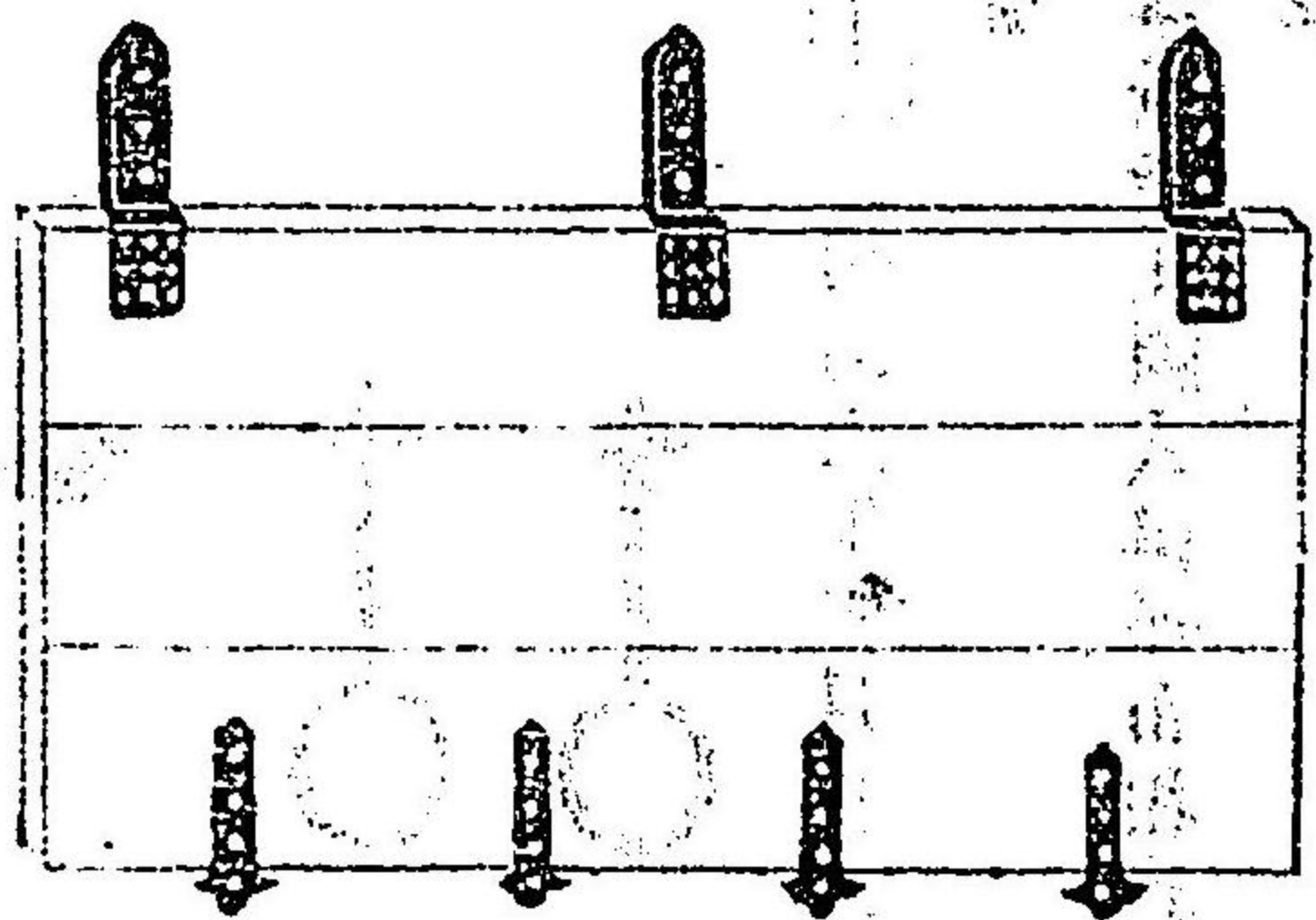
踏板裏面圖實物 三十分ノ一



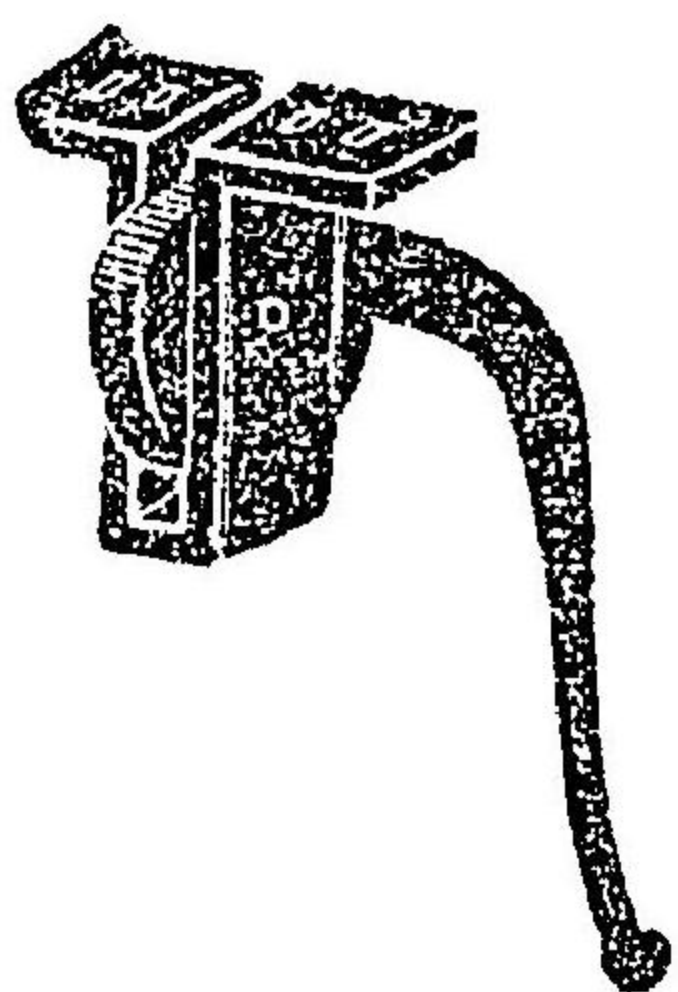
機車裝置圖實物 三十分ノ一



踏板表面圖實物 三十分ノ一



機車圖實物 三十分ノ一



機車屬鐵板圖實物 三十分ノ一



鐵板架圖實物 十分ノ一

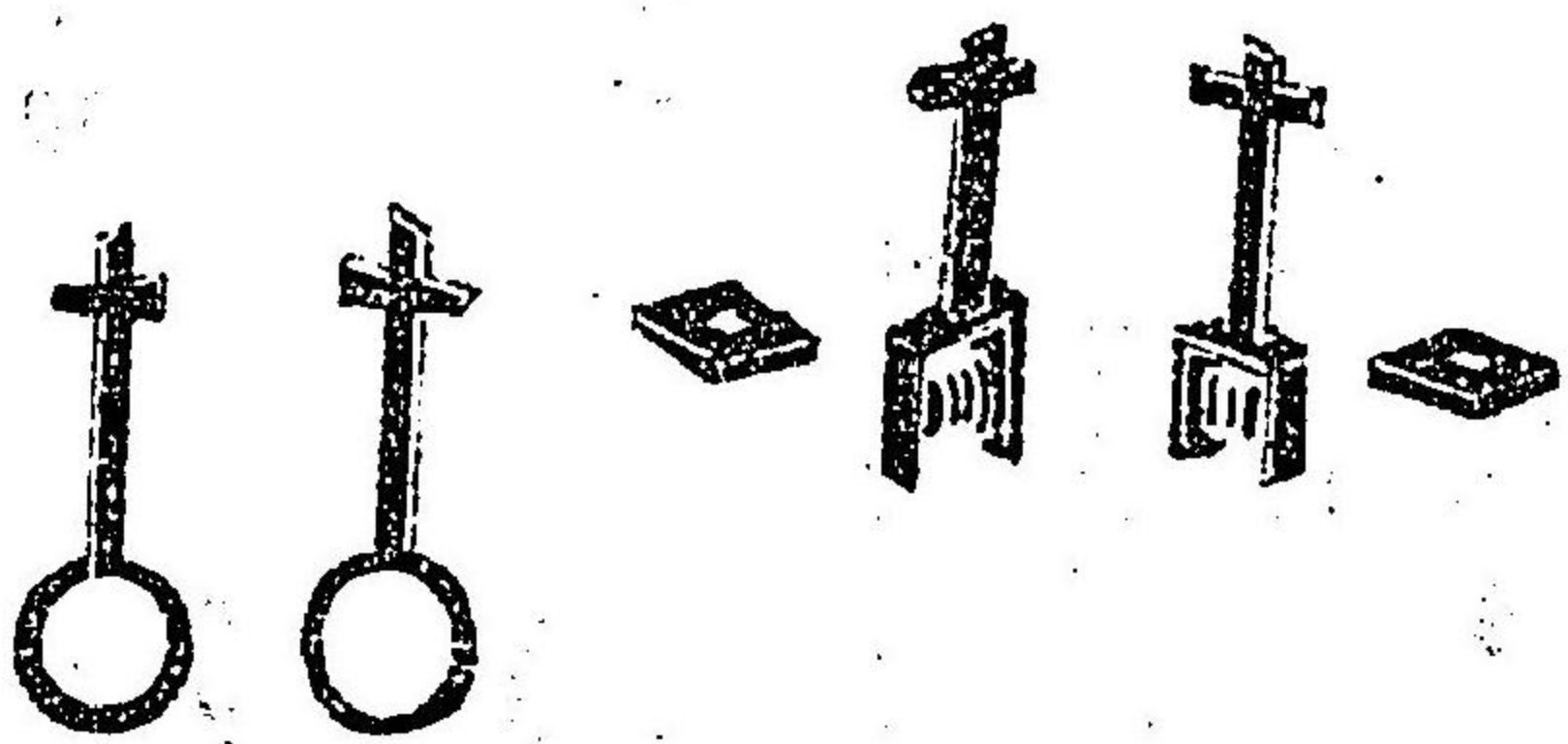


螺旋圖實物 十分ノ一

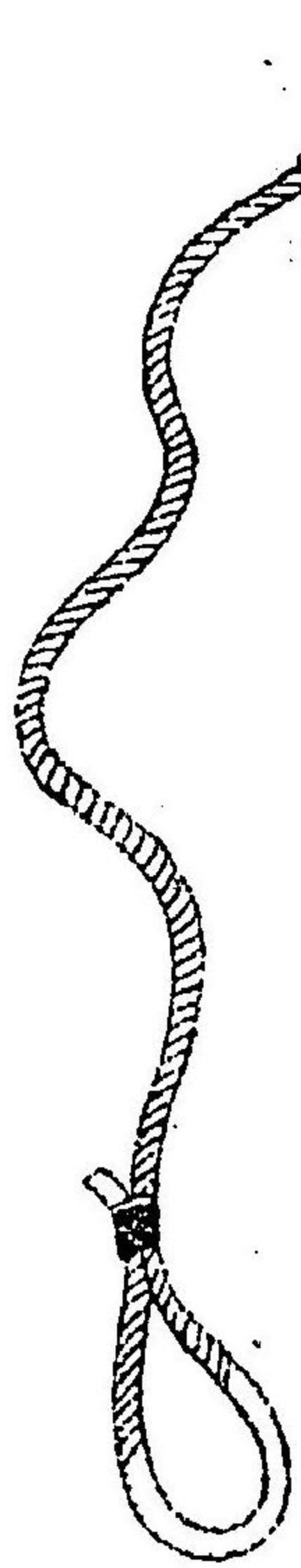


絞繩銀圖實物

十分ノ一



絞繩略圖細長二丈五尺



五百五十四

第三千百十

明治六年二月廿三日司法省達

第二十一號

今般絞罪器械改正圖式御頒布相成候ニ付テハ右圖式中製作方法詳細ノ備ハ當省ヘ可伺出此段相達候也

但圖式ハ監獄圖式ニ加フ

(第三千百九) 警察スヘレ

第三千百十一

明治六年三月八日司法省達

第二十九號

今般別紙之通條例確定候條罪案書式内贓物估計之儀右ニ照準可致事

給沒贓物律條例

凡贓物現在シ及ヒ現在セスト雖モ事主本犯ノ口供ヲ審明シ評價人ヲシテ估計セシム若シ犯所遠クシテ事主ノ口供ヲ審スルニ不便ナル者ハ本犯ノ口供ヲ以テ罪ヲ定ム

第三千百十二

明治六年七月十日司法省達

第一百十一號

各 府 縣 各 府 縣

從來越訴ノ者其本管ノ糾彈中ニ係ル者ハ聽訟斷獄ノ事件ヲ不論ニ罪俱發ノ例ニ依リ犯人口書ノミヲ取り本管ニ遞送シ本罪處決ノ時一ノ重ヲ以處シ來リ候處右者畢竟本管糾彈ヲ規避不服ノ處ヨリ越訴ニ及候儀ニ而ニ罪俱發ノ限ニ非ル者ニ候ヘハ以來右様ノ者ハ處決ノ上本管ヘ可引渡候條此旨相達候事

第三千百十二甲

明治七年五月十二日司法省達

第十號

各 府 縣 各 府 縣

第十七類 律例沿革

五百五十五

改定律例五十 二條ニ依テ消

同年二百九十 九號布告ヲ以 テ越訴律ヲ廢

今般犯姦ノ儀ニ付左ノ通り於當省議定候條此旨可相心得候事

一凡姦事他人ノ指稱ニ係ル者ハ論スルコト勿レ

第三千百十三乙 明治七年七月十四日司法省達

第十七號

各 裁判所
各 府 縣

近來律例註釋或諸表等往々上梓相成候處當省印信無之者ニ據リ擬律致シ自然不都合ヲ生シ候テハ不相成候ニ付兼テ此段相心得可申候條此旨相達置候事

第三千百十四 明治七年九月廿五日司法省達

第廿八號

各 裁判所
各 府 縣

強竊盜枉法不枉法坐賍追徵法是迄及指令置候向モ有之處今般左ノ通更ニ相達シ候條此旨可相心得候事

強竊盜枉法不枉法坐賍已ニ費用スル者資力ヲ以テ賠償セシムルノ法本犯着服妻子ノ衣服

賍具若クハ炊具ヲ除クノ外資力ノ有ル限リヲ追シテ數ニ充ツ

但己レニ入サル坐賍ハ此限ニアラズ

第三千百十五 明治八年七月十四日司法省達

達第十七號

各 裁判所
各 府 縣

本年第三百十三號改定律例第四條增加御布告ニ付上告セザル者懲役ノ年日數計算之儀正院へ相伺候處左之通御朱書相成候條爲心得此旨相達候事

同之趣改定律例第四條ニ依リ刑名宣告ノ日ヨリ計算可致事

第三千百十六 明治十年二月五日司法省布達

甲第一號

去明治六年十二月十日當省第三百九十號布達ヲ以雇人名稱ノ儀相達置候處今後戶籍屆濟ノ有無ニ拘ハラヌ雇主雇人相許諾シテ一月以上ノ期限ヲ定メ雇使スル者ハ雇人ヲ以テ論ス可ク候條此旨布達候事

第三千百十七 明治十年四月廿五日司法省達

丁第三十二號

大 審 院
上 等 裁 判 所
地 方 裁 判 所

明治九年五月第七十四號公布ヲ以テ私借官物律例ヲ被廢候ニ付右處分方之儀太政官へ伺出

第三百九十號
布告ハ省ク

候處監臨主守官ノ金穀ヲ私ニ使用融通スル者ハ監守盜ヲ以テ論ス可キ旨御指令有之候ニ付
爲心得此旨相達候事

第三千百十八 明治十二年四月七日司法省達

丁第四號

大 審 院
諸 裁 判 所

盜賣ニ係ル土地追徴ノ儀ニ付申號ノ通高知裁判所ヨリ伺出候間乙號ノ通及内訓候條之レニ
抵觸スル指令ハ取消候此旨爲心得相達候事

甲號

高知裁判所伺(明治十三年
二月十三日)

刑事指令録第五百七十九號明治十年八月三十一日仙臺裁判所伺ニ于茲甲乙丙アリ甲所有ノ
地券証ト實印トヲ乙預リ置ク處甲ノ承諾ヲ得テ其地券証ヲ抵當トシ丙ヨリ金圓ヲ借り然ル
後乙擅ニ該地券ノ賣切證ヲ詐爲シ甲ヲ賣主トシ預リタル印ヲ押捺シ丙ニ付與シ乙又地所賣
買願書ヘ甲ノ實印ヲ捺シ丙ト連署シ村吏ノ添書ヲ請得テ縣廳ニ申請シ丙ノ名前ニ書換ヲ受
ク而シテ丙ヨリハ期限ヲ定メ買戻ヲ得可キ一證ヲ領置セリ既ニシテ期限過去レリ於是該地
所全ク丙ノ所有ニ屬ス甲初テ之ヲ聞キ乙ヲ告訴ス依テ乙ノ罪ハ費用受寄財産律及ヒ詐爲私
文書條ニ問擬シ二罪ノ重キニ從テ論シ律ニ照シ地券ハ甲ニ追給ス可シト雖ヒ丙ニ在テハ素

ト乙ノ詐爲文書ニ係ルヲ知ラス其地所賣買ノ手續成規ニ準シ縣官ノ認可ヲ經テ名前書換ヲ
受ケシモノナレハ直チニ追徴スル較不穩ヲ覺ユ如此ハ乙ノ資力ヲ追シテ甲ニ給シ該地券ハ
丙ニ所有セシメ可然乎云々トアルニ明治十年十月二十日伺ノ通ト御指令相見ヘタリ然ルニ
當裁判所ニ於テモ右ニ類似ノ件之レアリ爰ニ甲者アリ僻邑ニ住ス故アリテ大坂ニ赴カント
ス路高知市街ヲ過キ烟家ナル乙者ノ家ニ一宿ス乙者ハ甲者ノ睡ヲ窺ヒ白紙ヲ以テ竊カニ甲
者ノ印影ヲ盜押シ甲者覺ラス而シテ甲者登坂ノ後乙者ハ甲者ノ委任狀ヲ詐爲シ丙者ヲ瞞著シ
テ甲者所有ノ田地若干ヲ賣與センコトヲ約ス丙者之ヲ信シ内金ヲ渡シ遂ニ地券書換ヲ了シ地
價金ヲ乙者ニ皆濟ス乙者其價金ノ半ヲ費用シ犯罪發覺ス右乙者ノ罪ヲ斷スルニ前顯仙臺裁
判所ノ伺ヲ適用ス可キト主張スル者アレヒ下官ノ鄙考スル所ハ田地所有者ナル甲者ノ如キ
乙者ノ奸計ノ爲メ其所有ノ田地ヲ不意ニ失フノ理アル可カラヌ故ニ乙者ガ丙者及ヒ村吏ト
縣廳トヲ欺罔シ賣ルコトヲ得サル田地ヲ盜賣シ其代價ヲ丙者ヨリ詐取セシモノナルニ因リ丙
者モ不幸ナリト雖ヒ乙者ノ僞言ヲ信シ買取セシ田地ハ眞ノ買取ニ非スシテ所有權ノ移リシ
モノト爲スコトヲ得サル者ナルヲ以テ該田地ハ甲者ニ還給シ地券証ノ名前モ甲者ノ名前ニ復
セシム可ク而シテ乙者資力アラハ丙者ノ損害ヲ賠償セシム右ノ如ク處分スルヲ以テ戶婚律
重典賣田宅條盜賣田宅條ノ法理ニモ適ス可ク又新刑法御頒布ニナリテモ審查刑法第二百九
十三條他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以

テ論ストアルニ依レハ此犯罪ノ性質タル他人ノ田地ヲ冒認スル點ニアラスシテ詐テ其價金ヲ得ルニアリ果シテ然レハ其被害者ナルモノハ冒認ニ係ル田地ナルコトヲ知ラスシテ金ヲ出ス者ナリトス此被害者ハ乃チ前ニ掲ル丙者ト同一ニ田地ヲ所有スルコト能ハサルハ當然ナリトス聞ク處ニ據レハ佛國ニ於テモ盜賣ニ係ル不動産ハ他ニ所有ノ移ルコトナクシテ盜取ラレシ本主ノ有ニ歸スト公證人及ヒ公正ノ帳簿アル國ニシテ猶ホ且ツ然リ況ンヤ本邦ノ如キハ地方官ノ地券書換ヲ開届ルハ明治五年二月二十四日大藏省第貳拾五號布達ニ基キ賣買及ヒ地券下渡シ願ヲ允可スルニ止ル者ニシテ彼ノ公證ト同日ニ論ス可キ者ニ非ス故ニ明治十年八月三十一日仙臺裁判所ノ伺ハ不當ナルヲ覺フ右鄙見ハ相當ト存候得共若シ不當ノ儀モ候ハ、仰御内訓候也

乙號

内訓(明治十三年四月六日)

盜賣ニ係ル土地追徴ノ儀ニ付伺ノ趣ハ見込ノ通タル可シ

違註

第三百十九 明治六年七月十九日布告

第二百五十六號

七年八號違ヲ以テ實際施行

方ヲホス(第
三千百廿)參
照スヘシ

各地方違式註違條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

但地方ノ便宜ニ依リ斟酌増減ノ廉ハ警保寮ヘ可伺出且條例揭示ノ儀モ同寮ノ指揮ヲ可受事

違式註違條例

第一條 違式ノ罪ヲ犯ス者ハ七十五錢ヨリ少ナカラス百五十錢ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス

第二條 註違ノ罪ヲ犯ス者ハ六錢二釐五毛ヨリ少ナカラス十二錢五釐ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス

第二條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ノ者ハ實決スルコト左ノ如シ

一 違式

答罪 二十ヨリ少ナカラス

一 註違

拘留 一日ヨリ少ナカラス

但シ二罪トモ適宜懲役ニ換フ

第四條 違式並ニ註違ノ罪ニヨリ取上クヘキ物品ハ贖金ヲ科スルノ外別ニ沒收ノ申渡シヲ爲スヘシ

第五條 違式註違ノ罪ヲ犯シ人ニ損失ヲ蒙ラシムル時ハ先ツ其損失ニ當ル贖金ヲ出サシメ後ニ贖金ヲ命スヘシ

九年六十九號
布告ヲ以テ第
二條ヲ改正ス
(第千三百廿
四)ニアリ
九年百十七號
布告ヲ以テ第
三條ヲ改正ス
(第千三百廿
五)ニアリ

七年三十號達
ヲ以テ第六條
ヲ刪除シ九年
六十九號布告
ヲ以テ更ニ第
六條ヲ追加ス
(第三千百廿
四)ニアリ

明治十一年內務
省第七十五號
達ヲ以テ改正
ス

違式罪目

- 第六條 地券所持ノ者諸上納銀ヲ怠リ地方ノ法ニ違背致ス者
- 第七條 贗造ノ飲食物並ニ腐敗ノ食物ヲ知テ販賣スル者
- 第八條 往來又ハ下水外河中等ヘ家作並孫庇等ヲ自在ニ張出シ或ハ河岸地除地等ヘ願ナク家作スル者
- 第九條 春書及ヒ其類ノ諸器物ヲ販賣スル者
- 第十條 病牛死牛其他病死ノ禽獸ヲ知リテ販賣スル者
- 第十一條 身體ヘ刺繡ヲナス者
- 第十二條 男女入込ノ湯ヲ渡世スル者
- 第十三條 乘馬シテ猥リニ馳驅シ又ハ馬車ヲ疾驅シテ行人ヲ觸倒ス者
但殺傷スルハ此限ニアラス
- 第十四條 外國人ヲ無届ニテ止宿セシムル者
- 第十五條 外國人ヲ私ニ雜居セシムル者
- 第十六條 夜中無燈ノ馬車ヲ以通行スル者
- 第十七條 人家稠密ノ場所ニ於テ妄リニ火技ヲ玩フ者
- 第十八條 火事場ニ關係ナクシテ乘馬スル者

六年十月十三
日無號布告ヲ

- 第十九條 戲ニ往來ノ常燈臺ヲ破毀スル者
- 第二十條 馬及ヒ車留ノ揭示アル道路橋梁ヲ犯シテ通行スル者
- 第二十一條 男女相撲並ニ蛇遣ヒ其他醜體ヲ見世物ニ出ス者
- 第二十二條 川堀下水等ヘ土芥瓦礫等ヲ投棄シ流通ヲ妨グル者
- 第二十三條 他人持場ノ海藻類ヲ斷リナク採採ル者
- 第二十四條 他人ノ持場又ハ免許ナキ場所ニ魚梁ヲ設ル者
- 第二十五條 毒藥並ニ激烈氣物ヲ用ヒ魚鳥ヲ捕フル者
- 第二十六條 他人分ノ田水ハ勿論組合持ノ田水ヲ斷リナク自恣ニ我カ田ニ引入ル者
- 第二十七條 他人ノ持場ニ入り筭或ハ葦類ヲ無斷採リ去ル者
- 第二十八條 掘場場ヲ汚損シ並ニ其圍ヲ破毀スル者
- 第二十九條 堤ヲ壞チ又ハ斷リナク他人ノ田園ヲ掘ル者
- 第三十條 道敷内ニ菜蔬豆類ヲ植或ハ汚物ヲ積ミ往來ヲ妨グル者
- 第三十一條 他村又ハ他人持場ノ秣或ハ苗代草等ヲ斷リナク採採ル者
- 第三十二條 婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナス者
- 第三十三條 馬夫或ハ日雇稼ノ者等仲間ヲ結ビ他人ノ稼ヲ爲スニ故障スル者
- 第三十四條 神物祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナス者

以テ本條中物
ノ字ハ佛ノ誤
トス

七年三十一號
達ヲ以テ第一
十四條ハ但書
ヲ添加シ五年
內務省以テ十
八年改テ以テ
之ヲ改テ以テ
號達ヲ以テ再
三改正ス(第八
三千百廿八第
ニアリ)

- 第二十五條 往來ニテ死牛馬ノ皮ヲ剥キ肉ヲ屠ル者
- 第二十六條 他人ノ墓碑ヲ毀損スル者
- 第二十七條 官有ノ山林等ニ禁制ノ榜示アルヲ犯セシ者
- 第二十八條
- 第二十九條 御用ト書タル小旗提燈等ヲ免許ナク猥リニ用ル者
- 第四十條 他人ノ繫舟ヲ無斷棹シ遊フ者
- 第四十一條 官有或ハ他人ノ山林田畠ニ入り植物ヲ損害スル者
- 第四十二條 神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者

註違罪目

- 第四十二條 狹隘ノ小路ヲ馬車ニテ馳走スル者
- 第四十四條 夜中無提燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者
- 第四十五條 斟酌ナシ馬車ヲ疾驅セシメテ行人へ迷惑ヲ掛ケシ者
- 第四十六條 馬車及ヒ人力車荷重等ヲ往來ニ置キ行人ノ妨ヲナシ及ヒ牛馬ヲ街衢ニ横タヘ行人ヲ妨ケシ者
- 第四十七條 禽獸ノ死スル者或ハ汚穢ノ物ヲ往來等へ投棄スル者
- 第四十八條 婦人ニテ謂レナク斷髮スル者

- 第四十九條 荷車及ヒ人力車行途ヲ節行人ニ迷惑ヲカケシ者
- 第五十條 下掃除ノ者蓋ナキ糞桶ヲ以テ搬運スル者
- 第五十一條 旅籠屋渡世ノ者止宿人名ヲ記載セス或ハ之ヲ届ケ出サル者
- 第五十二條 往來筋ノ號札又ハ人家ノ番號名札看板等ヲ戲ニ破毀スル者
- 第五十三條 喧嘩口論及ヒ人ノ自由ヲ妨ケ且驚愕スヘキ噪鬧ヲ爲シ出セル者
- 第五十四條 往來常燈ヲ戲ニ消滅スル者
- 第五十五條 蠱忽ニ依リ人ニ汚穢物及ヒ石礫等ヲ抛澆セシ者
- 第五十六條 田園種藝ノ路ナキ場ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入ル者
- 第五十七條
- 第五十八條 荷車及ヒ人力車等ヲ並へ挽キテ通行ヲ妨ケシ者
- 第五十九條 誤テ牛馬ヲ放チテ人家ニ入レシメシ者
- 第六十條 犬ヲ圍ハシメ及ヒ戲ニ人ニ喉スル者
- 第六十一條 巨大ノ紙鳶ヲ揚ケ妨害ヲ爲ス者
- 第六十二條 醉ニ乘シ又ハ戲ニ車馬往來ノ妨碍ヲナス者
- 第六十三條 雜魚乾場ニ妨害ヲナス者
- 第六十四條 海苔乾場ニ妨害ヲナス者

- 第六十五條 他人ノ魚築等ニ妨害ヲナス者
- 第六十六條 養田水其外用水ニ妨害ヲナス者
- 第六十七條 水除杭ニ妨害ヲナシ又ハ之ヲ拔取ル者
- 第六十八條 他人ノ竹木ニ妨害ヲナシ又ハ枝葉ヲ拾取ル者
- 第六十九條 他人ノ獵場ニ妨害スル者
- 第七十條 他人ノ植籬牆垣ヲ損害スル者
- 第七十一條 渡船ニテ不當ノ賃錢ヲ取リ或ハ等閑ニ行人ヲ待タシメ用便ヲ妨クル者
- 第七十二條 往還ノ並木及ヒ苗木ヲ徒ニ害スル者
- 第七十三條 渡舟橋梁ノ賃錢ヲ不拂シテ去ル者
- 第七十四條 誤テ牛馬ヲ放チ他人ノ田圃及ヒ物品ヲ損害スル者
- 第七十五條 猥リニ他人ノ爭論ニ荷擔スル者
- 第七十六條 行人ニ合力等ヲ申掛ル者
- 第七十七條 牧場外猥リニ牛馬ヲ放チ飼スル者
- 第七十八條 他人ノ獸畜類等ニ犬ヲ吠シ掛ル者
- 第七十九條 他人ノ墳墓等ノ供品類ヲ猥リニ毀損スル者
- 第八十條 水車水碓等ニ妨害ヲナス者

- 第八十一條 行人ニ強テ車馬駕籠等ヲ勸メ過言ヲ申掛ル者
- 第八十二條 他人ノ曝網ニ妨害ヲナス者
- 第八十三條 他人ノ海苔棚内ヘ斷リナク舟ヲ棹シ入ル者
- 第八十四條 山林原野ニテ徒ラニ火ヲ焚ク者
- 第八十五條 總テノ標柱ニ牛馬ヲ繫キ或ハ破毀スル者
- 第八十六條 橋柱ニ舟筏ヲ繫ク者
- 第八十七條 神祠佛堂又ハ他人ノ垣壁等ニ樂書ヲナス者
- 第八十八條 田畝中ニ瓦礫竹木等ヲ投入ル者
- 第八十九條 遊園及ヒ路傍ノ花木ヲ折リ或ハ植物ヲ害スル者
- 第九十條 往來並木ノ枝ニ古草鞋等ヲ投掛ル者

第三千二百二十 明治六年十月十三日布告

無號

本年七月第二百五十六號布告正誤

違式註違條例第三十四條中神物ハ神佛ノ誤ニ候條此旨布告候事

第三千二百廿一 明治七年一月十九日達

第八號

使 府 縣

明治六年七月第二百五十六號布告違式註違條例ノ儀ハ各地方實際ニ適當候様斟酌増減致シ
警保寮へ稟議シ自今其地方長官ノ名ヲ以テ布達可致此旨相達候事

但シ時宜ニヨリ警保寮ノ意見ヲ以斟酌増減等協議スヘキ儀モ可有之事

第三千百廿二 明治七年二月十四日達

第三千號

使 府 縣

明治六年七月第二百五十六號布告各地方違式註違條例第六條刪除候條此旨相達候事

第三千百廿三 明治七年三月十七日達

第三十一號

使 府 縣

八年內務省
五十八號達ヲ
以テ改正ス

明治六年七月第二百五十六號布告各地方違式註違條例第四十四條へ左ノ通但書添加可致此
旨相達候事

第四十四條 夜中云々

但陸海軍ノ諸兵隊伍ヲ組ミ夜陰行進スルハ此限ニアラス

第三千百廿四 明治九年五月十二日布告

第六十九號

明治六年七月第二百五十六號布告各地方違式註違條例左ノ通改正追加候條此旨布告候事

第二條 註違ノ罪ヲ犯ス者ハ五錢ヨリ少ナカラス七十錢ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス

三十一一年第三
十三號布告ヲ
以テ贖金ヲ料
料ト改ム

第六條 違式ノ罪目ヲ犯スト雖モ情狀輕キ者ハ減等シテ註違ノ贖金ヲ追徴シ註違ノ罪目ヲ
犯スト雖モ重キハ加等シテ違式ノ贖金ヲ追徴スヘシ其犯ス處極メテ輕キハ止メ呵責シテ
放免スルコアルヘシ

第三千百廿五 明治九年九月十四日布告

第一百十七號

東京並各地方違式註違條例中第三條左ノ通改正候條此旨布告候事

第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ノ者實決スル左ノ如シ

一 違式

懲役 八日ヨリ少ナカラス

一 註違

拘留 半日ヨリ少ナカラス

但シ拘留ノ罪ト雖モ適宜懲役ニ換ユルコアルヘシ

第三千百廿六 明治十年四月十八日達

第四十一號

府 縣 東京府
ヲ除ク

違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ニシテ贖フコ不能懲役ニ實決スル者疾病ニ罹リ休役スルモ其日數
ハ仍ホ限内ニ算入スヘシ此旨相達候事

第三千百廿七 明治七年三月二十日內務省達

乙第二十五號

違式註違條例ノ儀ハ既ニ明治六年第二百五十六號ヲ以御布告相成候處元來風俗習慣ヲ變更
スルハ甚至難ノ事件殊ニ一縣内ト雖モ各地ノ人情彼是異同モ有之一朝一夕ニ可被行儀ニ無
之然ルニ一概ニ之ヲ施行シ自然人民ノ苦情怨嗟ヲ醸シ候様ノ儀有之候テハ抑條例設立ノ本
旨ニ悖リ候儀ニ付三府五港ヲ除クノ外各地方ニ於テハ可成丈ケ懇切説諭シ漸次施行ノ積ヲ
以宜敷時勢人情ノ適度斟酌ノ上取捨増減安寧保護ノ實相貫キ候様厚可致注意此旨爲心得相
違候事

第三千百廿八

明治八年五月八日内務省達

乙第五十八號

府

縣東京府

違式註違條例第四十四條但書左ノ通改正可致此旨相違候事

但陸海軍ノ諸兵隊伍ヲ組ニ夜陰行進シ及ヒ隊外士官ト雖モ非常ノ警戒アルルハ此限ニ
アラズ

第三千百廿九

明治八年七月十七日内務省達

乙第九十號

府

縣東京府

違式註違條例第四十四條但書左之通改正可致此旨相違候事

同年同省九
十號達ヲ以テ
再ヒ改正ス

夜中無提灯云々

但陸海軍ノ諸兵非常ノ警戒アル時ハ勿論平日隊伍ヲ組ニ夜陰行進及ヒ定制アル徽章ノ
服帽着用ノ節ハ單騎ト雖モ此限ニ非ラス

第三千百二十

明治六年七月廿四日司法省布達

第二百二十號

鬮犬ノ儀ハ各地方一般可爲嚴禁萬一今後違犯ノ者於有之ハ違式註違條例第四條及ヒ六十條
ニ照ラシ罰金申付候上其犬ヲ取上ケ可及打殺候條此旨各管下へ不洩様可相違候事

第三千百卅一

明治六年八月十二日司法省布達

第二百三十號

今般各縣違式註違ノ條目御布告相成候處右條目ノ儀ハ國中ノ安寧人民ノ健康ヲ警保スル所
以ニ有之候條各地方人民悉ク承知不致候テハ不相成儀ニ付戶長副戶長ノ設ケアル處ハ必ス
之ヲ揭榜シ遺漏無之様可致候事

但シ右揭示ハ三十日間揭示ノ限ニアラス候事

第三千百卅二

明治十一年五月廿七日布告

第拾四號

明治九年(九月)第百十七號布告違式註違條例第三條中無力ノ者ノ下(及ヒ贖金ヲ出ス)ヲ

同年三十三號
布告ヲ以テ改

肯セサル者ノ十四字ヲ増加候條此旨布告候事

第三千百卅三 明治十一年十月廿一日布告

第三拾三號

違式註違條例中贖金ヲ科料ト改メ同條例第三條左之通改正候條此旨布告候事

第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ資力ナキ者及ヒ科料ヲ出スコトヲ肯ンセサル者ハ拘留ニ處スル
ト左ノ如シ

違式

拘留 五日ヨリ少カラス
十日ヨリ多カラス

註違

拘留 半日ヨリ少カラス
四日ヨリ多カラス

第三千百卅四 明治十二年三月十二日達

第拾五號

内務省

使府

縣 東京府
ヲ除ク

明治十一年^十第三拾三號布告違式註違條例第三條拘留刑期計算方半日ト一日トハ時ヲ以テ
シ二日以上ハ受刑ノ初日ハ時ヲ論セヌ一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス且一日以上
ノ拘留日數ニ半日ノ端數(一日半、二日半ノ類)ヲ附ケ候儀無之ト心得ヘシ
右相達候事

第三千百卅五 明治十一年二月廿一日内務省達

乙第十五號

東京警視本署

違式罪目第十四條外國人ヲ無届ニテ止宿セシムル者ト有之候處左之通改正可致此旨相達候
事

府 縣 東京府
ヲ除ク

違式罪目

第十四條 旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿セシムル者

改定刑法

第三千百卅六 明治十三年七月十七日布告

第三十六號

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事
但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事

別冊

表

第十七類 改定刑法

紙

明治十三年七月第三十六號布告改定
刑法

刑法目錄

- 第一編 總則
 - 第一章 法例
 - 第二章 刑例
 - 第一節 刑名
 - 第二節 主刑處分
 - 第三節 附加刑處分
 - 第四節 徵償處分
 - 第五節 刑期計算
 - 第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 從犯

第九章 未遂犯罪

第十章 親屬例

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第十七類 改定刑法

- 第一章 皇室ニ對スル罪
- 第二章 國事ニ關スル罪
 - 第一節 内亂ニ關スル罪
 - 第二節 外患ニ關スル罪
- 第三章 靜謐ヲ害スル罪
 - 第一節 兇徒聚衆ノ罪
 - 第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪
 - 第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪
 - 第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪
 - 第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
 - 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪
 - 第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪
 - 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪
 - 第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪
- 第四章 信用ヲ害スル罪
 - 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

- 第二節 官印ヲ偽造スル罪
 - 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪
 - 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪
 - 第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪
 - 第六節 偽証ノ罪
 - 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪
 - 第八節 身分ヲ詐稱スル罪
 - 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
- 第五章 健康ヲ害スル罪
- 第一節 阿片烟ニ關スル罪
 - 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
 - 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪
 - 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪
 - 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪
 - 第六節 私ニ醫業ヲ爲スル罪
- 第六章 風俗ヲ害スル罪

- 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
- 第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
- 第九章 官吏瀆職ノ罪
 - 第一節 官吏公益ヲ害スル罪
 - 第二節 官吏人民ニ對スル罪
 - 第三節 官吏財産ニ對スル罪
- 第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪
 - 第一章 身體ニ對スル罪
 - 第一節 謀殺故殺ノ罪
 - 第二節 毆打創傷ノ罪
 - 第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
 - 第四節 過失殺傷ノ罪
 - 第五節 自殺ニ關スル罪
 - 第六節 撞ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
 - 第七節 脅迫ノ罪
 - 第八節 墮胎ノ罪

- 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
- 第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪
- 第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪
- 第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪
- 第十三節 祖父母父母ニ對スル罪
- 第二章 財産ニ對スル罪
 - 第一節 竊盜ノ罪
 - 第二節 強盜ノ罪
 - 第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪
 - 第四節 家資分産ニ關スル罪
 - 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
 - 第六節 贓物ニ關スル罪
 - 第七節 放火失火ノ罪
 - 第八節 決水ノ罪
 - 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
 - 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四編 違警罪

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第十四年第八十一號新舊比照法ヲ頒布ス

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期徒刑

五 有期徒刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

第六十二條ニ至ル十四年第六十七號新舊比照法ニ於テ參照ス

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一 拘留

三 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第三節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ズ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ四六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ

限リ居住セシムルヲ得

有期流刑ノ四三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從

テ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第十七類 改定刑法

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タヌ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル四人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ四人ニ給與ス但埠役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ

一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期

限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者

代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各

本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ敎師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公

權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期間間公權ヲ行
フヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ
治ムルヲ禁ス

第三十六條 流刑ノ四幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スル
ヲ得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シ
キ時間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スル
ヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ
就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

得
第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ
輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ
定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ
及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得

第四節 徵償處分
第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以
テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損
害ノ賠償ヲ免カル、ヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシ

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ

審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ト捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ四ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ四ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ四ハ假出獄ヲ許サルハト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但

本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一 死刑ハ三十年

二 無期徒刑ハ二十五年

三有期徒流刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留科料ハ二年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時

ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨ

リ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀

ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第十四年司法
省令第廿號及
ヒ十五年丙第
六號達ヲ以テ
令狀手續及ヒ
様式ヲ定ム

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦

狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス

但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑